

浦安市未就学児保育・教育施設の
適正配置等に関する調査報告書

令和8年3月

浦安市

目次	
1章 取組の概要	1
1. はじめに	2
2. これまでの経緯	3
2章 未就学児の現状	5
1. (市立・私立) 保育園、幼稚園・認定こども園の沿革	6
2. 未就学児に対する公的支援策の経緯	8
3. 就学前児童数の推移	10
4. 就学前児童数が減少している要因	11
3章 未就学児保育・教育施設の状況	13
1. 保育施設	14
2. 幼稚園・認定こども園	22
3. 未就学児保育・教育施設の利用状況	29
4. 園児数の現状整理と考察	38
5. 【参考】その他の保育等サービスの利用状況	41
4章 未就学児保育・教育施設のニーズ量・利用者数の将来推計	43
1. 未就学児童数の将来推計	44
2. 未就学児保育・教育施設のニーズ量・利用者数の将来推計	46
3. 推計結果の整理・考察	50
5章 利用者のニーズ	51
1. 利用者向けアンケート結果	52
2. 0～2歳児向けアンケート結果	64
3. 利用者ニーズの整理と考察	75
6章 未就学児保育・教育施設のコスト分析	77
1. 市立保育園の運営コスト	78
2. 市立幼稚園・認定こども園の運営コスト	80
3. 各園の改修工事等の状況	82
4. 運営コストに関する現状の整理・考察	83
7章 未就学児保育・教育施設の適正配置等に向けた課題・調整事項	84
1. 園児数の動向からの考察	85
2. 園の経営的視点からの考察	88
3. 各地域における特徴的な課題の抽出	90
4. 今後新たに顕在化すると考えられる課題	91
8章 改革の方向性の検討	92
1. 改革全体の方向性	93
2. 適正配置等によって目指す姿	94
3. 適正配置の基本的な考え方	95
4. 適正配置等の考え方	97
5. 今後の進め方	97
資料編	98
1. 利用者向けアンケート結果詳細	99
2. 0～2歳児向けアンケート結果詳細	112
3. 「未就学児保育・教育施設の適正配置検討委員会」委員名簿	137

1 章 取組の概要

1.はじめに

報告書の趣旨

本市では、埋め立てによる計画的なまちづくりを行っていくなかで、幼小連携を重視し、市立幼稚園と小学校との一体的な整備を推進してきました。しかし、平成11年以降は男女共同参画社会の推進等により、共働きの世帯が右肩上がりが増え続け、また、令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化の影響もあり、保育所の需要の高まりに反し、市立幼稚園・認定こども園の園児数は急速に減少している状況です。

このような状況下において、本市では、市内すべての就学前保育・教育施設関係者が育ってほしいこども像を共有し、日々の保育・教育活動の充実を目指すとともに、小学校へのより円滑な接続を図るための基本となる『浦安市就学前「保育・教育」指針』を策定し、幼・保・小連携に注力してきたところです。

そして、これまでの取組を、さらに力強く推進するため、幼稚園や認定こども園の適正人数の確保を目標としながら、未就学児保育・教育施設の連携をさらに強化します。また、多様化する保護者のニーズに対応するために未就学児保育・教育施設の適正配置や今後のあり方、方向性等を示します。さらに学識経験者や施設の代表者などからなる検討委員会を設置し、幅広く意見を聞きながら、「浦安市未就学児保育・教育施設の適正配置等に関する調査報告書」を取りまとめます。

【本書における用語の説明】

元町	当代島、猫実、北栄、堀江、富士見の5地区
中町	海楽、美浜、入船、今川、富岡、東野、弁天、舞浜の8地区
新町	日の出、明海、高洲の3地区
保育施設	保護者の就労、疾病等により、保育を必要とするこどもが通園する施設。認可保育所、小規模保育事業、保育ママ ※認可外保育施設、企業主導型保育施設は除く
幼稚園	保育を必要としないこどもが通園する施設
幼稚園型認定こども園	幼稚園に保育所的機能を併せ持つ施設
幼保連携型認定こども園	幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能をあわせ持つ施設
1号認定	満3歳以上で幼児教育を希望される方
2号認定	満3歳以上で保育を希望される方

2.これまでの経緯

令和2年度に本市がとりまとめた「浦安市未就学児の保育・教育環境のあり方基本方針」の方向性にて、「保育・教育施設の適正配置の検討」が示されました。具体的方策として、①施設の統合時における利用者の配慮と、②市立幼稚園・認定こども園の適正配置の検討が挙げられています。

①については、今後、市立幼稚園・認定こども園の統合を行うこととなった場合には、統合後の通園時間などを考慮して進めていくこと、既存施設の統合は、現在そこに通園している人、近い将来そこに通園することを考えている人にとって、極めて大きく身近な問題であるため、相應の時間をかけるなど、慎重かつ丁寧に進めていくこととしました。

②については、本市の小中学校に関しても、「浦安市学校規模適正化基本方針」において、各学年で複数学級が適正規模であると定めている¹ほか、地域によってニーズが異なるため、市立幼稚園・認定こども園においても、統合により施設の配置などを変更する場合には、適正規模と地域ニーズを踏まえて進めていくこととしました。

方向性「保育・教育施設の適正配置の検討」

- ① 施設の統合時における利用者への配慮
- ② 市立幼稚園・認定こども園の適正配置の検討

(出所)浦安市未就学児の保育・教育環境のあり方基本方針 P69

また、令和4年度にとりまとめた「市立保育園の配置等に関するあり方」では、保育園よりも幼稚園で定員割れの比率が高くなっていることを踏まえ、ニーズ量の変化に的確に対応していくための中長期的な対応策として、「保育園と幼稚園の両方のニーズを踏まえた施設設置の検討」が示されました。

【中長期的な対応策】

○保育園と幼稚園の両方のニーズを踏まえた施設設置の検討

保育園と幼稚園のニーズ量、特に幼稚園のニーズ量が現状でも低く、また低下傾向が続いていることを考慮すると、市として市立の就学前児童施設全体のあり方についても議論していく必要があります。

対応策として、例えば保育園と幼稚園の両方のニーズを満たすような施設の設置が考えられます。実現までのハードルは高いかもしれませんが、経営資源の有効活用という面も含めて、俯瞰的な見地からこのような取組についても検討していく必要があるといえます。

(出所)市立保育園の配置等に関するあり方 P23

¹ 小学校の適正規模：12～24学級（1学年あたり2～4学級）、中学校の適正規模：12～18学級（1学年あたり4～6学級）と定めている。

令和 6 年度からは、「未就学児保育・教育施設の適正配置に関する検討委員会」を設置し、市内の保育・教育施設の利用者数推移や将来推計、利用者ニーズ調査といった各種調査結果を踏まえ、適正配置の基本的な考え方や方向性を検討してきました。

また、保育・教育施設を取り巻く環境が急速に変化しており、市立幼稚園・認定こども園の園児数が急速に減少している状況であることを踏まえ、令和 7 年度は 0～2 歳児がいる家庭を対象とした園ニーズの再調査などを実施し、多様化する保護者ニーズに対応するための方向性を改めて検討することとしました。

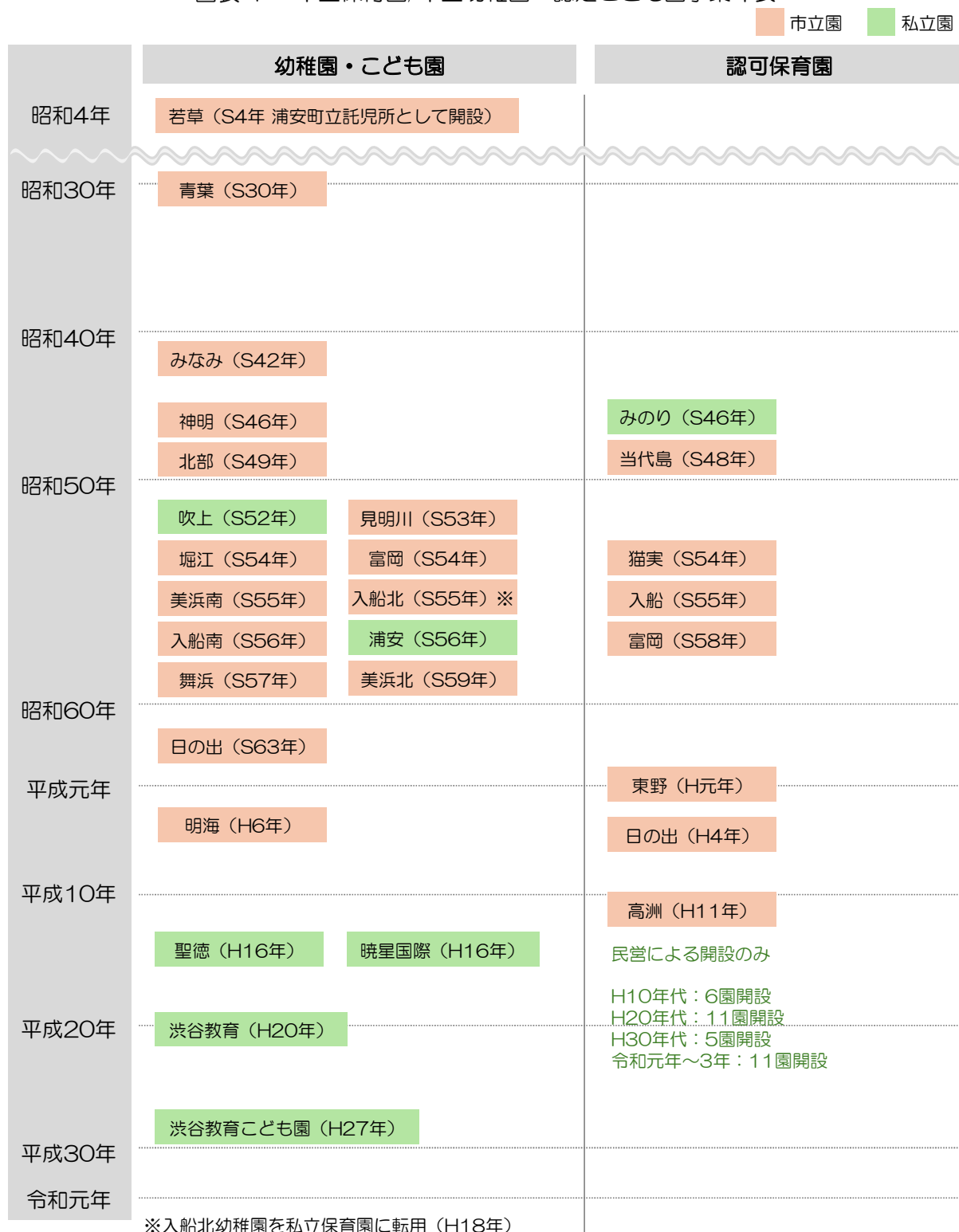
2章 未就学児の現状

1. (市立・私立) 保育園、幼稚園・認定こども園の沿革

本市では、昭和 50 年代前半以降の埋め立て事業による大規模な住宅開発に伴い、就学前児童数が増加してきたことから、保育園・幼稚園を計画的に整備してきました。

また、共働き世帯の増加等による保育ニーズの高まりに伴い、市立及び私立の保育園の整備を進めてきました。市立幼稚園 11 園については、平成 27 年から令和元年にかけて段階的に認定こども園へ移行してきました。

図表 1 市立保育園/市立幼稚園・認定こども園事業年表



図表 2 私立保育・教育施設の開設年

私立認可保育所

園名	開設年
みのり保育園	昭和46年
弁天保育園	平成15年
ベネッセ海園の街保育園	平成15年
浦安駅前保育園	平成16年
ふたば保育園	平成17年
しおかぜ保育園	平成18年
ポピンズナーサリースクール新浦安	平成18年
入船北保育園	平成18年
愛和元町保育園	平成23年
アスク舞浜保育園	平成23年
新浦安こどもの木保育園	平成23年
たかし保育園新浦安	平成24年
アップルナーサリー浦安保育園	平成26年
AIAI NURSERY 浦安	平成27年
浦安わかばの森保育園	平成27年
ポピンズナーサリースクール浦安	平成27年
浦安どろんこ保育園	平成28年
舞浜こどもの木保育園	平成29年
そらまめ保育園新浦安駅前	平成29年
風花学園	平成30年
こどものじかん保育園	平成30年
新浦安きらきら保育園	平成30年
めぶき保育園	平成31年
さくら保育園	平成31年
ソポ・ラプシ保育園	令和2年
浦安いろどり保育園	令和2年
スクルドエンジェル保育園猫実園	令和2年
AIAI NURSERY 浦安北栄	令和2年
浦安堀江雲母保育園	令和2年
ソラストうらやす保育園	令和2年
堀江こどもの木保育園	令和2年
浦安富士見雲母保育園	令和2年
トレジャーキッズうらやす保育園	令和3年
浦安きらきら保育園	令和3年
グローバルキッズ浦安園	令和3年

私立幼保連携型認定こども園

園名	開設年
渋谷教育学園浦安こども園	平成27年

私立小規模保育事業

園名	開設年
エンゼルマミー	平成27年
ことのは保育園	平成31年
スクルドエンジェル保育園浦安園	令和2年
浦安わかば保育園	令和2年
保育室ポケットママ	令和2年
フェニックスキッズ新浦安	令和2年
MIRATZ新浦安保育園	令和2年

私立家庭的保育事業(保育ママ)

園名	開設年
猫実3丁目保育室	平成23年
新浦安よつば保育室	平成23年
堀江一野田保育室	平成25年
入船五丁目保育室	平成25年
富士見保育室	平成27年

私立幼稚園

園名	開設年
吹上幼稚園	昭和52年
浦安幼稚園	昭和56年
聖徳大学附属浦安幼稚園	平成16年
暁星国際学園新浦安幼稚園	平成16年
渋谷教育学園浦安幼稚園	平成20年

2.未就学児に対する公的支援策の経緯

昭和60年の男女雇用機会均等法の成立等を契機として女性の社会進出が進むなか、国と同様に本市でも子育てをしながら働き続けるための保育需要が増加しました。

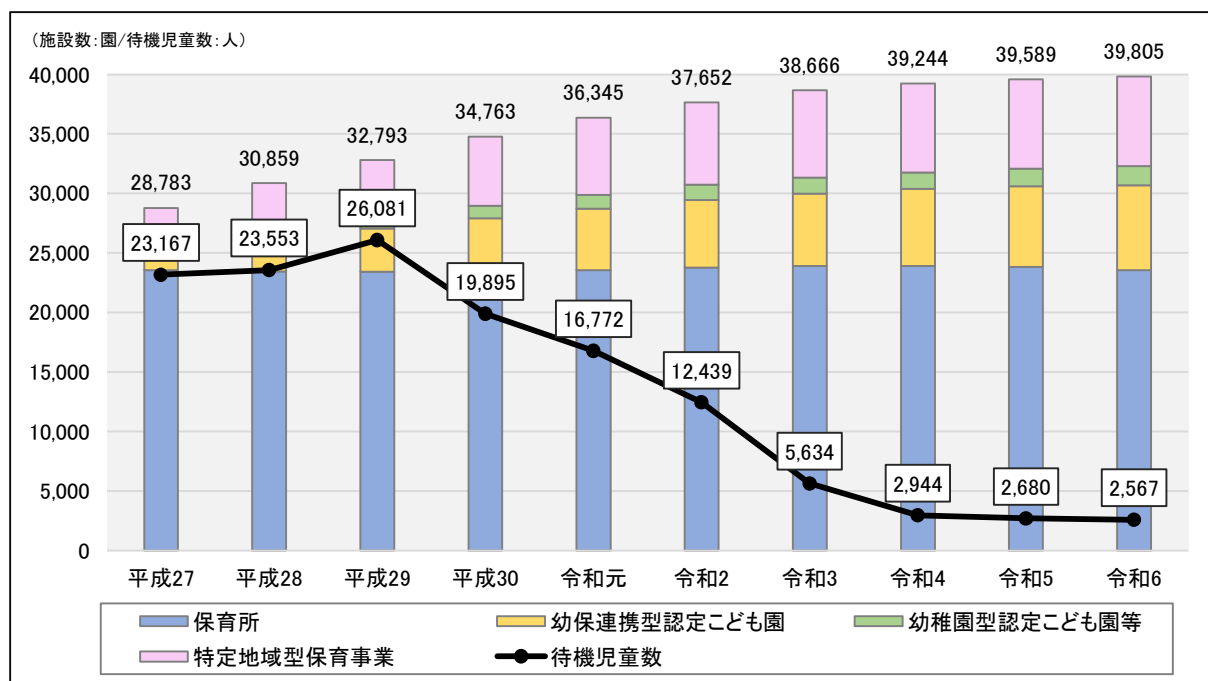
保育需要の多様化に対応するため、国では平成6年に「エンゼルプラン」、平成11年に「新エンゼルプラン」、平成13年には「待機児童ゼロ作戦」が策定され、本市においても保育の量的拡大、多様な保育の充実などの取り組みを進めてきました。なかでも保育の受け皿整備の点では、民営化による保育園の新設や小規模保育事業の推進により、様々な事業所が参入し保育の量を確保してきました。

こうした背景の中、少子化の進行、女性の社会進出、多様な保育ニーズへの対応といった課題解決のため、平成18年には「認定こども園制度」がスタートしました。これは、幼稚園と保育所の両方の機能や特徴をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設として、質の高い幼児教育・保育の一体的な提供を目指すものです。

さらに、子育て世帯の経済的負担軽減と質の高い幼児教育・保育の機会均等を図ることを目的として、平成27年には「子ども・子育て支援新制度」が施行され、その制度の一環として、令和元年10月から「幼児教育・保育の無償化」が開始されました。これにより、保育施設や私立幼稚園の利用の高まりに繋がりました。

全国的には受け皿の整備が進むなか、出生数の減少も相まって、待機児童は一部の地域を除き解消に向かうなど一定の成果をあげたことから、国の「子ども未来戦略」においては、幼児教育・保育については量の拡大から質の向上へと政策の重点が移されており、本市においても地域のニーズに対応した質の高い教育・保育の確保・充実を図る必要があります。

図表3 全国の保育所等及び待機児童数の推移



(出所)こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ」

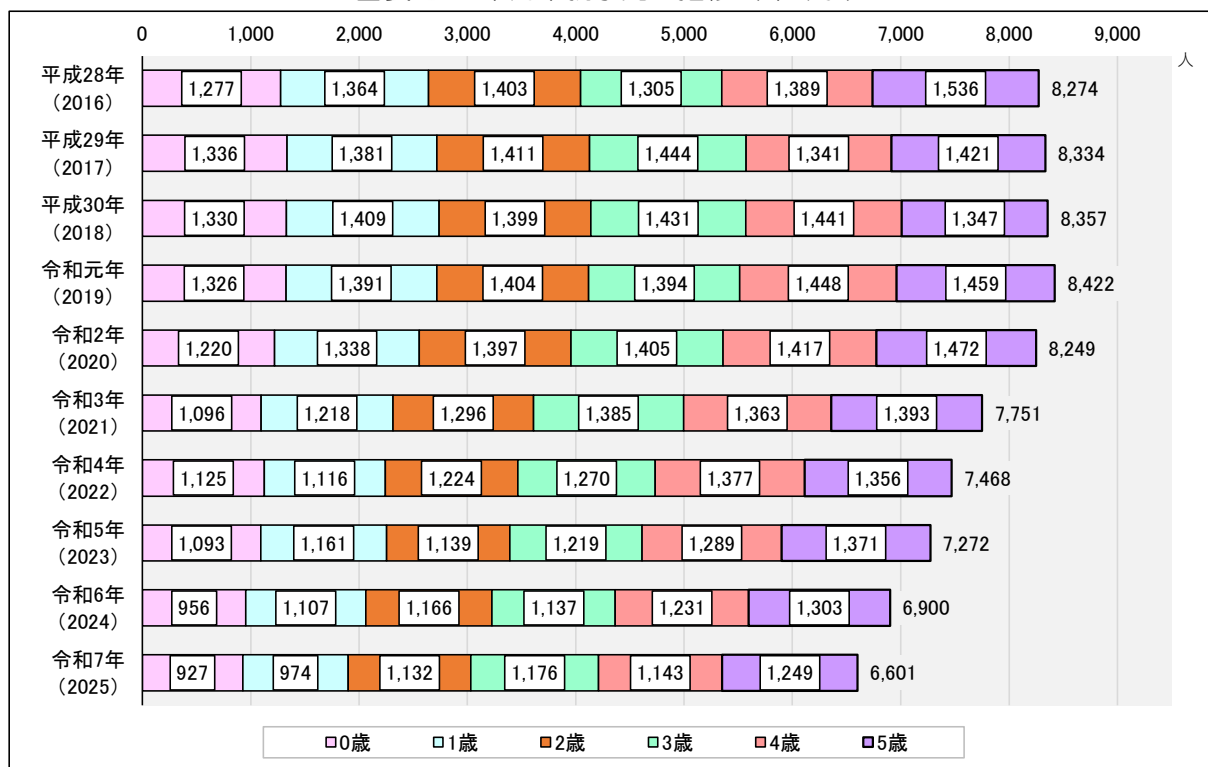
図表 4 国および市の保育事業等

	社会の動き	国の動向	市事業
S60		男女雇用機会均等法の成立	
H3		育児休業等に関する法律	
H6		エンゼルプラン 緊急保育対策5か年事業	
H9	以降、共働き世帯が専業主婦世帯を上回って推移		
H11		新エンゼルプラン	
H12		保育所運営の規制緩和 (民間企業やNPOによる参入が可能)	
H13		待機児童ゼロ作戦	
H14			待機児童対策として緊急保育5か年計画を策定し、新設園の整備を推進 子育て支援の拠点として、子育て支援センター/うらやすファミリー・サポート・センター/こども家庭支援センター設置
H15		次世代育成支援対策推進法の制定	民間企業が運営する保育園を開園
H17	出生数110万人割れ		
H18	女性就業率60%超	「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が施行され、認定こども園制度が始まる	こどもを短期間養育する事業として、子育て短期支援事業(こどもショートステイ)開始
H19		「子どもと家族を応援する日本」重点戦略 「仕事と家庭の調査(ワークライフバランス)憲章」	
H20		新待機児童ゼロ作戦	
H21			全てのこどもが等しく良質な保育・教育を受けられるよう就学前「保育・教育」指針を策定 「子育て総合窓口」開設
H22			うらやす子育て支援パスポート事業開始
H23			保育ニーズの高い0~2歳の保育施設を増やすため、家庭的保育事業をスタート
H24		子ども・子育て関連3法の制定	
H25		待機児童解消加速化プラン	
H26	女性就業率70%超		子育てによるストレスや育児不安などを解消していくため、各種事業を充実 「こんにちはあかちゃんルーム」開設 「浦安子育て情報サイトMY浦安」運営開始
H27		子ども・子育て支援新制度	
H28	出生数100万人割れ	ニッポン一億総活躍プラン	子育て支援ギフトの贈呈/子育て応援ルーム開設
H29	待機児童数ピーク(約2.6万人)	子育て安心プラン 働き方改革実行計画	
R1	出生数90万人割れ	幼児教育・保育の無償化	3~5歳児クラスのすべてのこどもの利用料が無償となる
R2		新子育て安心プラン	多様化する保護者のニーズに対応できるよう、「未就学児の保育・教育施設のあり方基本方針」を策定
R3			保育所整備により待機児童数がゼロとなる
R4	出生数80万人割れ		安心して子育てができる環境を整備するため、「認可保育施設待機児童ゼロ維持のための対応方針」、「市立保育園の配置等に関するあり方」を策定
R5		こども家庭庁発足 子ども基本法の施行 こども未来戦略	
R6		保育政策の新たな方向性	保育所内で病児保育事業を実施
R7		こども未来戦略 加速化プラン	

3.就学前児童数の推移

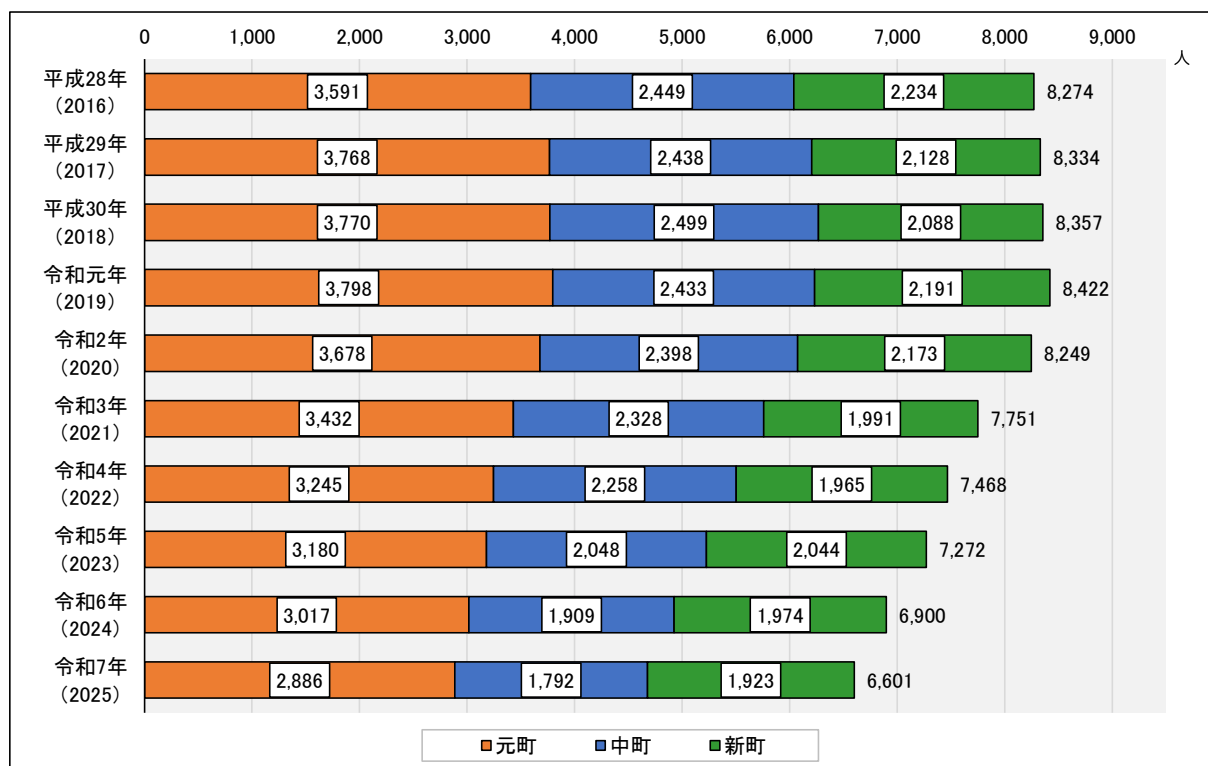
本市の就学前児童数は、令和2年以降減少し、令和元年から令和7年までの6年間で1,821人減少しています（▲21.6%）。年齢別でみると、すべての年齢で減少しています。地域別にみると、いずれの地域も減少傾向にあります。

図表5 市内未就学児の推移（年齢別）



(出所)住民基本台帳 ※各年4月1日時点

図表6 市内未就学児の推移（地域別）

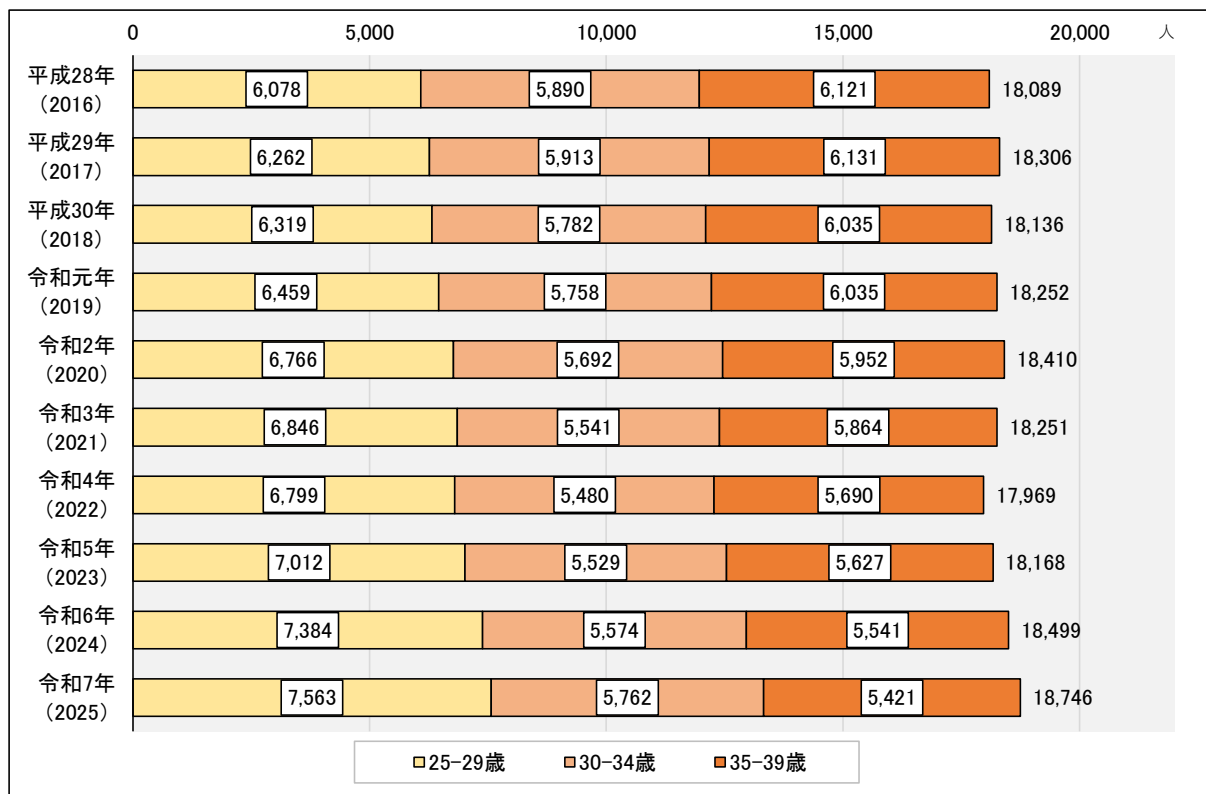


(出所)住民基本台帳 ※各年4月1日時点

4.就学前児童数が減少している要因

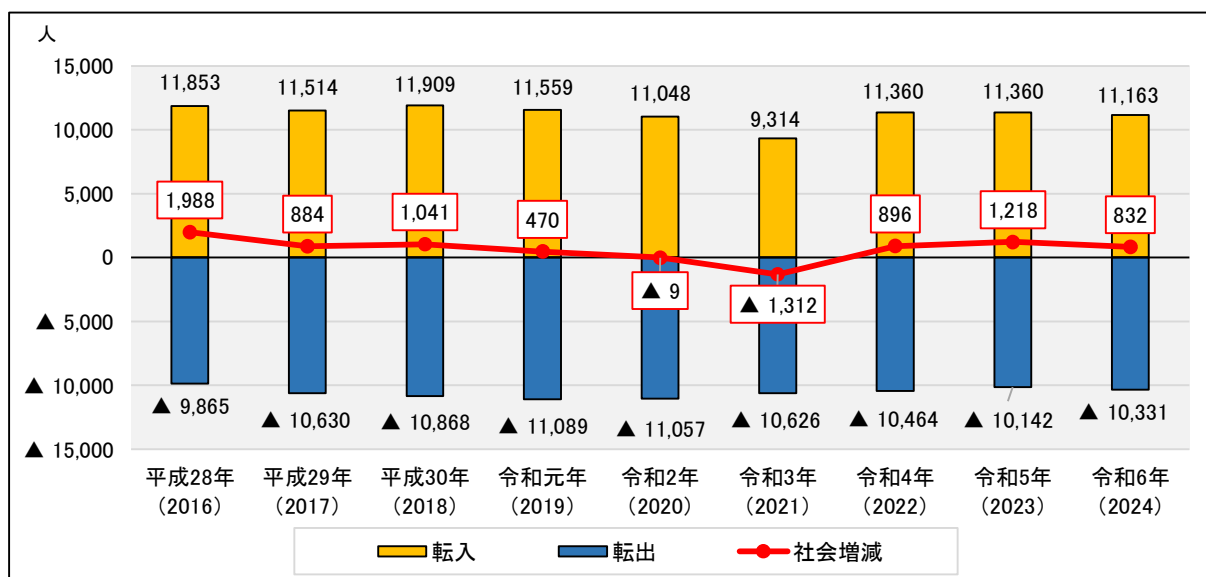
本市における人口動態をみると、近年、出産が多い年代（25～39歳）にあたる女性の人口が増加傾向にあります。また、コロナ禍が落ち着き始めた令和4年以降、転入者が転出者を上回る「社会増加」も継続しており、令和6年は832人の転入超過となっています。実際、都市部への交通アクセスの良さや生活利便性の高さなどを背景に、本市には若い世代の転入が続いており、都市としての吸引力は一定の水準を保っています。

図表7 本市の25歳～39歳女性の推移



(出所)住民基本台帳 ※各年4月1日時点

図表8 本市の転入数・転出数、社会増減の推移

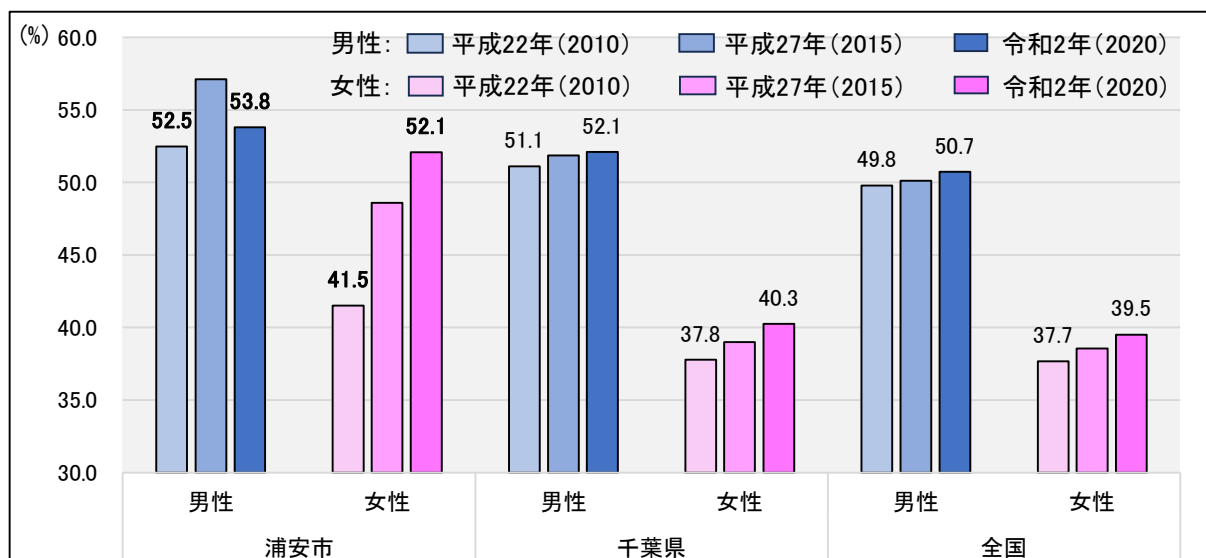


(出所)千葉県毎月常住人口調査

しかしながら、実態としては未就学児の人口は減少傾向にあります。その背景には、いくつかの要因があると考えられます。

注目すべきは、本市における未婚率の高さです。本市の女性の未婚率は、平成22年から令和2年の間で10%以上上昇しており、千葉県や全国と比べて上昇傾向が強くなっています。

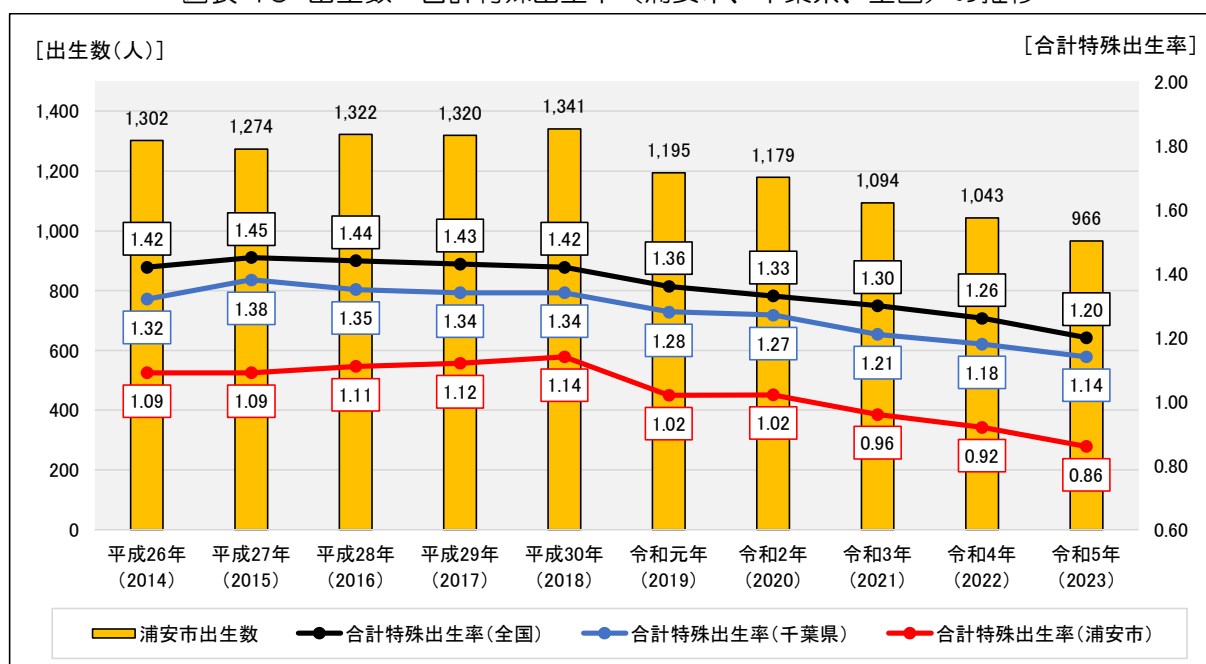
図表9 未婚率の推移（浦安市、千葉県、全国）



(出所)国勢調査

本市の出生数は近年減少傾向にあり、令和5年は966人と、1,000人を下回りました。合計特殊出生率についても、全国や千葉県を大きく下回って推移しており、子どもが生まれる割合が少ないことがわかります。本市の合計特殊出生率が全国や千葉県と比較して低いことは、浦安の地理的特性や住宅事情などにより単身の若年層にも暮らしやすいまちであることが理由の1つで、本市の特徴と言えます。

図表10 出生数・合計特殊出生率（浦安市、千葉県、全国）の推移



(出所)千葉県衛生統計年報

3章 未就学児保育・教育施設の状況

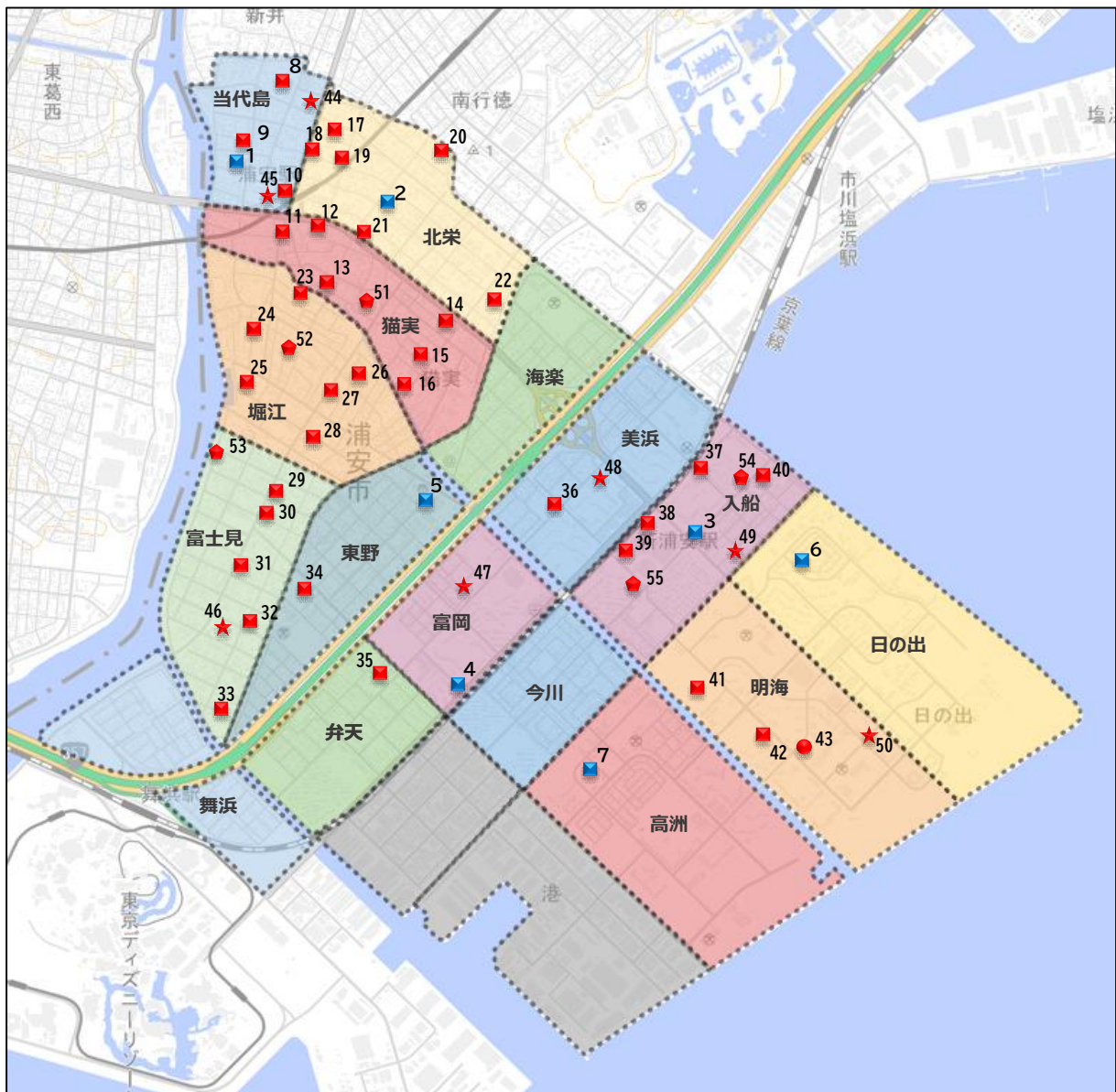
1. 保育施設

(1) 概要

本市の保育施設は、市立保育園が7園、私立保育園が35園、幼保連携型認定こども園が1園、小規模保育事業が7事業所、家庭的保育事業（保育ママ）が5事業所あります。

立地状況をみると、市立保育園は、元町に2園、中町に3園、新町に2園とバランスよく立地しています。私立保育施設は、就学前児童の人数が比較的多い元町や、京葉線新浦安駅周辺などに多く立地しています。

図表 11 本市の保育施設



(出所) 地理院地図をもとに株式会社 株式会社 総合研究所作成

- | | |
|-------------|-----------------|
| 【市立】 | 【私立】 |
| ■ 認可保育所 | ■ 認可保育所 |
| | ● 幼保連携型認定こども園 |
| | ★ 小規模保育事業 |
| | ◆ 家庭的保育事業（保育ママ） |

市立認可保育所

番号	地域	施設名
1	当代島	当代島保育園
2	北栄	猫実保育園
3	入船	入船保育園
4	富岡	富岡保育園
5	東野	東野保育園
6	日の出	日の出保育園
7	高洲	高洲保育園

私立認可保育所

番号	地域	施設名
8	当代島	トレジャーキッズうらやす保育園
9	当代島	浦安きらきら保育園
10	当代島	ソポ・ラブソ保育園
11	猫実	浦安駅前保育園
12	猫実	浦安いろどり保育園
13	猫実	AIAI NURSERY 浦安
14	猫実	スクルドエンジェル保育園猫実園
15	猫実	みのり保育園
16	猫実	めぶき保育園
17	北栄	浦安わかばの森保育園
18	北栄	アップルナーサリー浦安保育園
19	北栄	グローバルキッズ浦安園
20	北栄	AIAI NURSERY 浦安北栄
21	北栄	ポピンズナーサリースクール浦安
22	北栄	ふたば保育園
23	堀江	浦安堀江雲母(きらら)保育園
24	堀江	ソラストうらやす保育園
25	堀江	愛和元町保育園
26	堀江	堀江こどもの木保育園
27	堀江	浦安どろんこ保育園
28	堀江	風花学園
29	富士見	浦安富士見雲母(きらら)保育園
30	富士見	舞浜こどもの木保育園
31	富士見	さくら保育園
32	富士見	しおかぜ保育園
33	富士見	アスク舞浜保育園
34	東野	こどものじかん保育園
35	弁天	弁天保育園
36	美浜	新浦安こどもの木保育園
37	入船	たかし保育園新浦安
38	入船	ポピンズナーサリースクール新浦安
39	入船	そらまめ保育園新浦安駅前
40	入船	入船北保育園
41	明海	新浦安きらきら保育園
42	明海	ベネッセ海園の街保育園

私立幼保連携型認定こども園

番号	地域	施設名
43	明海	渋谷教育学園浦安こども園

私立小規模保育事業

番号	地域	施設名
44	当代島	スクルドエンジェル保育園浦安園
45	当代島	浦安わかば保育園
46	富士見	保育室ポケットママ
47	富岡	ことのは保育園
48	美浜	フェニックスキッズ新浦安
49	入船	エンゼルマミー
50	明海	MIRATZ(ミラッツ)新浦安保育園

私立家庭的保育事業(保育ママ)

番号	地域	施設名
51	猫実	猫実3丁目保育室
52	堀江	堀江一野田保育室
53	富士見	富士見保育室
54	入船	入船五丁目保育室
55	入船	新浦安よつば保育室

(2) 園児数

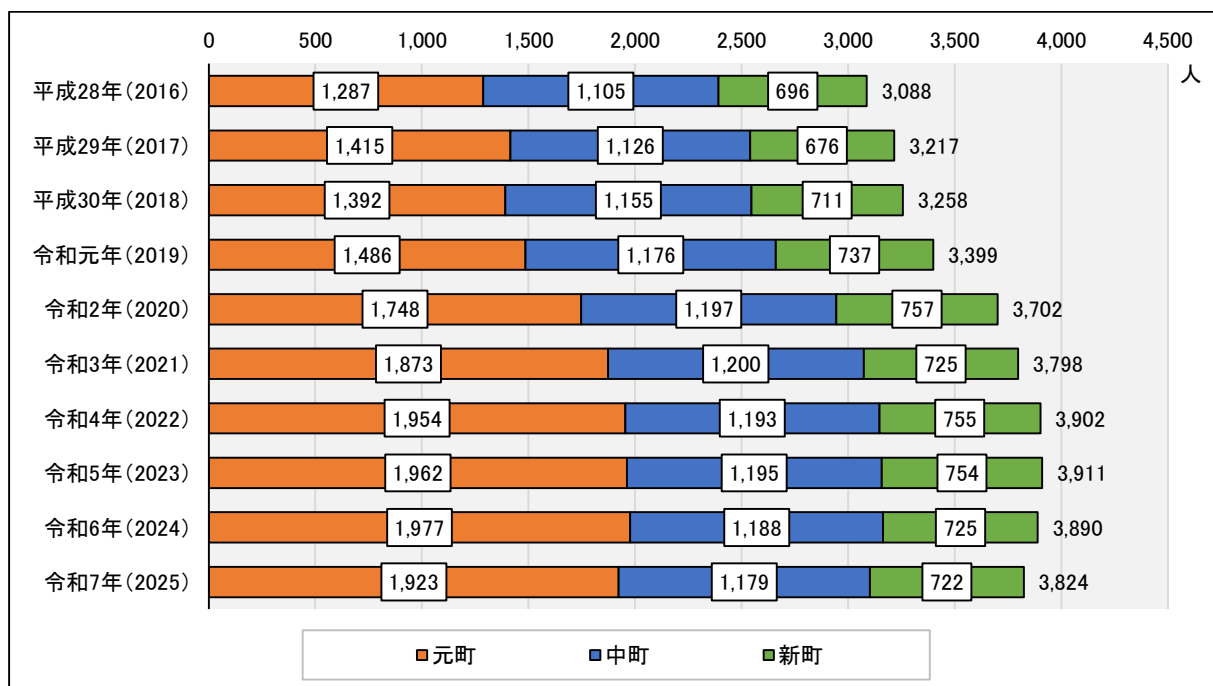
保育施設の園児数は直近10年で緩やかな増加傾向を示しています。平成28年には3,088人であった園児数が令和元年には3,399人に増加、さらに令和2年には幼児教育・保育の無償化が開始されたことを契機として園児数はさらに増加し、3,702人となりました。令和5年には3,911人とピークを迎えましたが、その後はやや減少傾向に転じ、令和7年には3,824人となっています。

地域別にみると、元町の増加が最も顕著です。平成28年には1,287人であった園児数は、令和7年には1,923人となり、636人(49.4%)増加しています。中町は平成28年の1,105人から令和7年には1,179人となり、74人(約6.7%)の増加となっています。新町では、平成28年の696人から令和7年には722人となり、26人(約3.7%)の増加にとどまっています。

年齢別にみると、1歳児から5歳児の園児数が増加している一方で、0歳児の園児数は減少傾向にあります。平成28年から令和7年にかけての推移をみると、0歳児は262人から219人へと43人(約16.4%)減少しています。一方で、1歳児から3歳児については30%以上の増加がみられます。1歳児は482人から636人へと154人(約32.0%)増加、2歳児も546人から763人へと217人(約39.7%)増加、3歳児も587人から768人へと181人(約30.8%)増加しています。4歳児は571人から720人へと149人(約26.1%)増加しており、5歳児は640人から718人へと78人(約12.2%)の増加となっています。

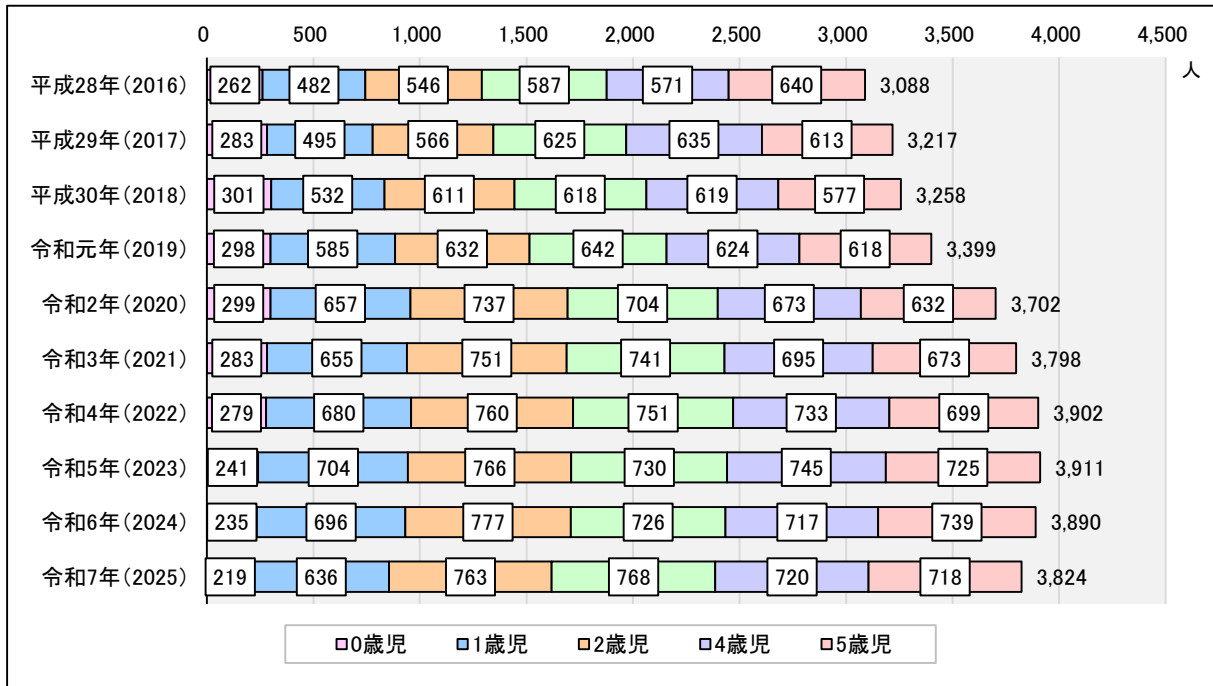
市立/私立別では、市立園は平成30年以降、ほぼ横ばいで推移している一方で、私立園は大きく増加しています。市立園の園児数が横ばいで推移している背景には、定員が常に充足されている状況であることが要因の一つとして挙げられます。一方で、私立保育園は、本市が過去の待機児童解消を目的として施設整備を積極的に進めてきたことから増加しています。

図表 12 園児数の推移(地域別)



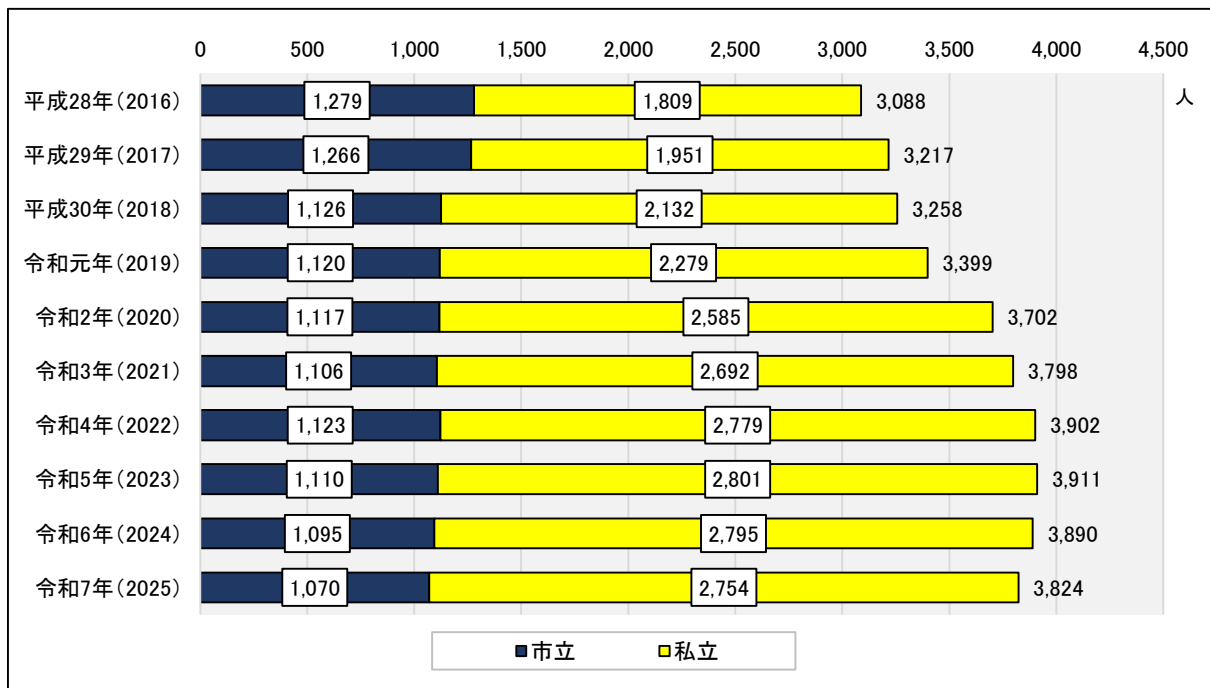
※各年4月1日時点

図表 13 園児数の推移（年齢別）



※各年4月1日時点

図表 14 園児数の推移（市立・私立別）



※各年4月1日時点

(3) 市立保育園の現状

市立保育園は、昭和50年代～平成初期にかけて段階的に整備されてきました。

園児数が最も多いのは入船保育園で、0歳～5歳児を合わせて231人が在籍しています。また、高洲保育園も223人が在籍しています。

いずれの園も、定員数に近い園児数が在籍しています。

図表 15 市立保育園の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	当代島保育園	当代島	昭和48年	97人	112人
2	猫実保育園	北栄	昭和54年	95人	103人
3	入船保育園	入船	昭和55年	231人	250人
4	富岡保育園	富岡	昭和58年	119人	144人
5	東野保育園	東野	平成元年	161人	172人
6	日の出保育園	日の出	平成4年	144人	168人
7	高洲保育園	高洲	平成11年	223人	233人

※園児数・定員数は令和7年(2025年)4月1日時点

園児数の推移をみると、令和3年と比較した市立保育園全体の園児数は、▲3.3%の減少となっています。各園の定員の見直しにより、当代島保育園の園児数は減少(▲29.2%)し、建替えにより定員を増やした入船保育園は増加(19.7%)しています。

図表 16 市立保育園の園児数推移

	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和3→7年 増減率	
1	当代島保育園	137	128	108	103	97	▲29.2
2	猫実保育園	105	105	100	101	95	▲9.5
3	入船保育園	193	213	235	228	231	19.7
4	富岡保育園	145	139	136	131	119	▲17.9
5	東野保育園	171	158	160	161	161	▲5.8
6	日の出保育園	140	156	151	151	144	2.9
7	高洲保育園	215	224	220	220	223	3.7
	合計	1,106	1,123	1,110	1,095	1,070	▲3.3

※各年4月1日時点

(4) 職員の配置状況（配置人数）

保育施設の職員配置は、児童が安全かつ心身ともに健やかに育てられるよう、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」第33条で定められており、本市の保育施設では、この基準が示す対数に応じて職員が配置されています。

配置基準は、こどもの年齢や人数に応じて保育士の数が定められたもので、制定以来、社会状況や保育ニーズの変化に合わせて見直されています。近年では、子育て支援政策の拡充に伴い、2024年には3歳児の配置基準が保育士1人あたり20人から15人に、2025年には4歳児・5歳児の配置基準が保育士1人あたり30人から25人に変更されました。これにより、こどもの発達に合わせて、より細かな保育が実現しやすくなっています。

保育施設の職員配置基準
(保育士1人あたりのこどもの人数)

クラス	市立	私立
0歳児	3人	
1歳児	5人※	6人※
2歳児	6人	
3歳児	15人	
4歳児	25人	
5歳児	25人	

※市立の配置基準は5対1、国の配置基準は6対1

図表 17 園別の職員配置数

(人)

園名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
当代島	定員	9	15	18	20	25	25	112
	園児数	7	15	17	20	18	20	97
	職員	3	3	3	2	1	1	13
猫実	定員	11	15	17	17	21	22	103
	園児数	11	13	17	14	18	22	95
	職員	4	3	3	2	1	1	14
入船	定員	12	30	34	58	58	58	250
	園児数	11	30	33	50	53	54	231
	職員	4	6	6	4	4	4	28
富岡	定員	9	24	24	29	29	29	144
	園児数	3	18	24	26	20	28	119
	職員	3	5	4	2	2	2	18
東野	定員	14	30	32	32	32	32	172
	園児数	5	30	32	31	32	31	161
	職員	3	6	6	3	2	2	22
日の出	定員	9	33	33	31	31	31	168
	園児数	3	25	32	30	29	25	144
	職員	2	7	6	2	2	2	21
高洲	定員	18	40	42	43	45	45	233
	園児数	14	40	40	42	43	44	223
	職員	5	8	7	4	2	2	28
市立 保育園 合計	定員	82	187	200	230	241	242	1,182
	園児数	54	171	195	213	213	224	1,070
	職員	24	38	35	19	14	14	144

※令和7年(2025年)4月1日時点

(5) 【参考】私立保育施設の現状

① 私立保育園

私立保育園は 35 園あります。増大する保育ニーズに対応し、待機児童を解消するために、平成 20 年代から認可保育所を急速に増やしました。その結果、本市の待機児童数は令和 3 年に 0 人となりました。

園児数は、いくつかの園では定員に余裕がありますが、多くの園は定員のおおよそが埋まっている状況です。

図表 18 私立保育園の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	トレジャーキッズうらやす保育園	当代島	令和 3 年	49 人	60 人
2	浦安きらきら保育園	当代島	令和 3 年	64 人	67 人
3	ソポ・ラプシ保育園	当代島	令和 2 年	46 人	53 人
4	浦安駅前保育園	猫実	平成 16 年	62 人	64 人
5	浦安いろどり保育園	猫実	令和 2 年	63 人	72 人
6	AIAI NURSERY 浦安	猫実	平成 27 年	29 人	41 人
7	スクルドエンジェル保育園猫実園	猫実	令和 2 年	62 人	82 人
8	みのり保育園	猫実	昭和 46 年	152 人	177 人
9	めぶき保育園	猫実	平成 31 年	30 人	42 人
10	浦安わかばの森保育園	北栄	平成 27 年	57 人	78 人
11	アップルナースリー浦安保育園	北栄	平成 26 年	49 人	62 人
12	グローバルキッズ浦安園	北栄	令和 3 年	56 人	80 人
13	AIAI NURSERY 浦安北栄	北栄	令和 2 年	57 人	80 人
14	ポピンズナーサリースクール浦安	北栄	平成 27 年	110 人	124 人
15	ふたば保育園	北栄	平成 17 年	83 人	110 人
16	浦安堀江雲母保育園	堀江	令和 2 年	40 人	60 人
17	ソラストうらやす保育園	堀江	令和 2 年	35 人	50 人
18	愛和元町保育園	堀江	平成 23 年	157 人	179 人
19	堀江こどもの木保育園	堀江	令和 2 年	43 人	60 人
20	浦安どろんこ保育園	堀江	平成 28 年	61 人	70 人
21	風花学園	堀江	平成 30 年	36 人	40 人
22	浦安富士見雲母保育園	富士見	令和 2 年	52 人	62 人
23	舞浜こどもの木保育園	富士見	平成 29 年	51 人	64 人
24	さくら保育園	富士見	平成 31 年	97 人	114 人
25	しおかぜ保育園	富士見	平成 18 年	94 人	110 人
26	アスク舞浜保育園	富士見	平成 23 年	63 人	65 人
27	こどものじかん保育園	東野	平成 30 年	53 人	56 人
28	弁天保育園	弁天	平成 15 年	131 人	131 人
29	新浦安こどもの木保育園	美浜	平成 23 年	41 人	53 人
30	たかし保育園新浦安	入船	平成 24 年	54 人	70 人
31	ポピンズナーサリースクール新浦安	入船	平成 18 年	154 人	159 人
32	そらまめ保育園新浦安駅前	入船	平成 29 年	69 人	78 人
33	入船北保育園	入船	平成 18 年	126 人	131 人
34	新浦安きらきら保育園	明海	平成 30 年	66 人	69 人
35	ベネッセ海園の街保育園	明海	平成 15 年	52 人	53 人

※園児数・定員数は令和 7 年(2025 年)4 月 1 日時点

② 幼保連携型認定こども園

私立幼保連携型認定こども園は1園あり、定員数に近い園児数が在籍しています。

図表 19 私立幼保連携型認定こども園の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	渋谷教育学園浦安こども園	明海	平成27年	221人	223人

※園児数・定員数は令和7年(2025年)4月1日時点

③ 小規模保育事業

小規模保育事業は、平成27年4月から始まった子ども・子育て支援新制度の中で、市町村の認可事業（地域型保育事業）の一つとして新たに作られました。受け入れクラスは原則として0～2歳児クラス、利用定員は6人～19人と定められています。

定員に対する園児数は、園によってばらつきがみられます。

図表 20 私立小規模保育事業の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	スクルドエンジェル保育園浦安園	当代島	令和2年	7人	14人
2	浦安わかば保育園	当代島	令和2年	8人	11人
3	保育室ポケットママ	富士見	令和2年	5人	12人
4	フェニックスキッズ新浦安	美浜	令和2年	11人	19人
5	エンゼルマミー	入船	平成27年	9人	12人
6	ことのは保育園	富岡	平成31年	11人	19人
7	MIRATZ新浦安保育園	明海	令和2年	16人	19人

※園児数・定員数は令和7年(2025年)4月1日時点

④ 家庭的保育事業（保育ママ）

家庭的保育事業（保育ママ）は、市が認定した保育ママの自宅などで、家庭的な雰囲気の中で保育を行う施設です。受け入れクラスは0～2歳児クラス、定員は5人となっています。

いずれの施設も4人もしくは5人在籍しています。

図表 21 家庭的保育事業（保育ママ）の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	猫実3丁目保育室	猫実	平成23年	5人	5人
2	堀江一野田保育室	堀江	平成25年	4人	5人
3	富士見保育室	富士見	平成27年	4人	5人
4	入船五丁目保育室	入船	平成25年	4人	5人
5	新浦安よつば保育室	入船	平成23年	5人	5人

※園児数・定員数は令和7年(2025年)4月1日時点

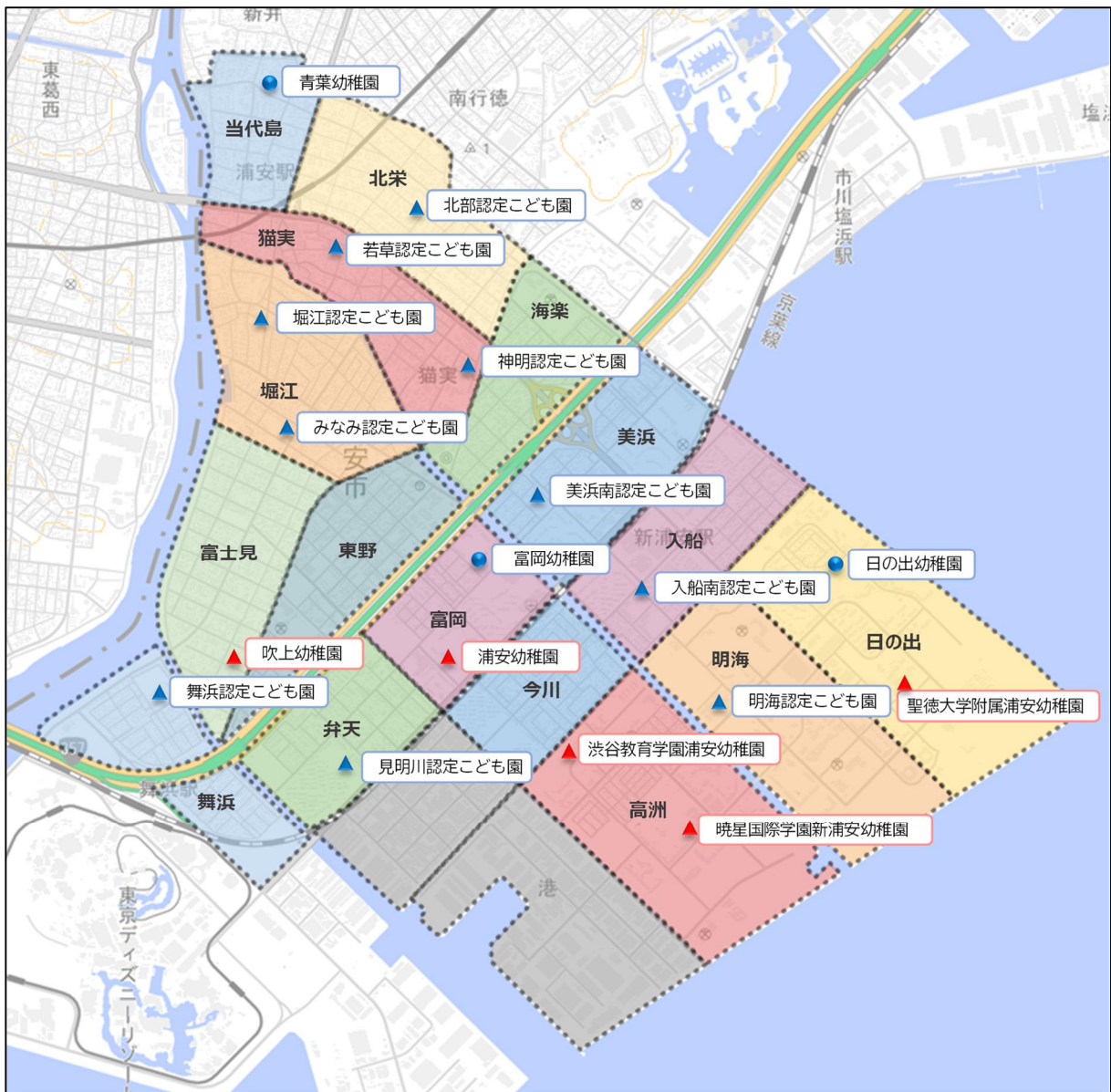
2. 幼稚園・認定こども園

(1) 概要

本市の幼稚園・認定こども園は、市立幼稚園が3園、市立幼稚園型認定こども園が10園、私立幼稚園が5園あります。

立地状況をみると、市立園は、元町に6園、中町に5園、新町に2園立地しています。私立園は元町に1園、中町に1園、新町に3園が立地しており、市立園と私立園で市全体をカバーしています。

図表 22 本市の幼稚園・認定こども園



※休園中の美浜北認定こども園を除く

(出所) 地理院地図をもとに株式会社総合研究所作成

【市立】

- 幼稚園
- ▲ 幼稚園型認定こども園

【私立】

- ▲ 幼稚園

(2) 園児数

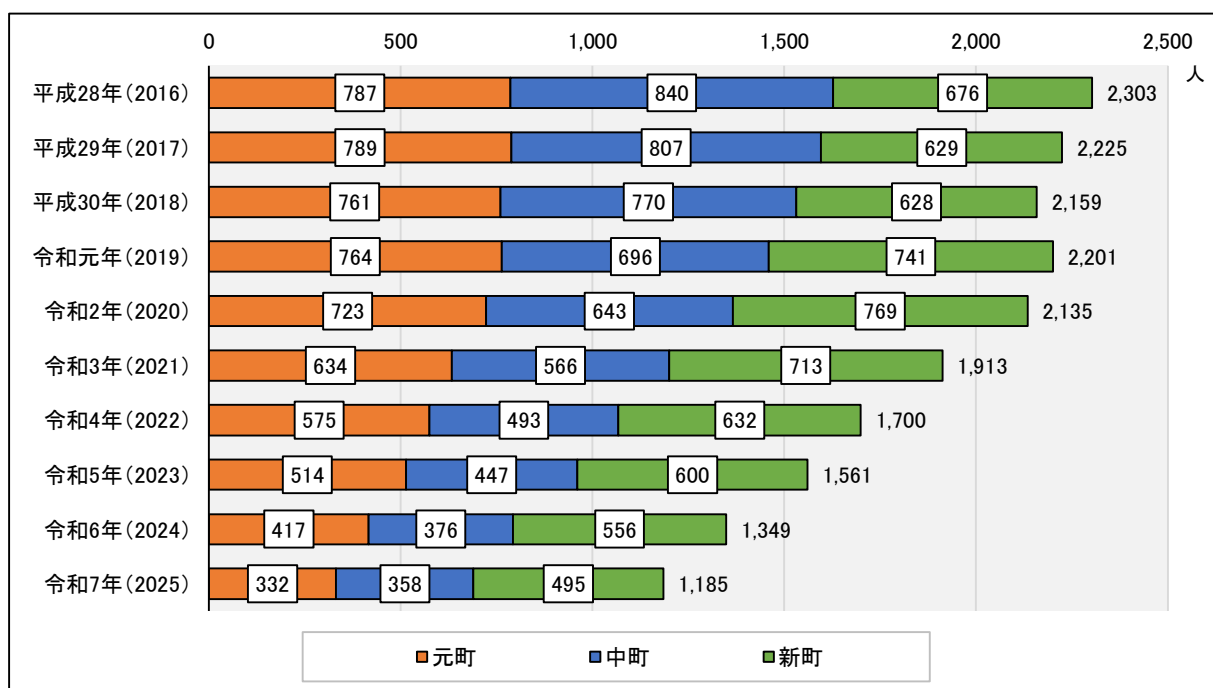
幼稚園・認定こども園の園児数は、平成28年から令和2年までは、横ばいから微減程度で推移していました。具体的には、平成28年の2,303人から令和2年の2,135人と、168人(7.3%)の減少となっています。しかし、令和3年以降は急激に減少に転じ、令和3年には1,913人、令和4年には1,700人となり、令和7年には1,185人と、平成28年からの10年間で1,118人減少(約48.5%減)しています。

地域別にみると、すべての地域で園児数が大幅に減少している傾向がみられます。特に元町と中町が顕著であり、6割近い急激な減少が見られます。元町では、平成28年の787人から令和7年には332人となり、455人(約57.8%)減少しています。中町では、平成28年の840人から令和7年には358人となり、482人(約57.4%)減少しています。一方で新町は、平成28年の676人から令和7年には495人となり、181人(約26.8%)の減少にとどまっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で園児数が減少していますが、特に4歳児と5歳児の減少率が顕著です。3歳児は平成28年の547人から令和7年には329人となり、218人(約39.9%)減少しています。4歳児は、平成28年の837人から令和7年には378人となり、459人(約54.8%)減少しました。5歳児は、平成28年の919人から令和7年には478人となり、441人(約48.0%)減少しています。

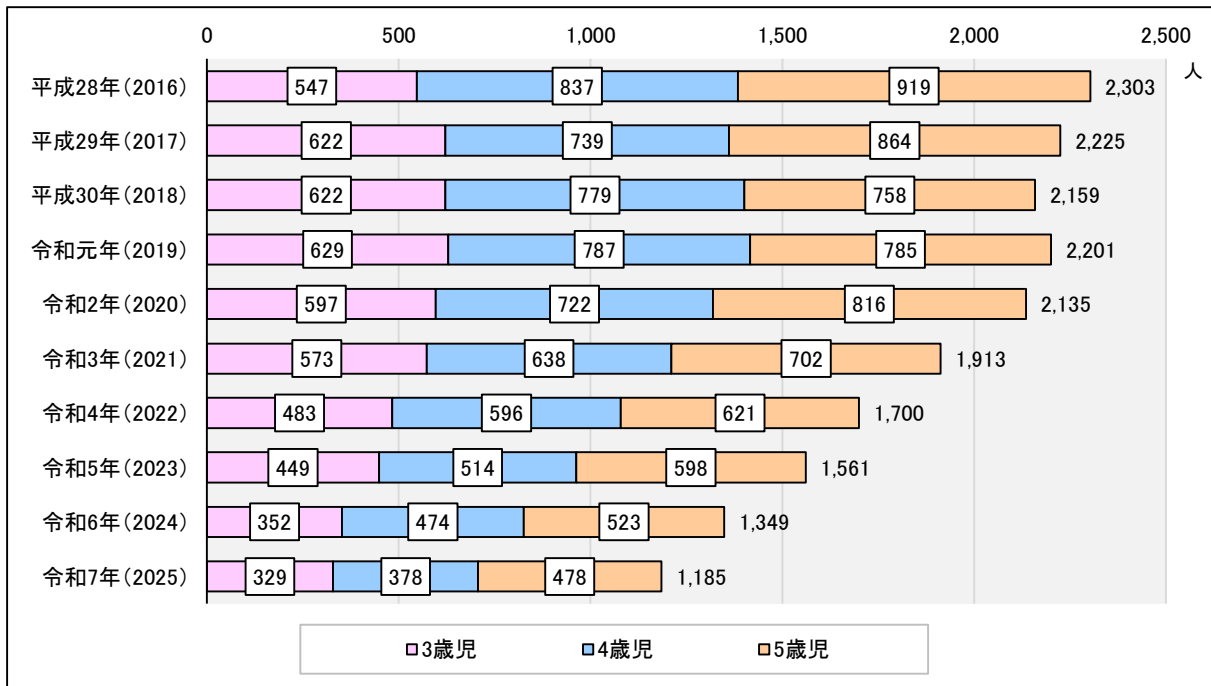
市立・私立別に見ると、市立幼稚園・認定こども園の園児数の減少が著しく、私立幼稚園と比べてもその減少幅が大きいことがわかります。市立幼稚園・認定こども園の園児数は、平成28年の1,490人から令和7年には525人へと965人(約64.8%)もの大幅な減少となっています。一方で、私立幼稚園は平成28年の813人から令和7年には660人と、153人(約18.8%)の減少にとどまっています。

図表 23 園児数の推移(地域別)



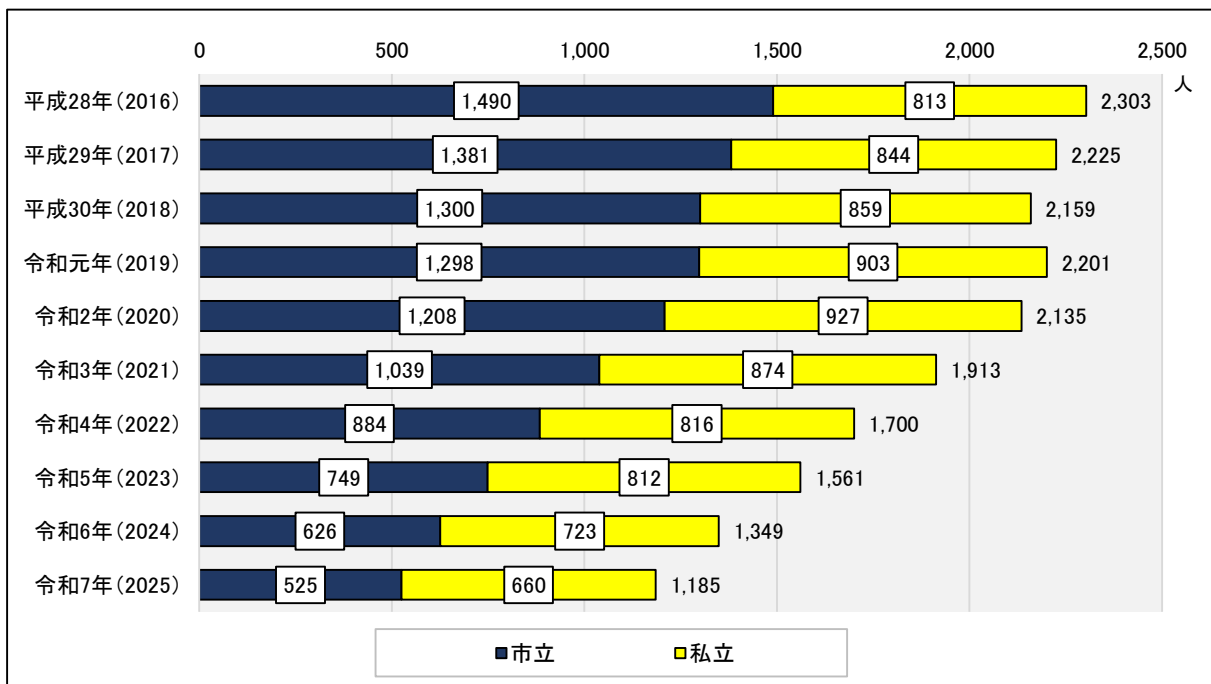
※各年5月1日現在 ※認定こども園は2号認定を含む

図表 24 園児数の推移（年齢別）



※各年 5月1日現在 ※認定こども園は2号認定を含む

図表 25 園児数の推移（市立・私立別）



※各年 5月1日現在 ※認定こども園は2号認定を含む

(3) 市立幼稚園・認定こども園の現状

本市では、昭和 50 年代前半以降の埋め立て事業による大規模な住宅開発に伴い、就学前児童数が増加してきたことから、幼稚園・認定こども園を計画的に整備してきました。特に昭和 50 年代（1975～1984 年）に集中して整備されており、これらの建物は建築後 40 年程度が経過しています。

園児数が最も多いのは神明認定こども園で、1号認定と2号認定を合わせて63人です。最も少ないのは若草認定こども園の10人です。

定員数に対する園児数は、半数以下となる施設が13園中9園となっています。

学級数はいずれも1学年につき1学級となっており、保育室も複数の空きがでています。

図表 26 市立幼稚園・認定こども園（上段：1号、下段：2号認定）の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数	学級数
1	青葉幼稚園	当代島	昭和 30 年	32 人	95 人	3
2	富岡幼稚園	富岡	昭和 54 年	39 人	95 人	3
3	日の出幼稚園	日の出	昭和 63 年	31 人	95 人	3
4	若草認定こども園	猫実	昭和 4 年	7 人	70 人	2
				3 人	25 人	
5	みなみ認定こども園	堀江	昭和 42 年	29 人	70 人	3
				16 人	25 人	
6	神明認定こども園	猫実	昭和 46 年	40 人	70 人	3
				23 人	25 人	
7	北部認定こども園	北栄	昭和 49 年	32 人	70 人	3
				21 人	25 人	
8	見明川認定こども園	弁天	昭和 53 年	23 人	70 人	3
				11 人	25 人	
9	堀江認定こども園	堀江	昭和 54 年	23 人	70 人	3
				10 人	25 人	
10	美浜南認定こども園	美浜	昭和 55 年	20 人	70 人	3
				12 人	25 人	
11	入船南認定こども園	入船	昭和 56 年	18 人	70 人	3
				16 人	25 人	
12	舞浜認定こども園	舞浜	昭和 57 年	39 人	70 人	3
				19 人	25 人	
13	明海認定こども園	明海	平成 6 年	41 人	70 人	3
				20 人	25 人	

※休園中の美浜北認定こども園を除く

※園児数・定員数は令和 7 年(2025 年)5 月 1 日時点

園児数の推移を園別にみると、若草認定こども園（令和3年→令和7年の減少率：▲84.1%）で園児数の減少が顕著にみられるほか、日の出幼稚園（同▲54.4%）、富岡幼稚園（同▲53.0%）、青葉幼稚園（同▲52.9%）、みなみ認定こども園（同▲51.6%）などで、令和3年に比べて園児数が半数を下回る状況となっています。

図表 27 市立幼稚園・認定こども園の園児数推移

		園児数[うち2号認定数]					
		令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和3→7年 減少率
1	青葉幼稚園	68	58	52	46	32	▲ 52.9
2	富岡幼稚園	83	64	55	46	39	▲ 53.0
3	日の出幼稚園	68	51	42	34	31	▲ 54.4
4	若草認定こども園	63 [22]	53 [22]	44 [19]	30 [12]	10 [3]	▲ 84.1
5	みなみ認定こども園	93 [23]	78 [24]	67 [22]	57 [19]	45 [16]	▲ 51.6
6	神明認定こども園	93 [18]	93 [19]	85 [17]	72 [21]	63 [23]	▲ 32.3
7	北部認定こども園	90 [21]	76 [18]	65 [14]	57 [22]	53 [21]	▲ 41.1
8	見明川認定こども園	63 [17]	58 [16]	53 [22]	44 [18]	34 [11]	▲ 46.0
9	堀江認定こども園	62 [17]	62 [22]	50 [13]	42 [16]	33 [10]	▲ 46.8
10	美浜南認定こども園	56 [23]	47 [20]	39 [17]	27 [15]	32 [12]	▲ 42.9
11	入船南認定こども園	57 [17]	41 [15]	34 [15]	34 [17]	34 [16]	▲ 40.4
12	舞浜認定こども園	96 [23]	72 [17]	63 [14]	50 [16]	58 [19]	▲ 39.6
13	明海認定こども園	109 [24]	93 [21]	79 [24]	78 [24]	61 [20]	▲ 44.0
※	美浜北認定こども園	38 [8]	38 [10]	21 [8]	9 [3]	0 [0]	-
	合計	1,039 [213]	884 [204]	749 [185]	626 [183]	525 [151]	▲ 49.5

※令和7年(2025年)から休園中

※各年5月1日時点

(4) 職員の配置状況（配置人数）

幼稚園は学校教育法に基づく学校であることから、職員配置は幼稚園設置基準によって定められています。1学級につき1名以上の教諭を置くこととされ、1学級あたりの人数は35人以下を原則としています。

また、認定こども園の職員配置は、1号認定（幼児教育を希望される方）は幼稚園と同じ、2号認定（保育を希望される方）は保育施設と同じ基準で定められています。

なお、私立幼稚園・認定こども園の職員配置については、子ども・子育て支援新制度へ移行した園は、保育施設と同じ基準で定められています。

図表 28 園別の職員配置数

(人)

園名		3歳	4歳	5歳	合計	園名		3歳	4歳	5歳	合計
青葉	定員	25	35	35	95	見明川	定員	25	35	35	95
	園児数	8	10	14	32		園児数	12	10	12	34
	職員	1	1	1	3		職員	1	1	1	3
富岡	定員	25	35	35	95	堀江	定員	25	35	35	95
	園児数	12	11	16	39		園児数	5	13	15	33
	職員	1	1	1	3		職員	1	1	1	3
日の出	定員	25	35	35	95	美浜南	定員	25	35	35	95
	園児数	9	8	14	31		園児数	10	7	15	32
	職員	1	1	1	3		職員	1	1	1	3
若草	定員	0	35	35	70	入船南	定員	25	35	35	95
	園児数	0	5	5	10		園児数	10	8	16	34
	職員	0	1	1	2		職員	1	1	1	3
みなみ	定員	25	35	35	95	舞浜	定員	25	35	35	95
	園児数	12	15	18	45		園児数	15	16	27	58
	職員	1	1	1	3		職員	1	1	1	3
神明	定員	25	35	35	95	明海	定員	25	35	35	95
	園児数	20	20	23	63		園児数	18	12	31	61
	職員	1	1	1	3		職員	1	1	1	3
北部	定員	25	35	35	95	市立幼稚園・こども園合計	定員	300	455	455	1,210
	園児数	13	18	22	53		園児数	144	153	228	525
	職員	1	1	1	3		職員	12	13	13	38

※休園中の美浜北認定こども園を除く

※令和7年(2025年)4月1日時点

(5) 【参考】私立幼稚園の現状

本市の私立幼稚園は、昭和50年代に2園、平成16年に2園、平成20年に1園が開園しました。園児数は多くの園で100人を超えています。定員数に対する園児数が少ない園もありますが、各園は柔軟な運営体制を取っており、園児数に応じた保育・教育環境を確保しています。

図表 29 私立幼稚園の現状

	園名	地区	開設年	園児数	定員数
1	浦安幼稚園	富岡	昭和56年	164人	210人
2	吹上幼稚園	富士見	昭和52年	99人	320人
3	聖徳大学附属浦安幼稚園	日の出	平成16年	127人	300人
4	暁星国際学園新浦安幼稚園	高洲	平成16年	113人	270人
5	渋谷教育学園浦安幼稚園	高洲	平成20年	165人	200人

※園児数・定員数は令和7年(2025年)5月1日時点

3.未就学児保育・教育施設の利用状況

本市の未就学児が、市内のどの種類の未就学児保育・教育施設を利用しているのか把握するため、0～5歳の年齢別に推移を分析しました。なお、市内の保育・教育施設を利用していない児童のなかには、他自治体の施設に通っているケース等があると推測されますが、若干名と考えられるため「家庭保育等」に含めて整理しました。

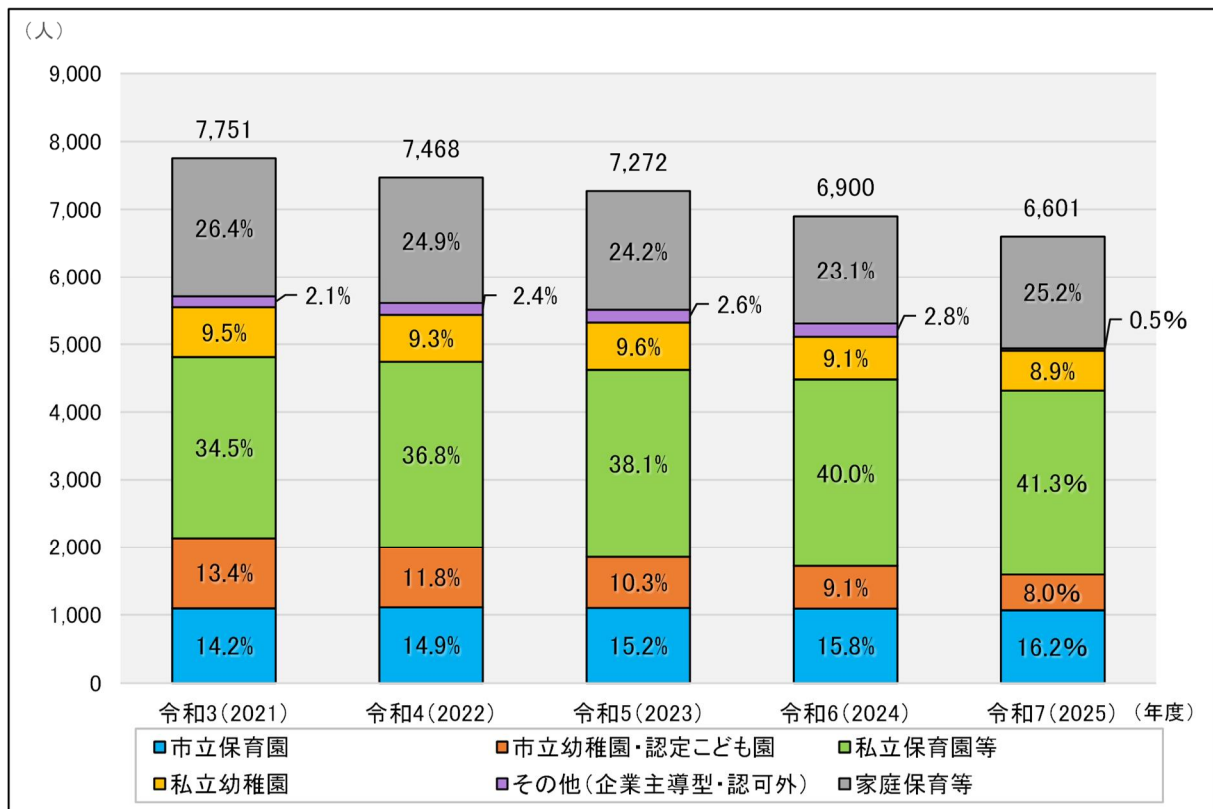
①未就学児（0～5歳児）合計

市内未就学児が最も多く利用しているのは「私立保育園等（私立保育園・幼保連携型認定こども園・小規模保育事業・家庭的保育事業の合計を指す。以下同じ。）」で、待機児童解消のため、本市が私立の施設整備等を進めたことにより、利用率は年々増加しています（令和3年度：34.5%→令和7年度：41.3%）。「市立保育園」についてもやや増加傾向にあります。一方で「市立幼稚園・認定こども園」は大きく減少しています。

なお、保育・教育施設を利用していない児童（「家庭保育等」）の割合は減少しています。

令和7年4月現在の市内の未就学児保育・教育施設（認可外等を除く）の定員総数は6,915人となっており、未就学児の数6,601人を大きく上回っている状況です。

図表 30 未就学児保育・教育施設の利用状況（市内未就学児合計）



※幼稚園・認定こども園：各年5月1日、保育施設：各年4月1日、企業主導型保育施設：各年3月31日時点

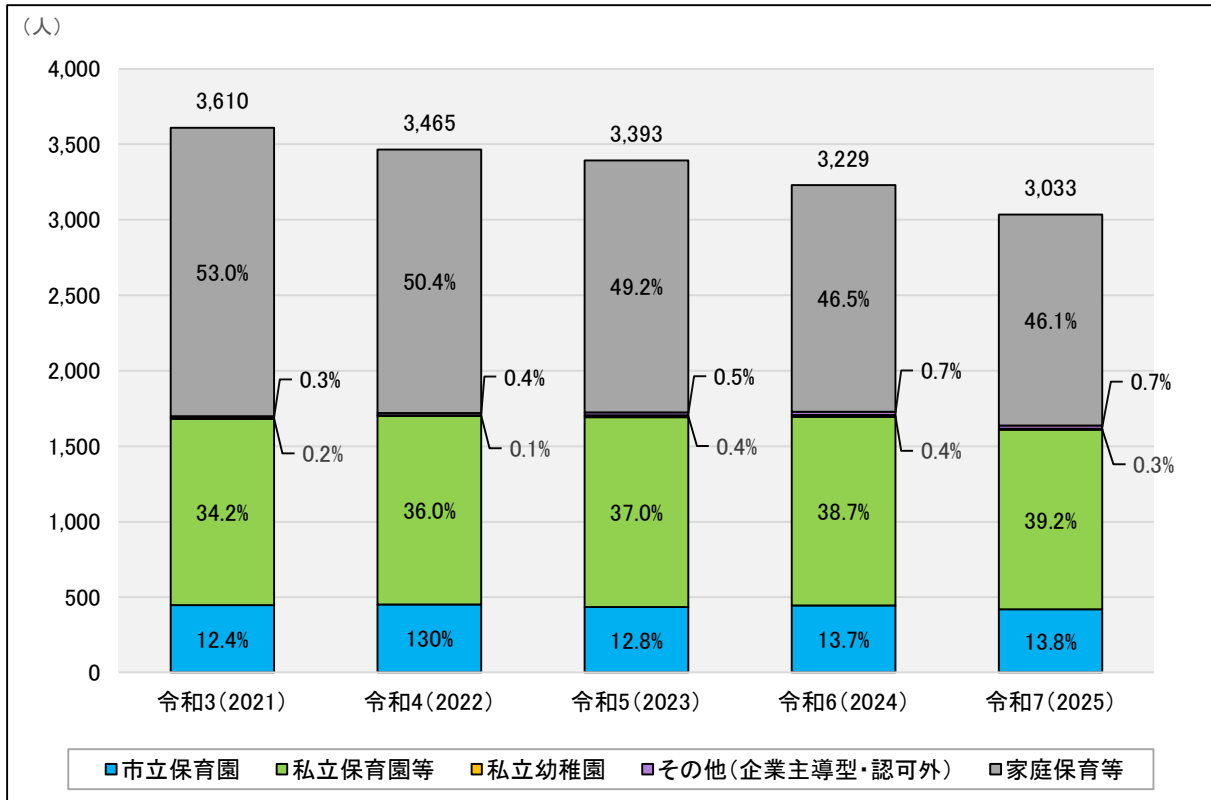
※認可外保育施設の令和7年度のデータは未反映である。そのため、令和7年度は家庭保育等が実際よりも多く表示されている可能性がある。

※小数点以下の関係で合計が100%にならない場合がある 以下同じ

② 0歳児から2歳児まで

0歳児から2歳児までのうち、未就学児保育・教育施設に通っている割合は、令和3年度の47.0%から、令和7年度には53.9%と、やや増加傾向にあります。待機児童解消のため、本市が私立の施設整備を進めたことにより、特に「私立保育園等」の利用割合が増加したことによるものです。「私立保育園等」は5年間で5ポイント増加しています。

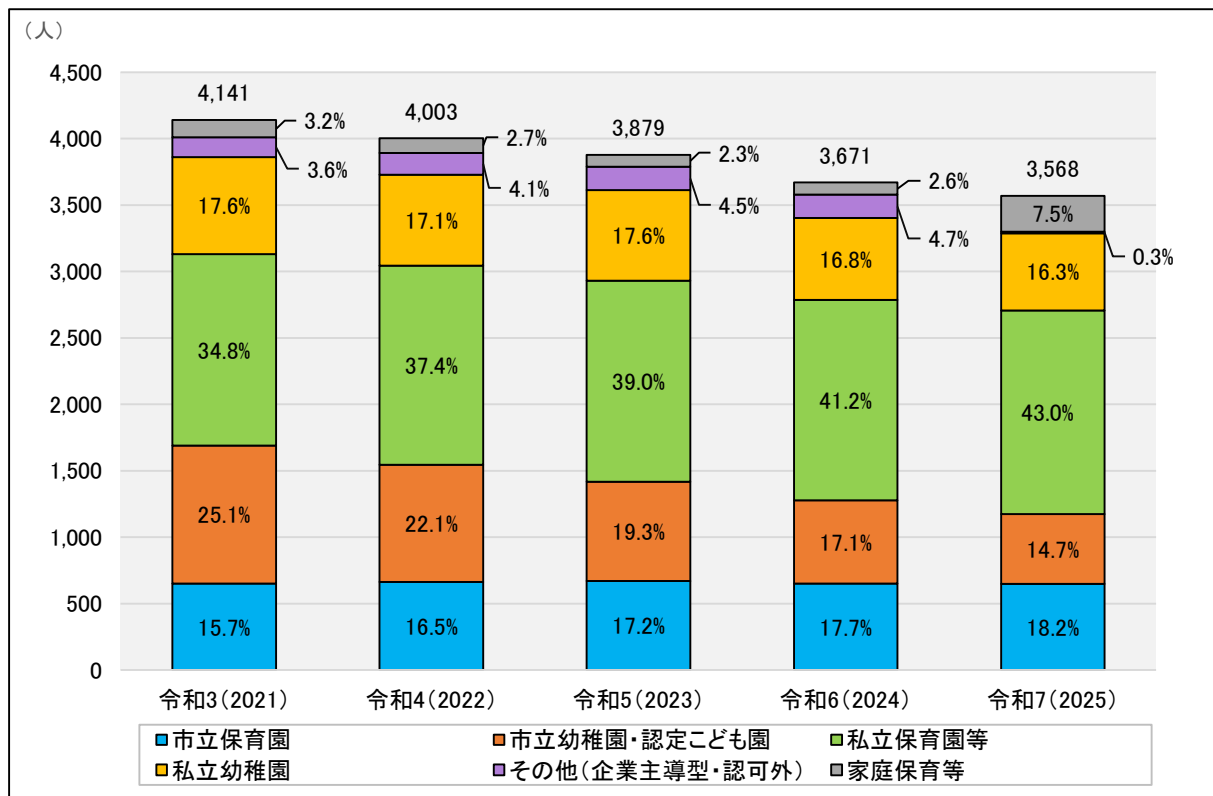
図表 31 未就学児保育・教育施設の利用状況（0歳児から2歳児）



③ 3歳児から5歳児まで

幼稚園対象年次である3歳児から5歳児までのうち、未就学児保育・教育施設に通っている割合は、97%前後で推移しています。内訳をみると、5年間で「私立幼稚園」は1.3%の減少、「私立保育園等」は8.2%の増加、「市立幼稚園・認定こども園」は10.4%の減少、「市立保育園」は2.5%の増加となっています。保育施設の利用割合が増加するのと反比例するかたちで、幼稚園・認定こども園の利用割合が減少しており、特に「市立幼稚園・認定こども園」については減少が顕著にみられます。

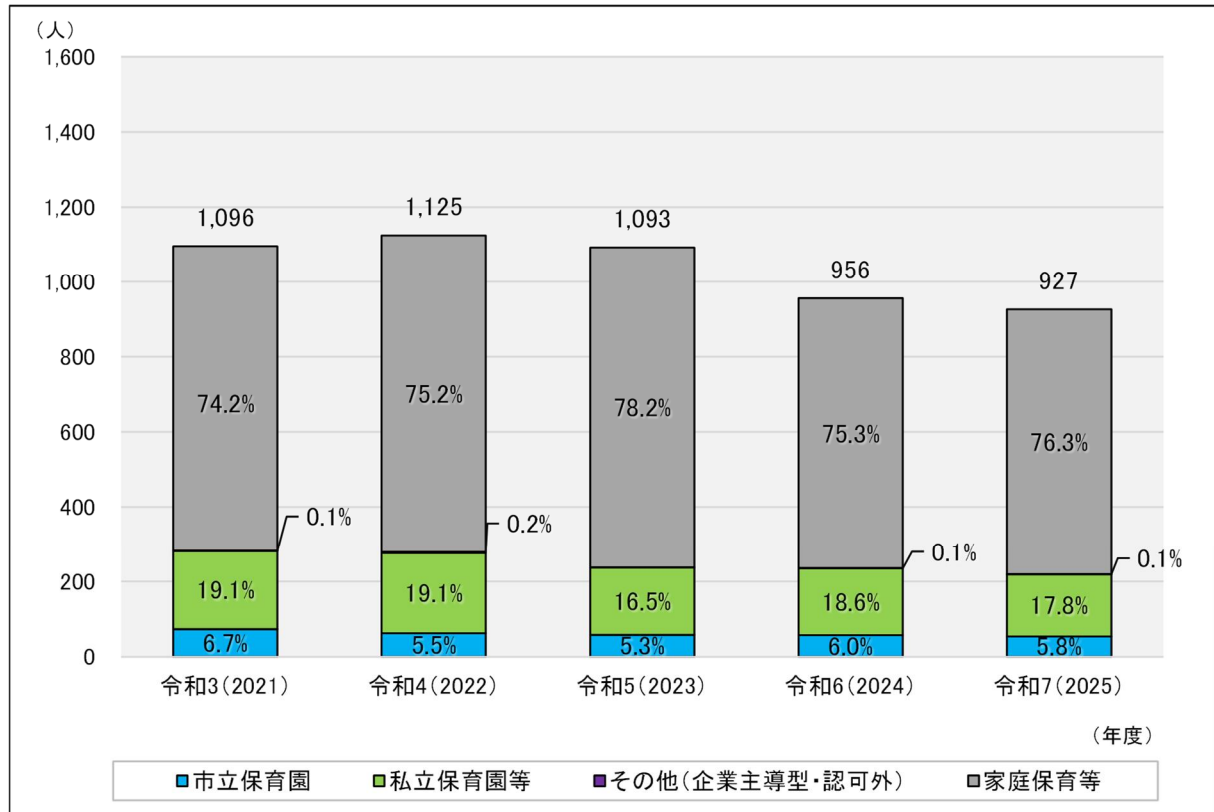
図表 32 未就学児保育・教育施設の利用状況（3歳児から5歳児）



④ 0歳児

0歳児のうち、未就学児保育・教育施設に通っている割合は、5年間で大きな変化はありません。約25%が「私立保育園等」と「市立保育園」に通っています。

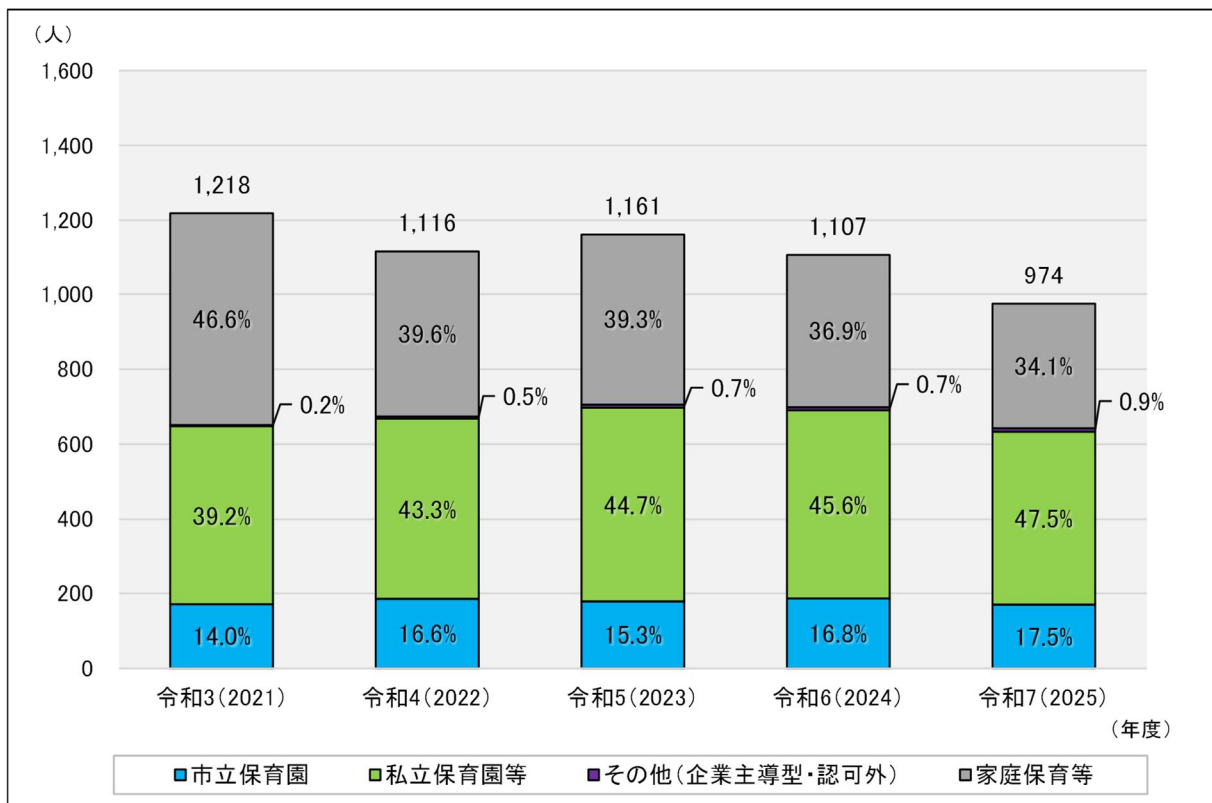
図表 33 未就学児保育・教育施設の利用状況（0歳児）



⑤ 1歳児

1歳児のうち、未就学児保育・教育施設を利用している割合は、令和3年度の53.4%から、令和7度には65.9%と、増加傾向にあります。利用している施設のうち、「私立保育園等」は5年間で8.3%増、「市立保育園」は3.5%増加しています。待機児童解消のため、本市が私立の施設整備を進めたことにより、「私立保育園等」の増加が特に大きくなっています。

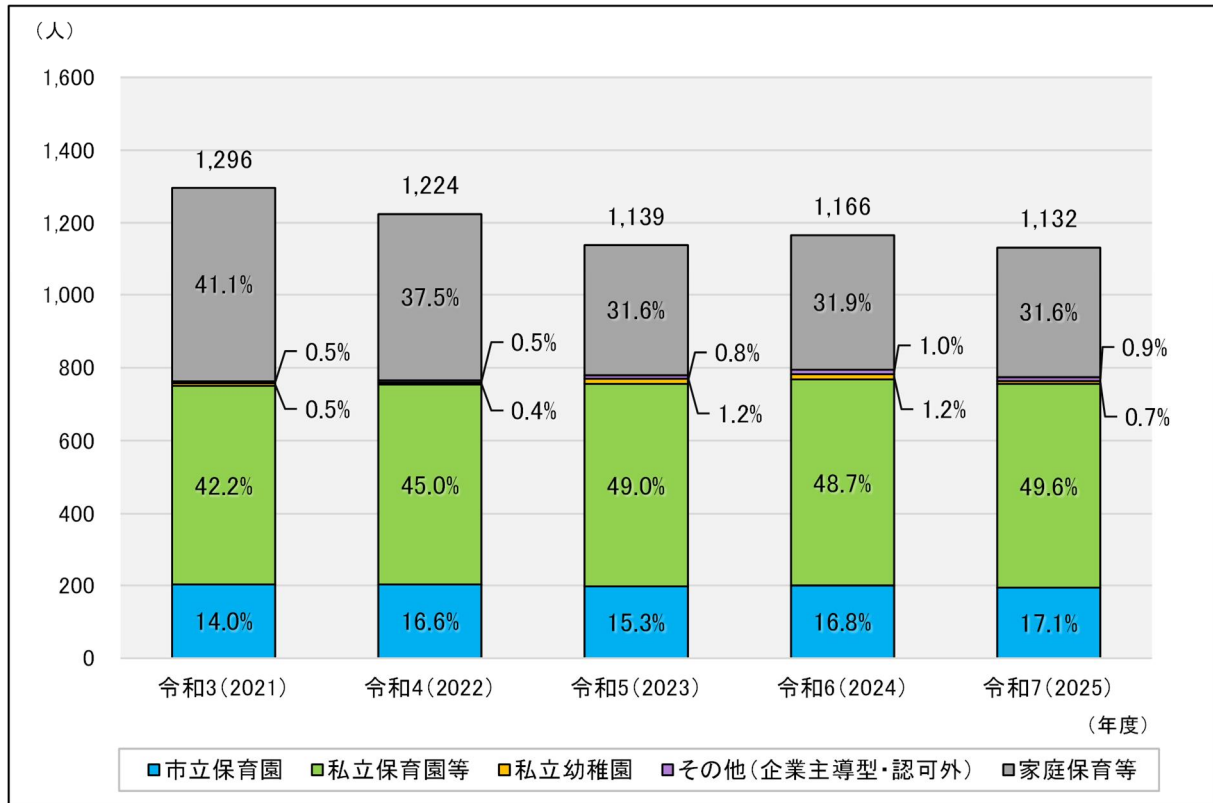
図表 34 未就学児保育・教育施設の利用状況（1歳児）



⑥ 2歳児

2歳児のうち、未就学児保育・教育施設を利用している割合は、令和3年度の58.9%から、令和7年度には68.4%と、増加傾向にあります。待機児童解消のため、本市が私立の施設整備を進めたことにより、特に「私立保育園等」の利用割合が増加したことによるものです。「市立保育園」、「私立保育園等」ともに増加しています。

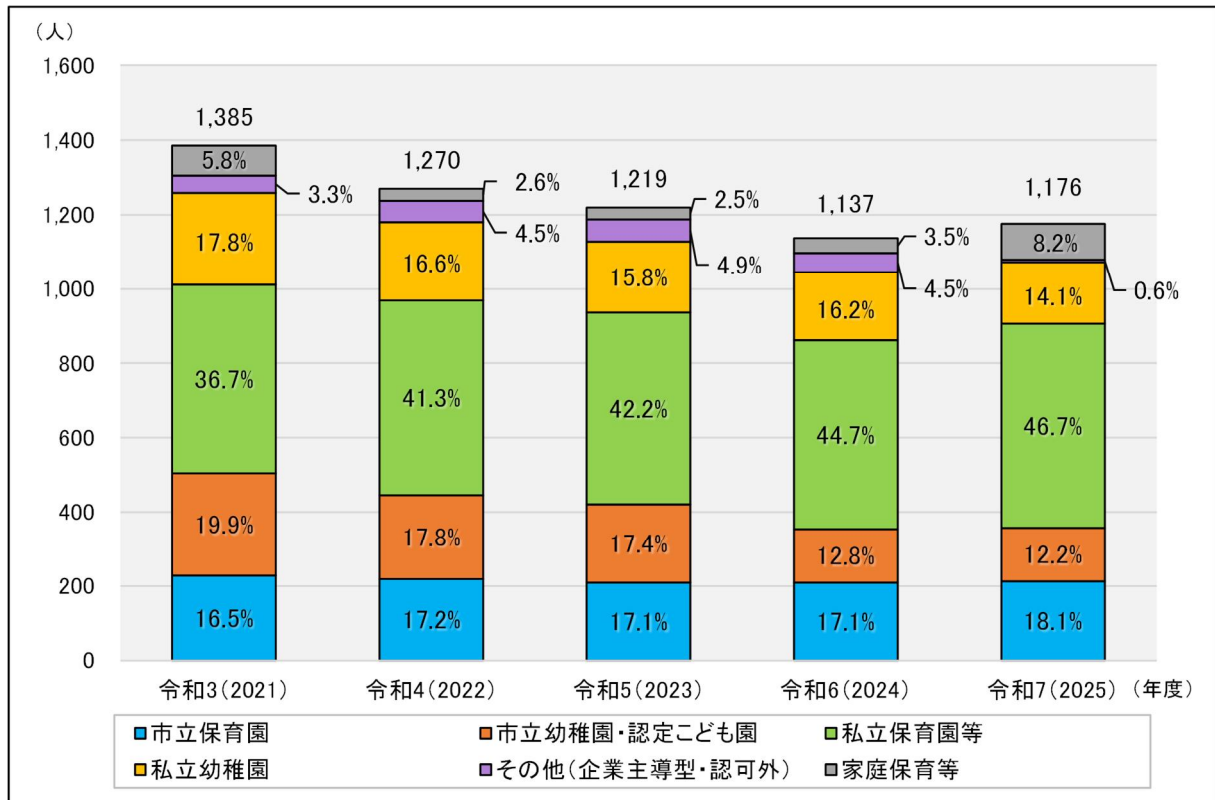
図表 35 未就学児保育・教育施設の利用状況（2歳児）



⑦3 歳児

3 歳児のうち、未就学児保育・教育施設を利用している割合は、90%前後で推移しています。内訳をみると、5年間で「私立幼稚園」は3.7%の減少、「私立保育園等」は10.0%の増加、「市立幼稚園・認定こども園」は7.7%の減少、「市立保育園」は1.6%の増加となっており、保育施設の利用割合が増加するのと反比例するかたちで、幼稚園・認定こども園の利用割合が減少しています。

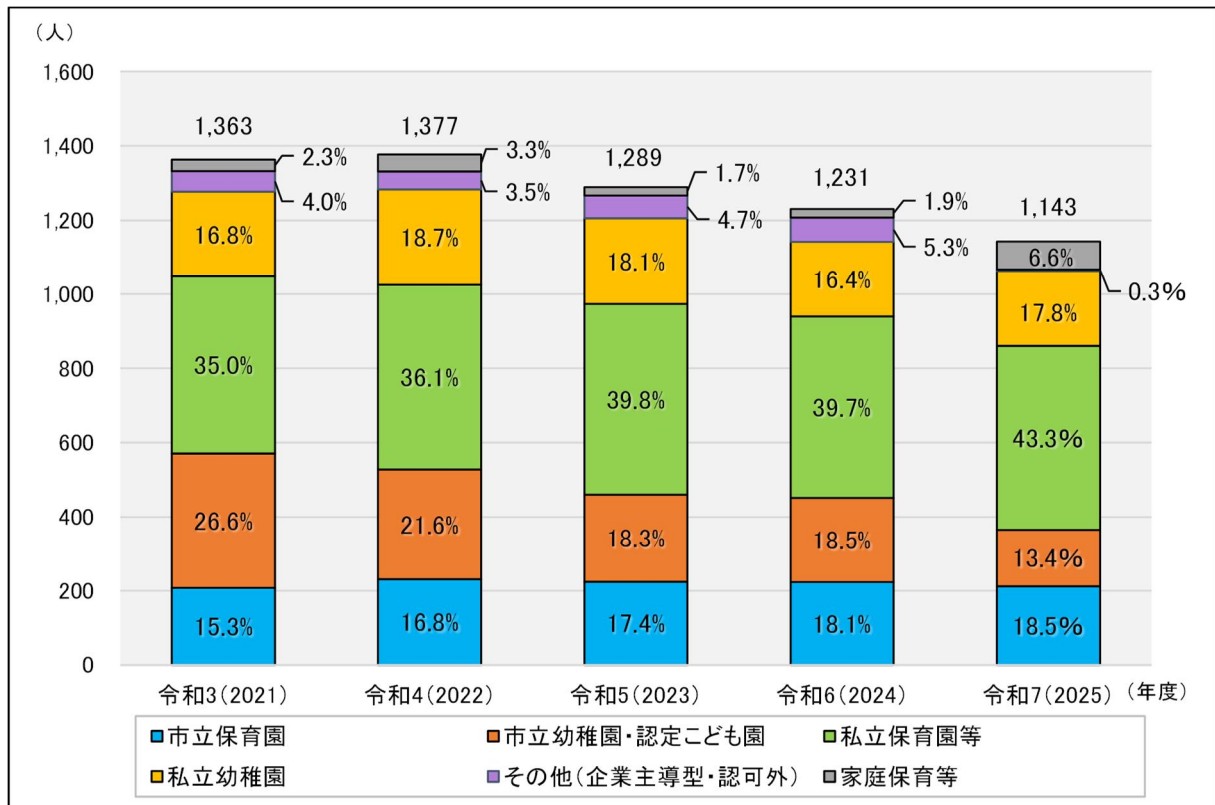
図表 36 未就学児保育・教育施設の利用状況（3歳児）



⑧4 歳児

4 歳児のうち、未就学児保育・教育施設を利用している割合は、90%前後で推移しています。内訳をみると、5年間で「私立幼稚園」は1.0%の増加、「私立保育園等」は8.3%の増加、「市立幼稚園・認定こども園」は13.2%の減少、「市立保育園」は3.2%の増加となっており、3歳児とおおむね同様に推移する傾向がみられます。

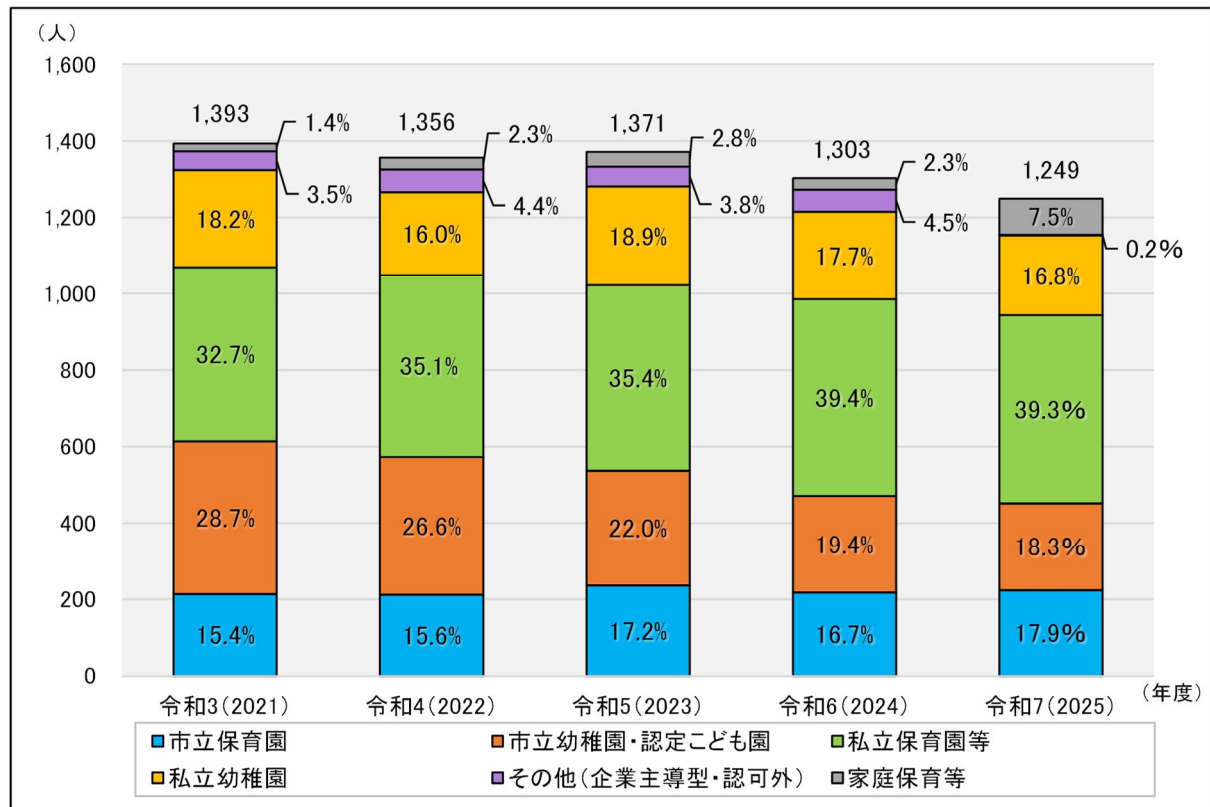
図表 37 未就学児保育・教育施設の利用状況（4歳児）



⑨5歳児

5歳児のうち、未就学児保育・教育施設を利用している割合は、95%前後で推移しています。内訳をみると、5年間で「私立幼稚園」は1.4%の減少、「私立保育園等」は6.6%の増加、「市立幼稚園・認定こども園」は10.4%の減少、「市立保育園」は2.5%の増加となっており、3歳児や4歳児とおおむね同様に推移する傾向がみられます。

図表 38 保育・教育施設の利用状況（5歳児）



4.園児数の現状整理と考察

本市には市立・私立の保育園や幼稚園、認定こども園といったさまざまな未就学児保育・教育施設があり、地域や保護者が求める保育・教育のニーズに応える役割を担っています。しかし、少子化の進行や保護者ニーズの変化に伴い、施設間の利用状況に大きな変化が生じています。以下では、これまでの調査結果等から、本市における園児数の現状について整理・考察します。

1：未就学児童数の減少

① 本市の未就学児童数は全体的に減少傾向

本市の未就学児童数は令和2年以降減少に転じて（P10 図表5）おり、未就学児童数がピークだった令和元年から令和7年までの6年間で約21.6%減少しています。

地域別にみると、いずれの地域も減少していますが、減少のペースは地域によって異なります。元町は24.0%、中町は26.3%、新町は12.2%の減少となっており、中町が特に減少しています（P10 図表6）。この地域は埋め立て事業を背景に昭和50年代から急速に発展したエリアであり、当時の子育て世代が高齢化していることも影響しています。新町については、高洲地区で近年大規模な住宅開発があり、若い世代の転入が増加したことで、減少ペースが緩やかになっています。

② 高い未婚率による出生数の減少が影響

本市では、出産が多い年代（25～39歳）の女性人口が増加しています（P11 図表7）。一方で未婚率は平成22年から令和2年の間で10%近く上昇しており、全国平均や千葉県平均を上回っています（P12 図表9）。日本社会では婚外出生の割合が低いことから、未婚率の高さと出生数の減少は密接に関連しているとされています。

こうした未婚率の高さに起因する出生数の減少が、未就学児童数が減少している大きな要因と考えられます。

2：未就学児保育・教育施設の利用状況の変化

① 保育施設の利用者数の増加

少子化が進行する中でも、本市の保育施設の園児数は、平成28年の3,088人から令和5年には3,911人へと大きく増加しピークを迎えた後、令和7年にかけて横ばいで推移しています。

（P16 図表12）。その背景として、国の働き方改革の推進に伴い、女性の就労促進や企業における育児休業制度の整備など、共働きが促進されてきたことが挙げられます。

こうした保育ニーズの高まりに対応するために、本市では認可保育所を平成20年代から急速に増やしてきました。それに伴い、特に1歳児や2歳児といった低年齢のうちから、保育施設を利用する傾向が強まっており、この5年間で利用率は10%近く上昇しています（P30 図表31）。定員に対する充足率は高い水準にあり（P18 図表15、P20、21 図表18～21）、今後も保育施設への需要は引き続き高い状態が続くと予想されています。

また、令和元年から幼児教育・保育の無償化が施行されたことは、保育施設の利用者数の増加を後押ししました。具体的には、幼児教育・保育の無償化によって保護者にとっての経済的負担が軽減され、施設選択の自由度が高まりました（P8、9）。

『こども未来戦略』では、育児期の男女がともにキャリアをあきらめることなく、協力して育児ができる「共働き・共育ての推進」が柱として掲げられており、育児期の男女がキャリアをあきらめることがないような、支援策の拡充が進められています。

全国的に共働き世帯が増加する中、長時間預けることができ、家庭での負担が少ない（給食提供、平日日中の行事等が少ない等）保育園が選ばれる傾向が強まったと考えられます。

② 幼稚園・認定こども園の利用者数の減少

保育施設へのニーズが高まる一方で、幼稚園・認定こども園の園児数は顕著に減少しています。平成28年の2,303人から令和7年には1,185人へと、約48.5%減少しました（P23 図表23）。特に、市立幼稚園・認定こども園については、平成28年から令和7年にかけて1,490人から525人へと急減しており（P24 図表25）、定員数に対する園児数は、半数以下となる施設が13園中9園となっています（P25 図表26）。

特に、1クラス当たりの園児数が10名を下回る、小規模化が著しいクラスも10クラス存在しており、保育に適切な集団規模の確保という点で大きな課題が発生しています。

幼稚園・認定こども園の利用者数の減少要因として、利用時間が比較的短いことや、平日の行事やPTAの負担など、共働き世帯の生活スタイルに十分に対応できていないことが挙げられます。

また、本市の保育施設は0歳から就学前まで継続して利用できる施設が多数を占めています。3歳で転園する場合、こどもの慣れ親しんだ人間関係（友人や保育者）がリセットされ、生活環境が大きく変わり、こどもや保護者にとって大きな負担になることから、特段の理由がない限り施設を変えたくないとする保護者は多いと考えられます。このように、低年齢のうちから保育施設を利用する割合が増えたことも、幼稚園・認定こども園の園児数減少の一因であると考えられます。

なお、私立幼稚園については、同期間で813人から660人と減少しているものの（P24 図表25）、市立幼稚園・認定こども園と比べると減少率は緩やかです。

この違いの背景には、私立幼稚園が持つ教育方針の魅力や、柔軟な運営体制が影響していると考えられます。

3：幼稚園・認定こども園の利用者数減少に伴う影響

① 教育の質に対する影響

市立幼稚園・認定こども園では、園児数の減少に伴い、いずれの園も1学年1学級となっています（P25 図表 26）。園が小規模化することで、よりきめ細やかな保育が可能になる一方で、集団生活を通じて育まれる教育機能が十分に発揮しにくくなるという課題が生じます。

幼児期の教育においては、同年代の友だちとのかかわりの中で、意見の違いの折り合いを付けるといった体験を通じ、集団活動の中で生まれる主体性や社会的態度を身につけていくことが大切です。運動会や発表会などの行事についても、一定の人数が集まることで成立し、こどもが達成感や役割意識を身につける重要な機会といえます。

また、小学校入学後は、一定規模の集団の中で過ごすことから、幼児期における集団規模の確保は、小学校への円滑な接続という観点からも重要です。

園児数が少ない場合には、こうした集団における活動や遊びの幅が限定されたり、縮小されたりすることから、教育的な経験の機会が減少することが懸念されます。

定員数に対する入園率（令和7年5月時点）

市立保育園合計	90.5%	市立幼稚園・認定こども園合計	43.4%
当代島	86.6%	青葉	33.7%
猫実	92.2%	見明川	35.8%
入船	92.4%	富岡	41.1%
富岡	82.6%	堀江	34.7%
東野	93.6%	日の出	32.6%
日の出	85.7%	美浜南	33.7%
高洲	95.7%	若草	14.3%
		入船南	35.8%
		みなみ	47.4%
		舞浜	61.1%
		神明	66.3%
		明海	64.2%
		北部	55.8%

② 職員や施設に対する影響

園児数の減少に伴い、職員1人が担当する園児数が減少します。また、園を運営する職員数が減少することで、組織としての活力が低下したり、職員同士の協力や相談の機会が減り、職員の精神的な負担が大きくなることが考えられます。

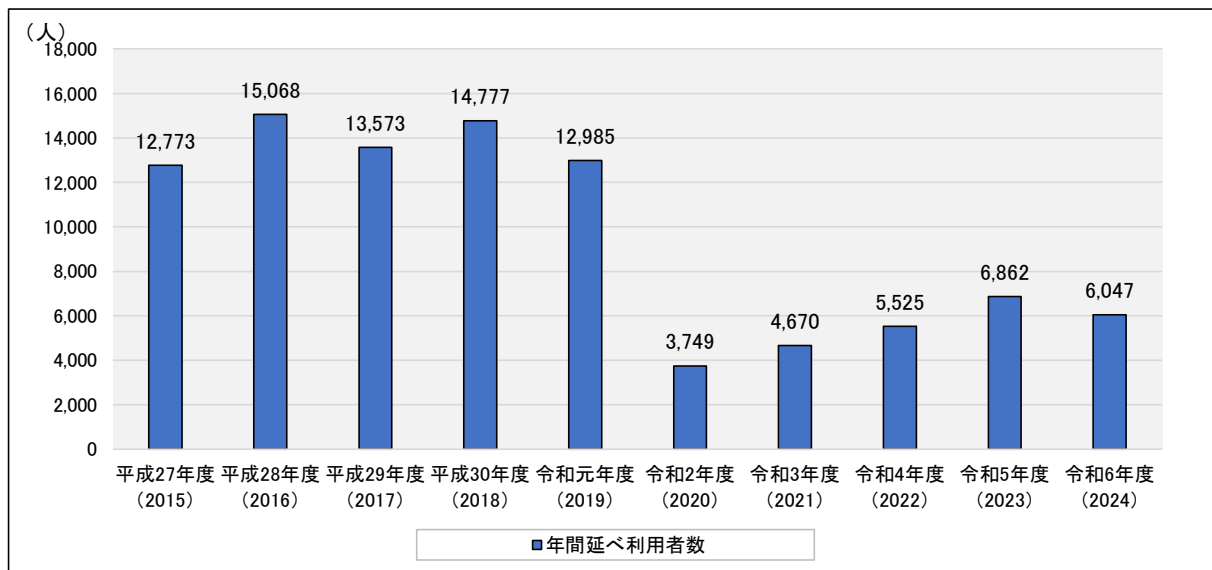
園児数の減少に伴い発生している空き教室の増加も課題です。空き教室の増加は、維持管理コストの無駄を生じるだけでなく、本来地域の子育て拠点として活用されるべき空間が十分に生かされないことで、地域全体の子育て支援機能が弱まる可能性も考えられます。

5.【参考】その他の保育等サービスの利用状況

市立認定こども園では、教育時間の前後に保育する一時預かりを実施しています。市立幼稚園・認定こども園の在園児（1号認定）であれば申し込むことができます。1園あたりの定員は5名程度で、令和6年度は延べ6,047人が利用しました。

利用者数の推移をみると、令和元年度までは12,000～15,000人前後で推移していましたが、令和2年度はコロナ禍の影響で急激に利用者数が減少しました。その後はやや持ち直していますが、市立認定こども園の1号利用者数が減少しているため、コロナ禍前の半数程度で推移しています。

図表 39 認定こども園の預かり保育の利用状況推移



【実施園名】

～平成29年度: 若草・みなみ・北部・堀江・美浜南・舞浜・美浜北・明海認定こども園

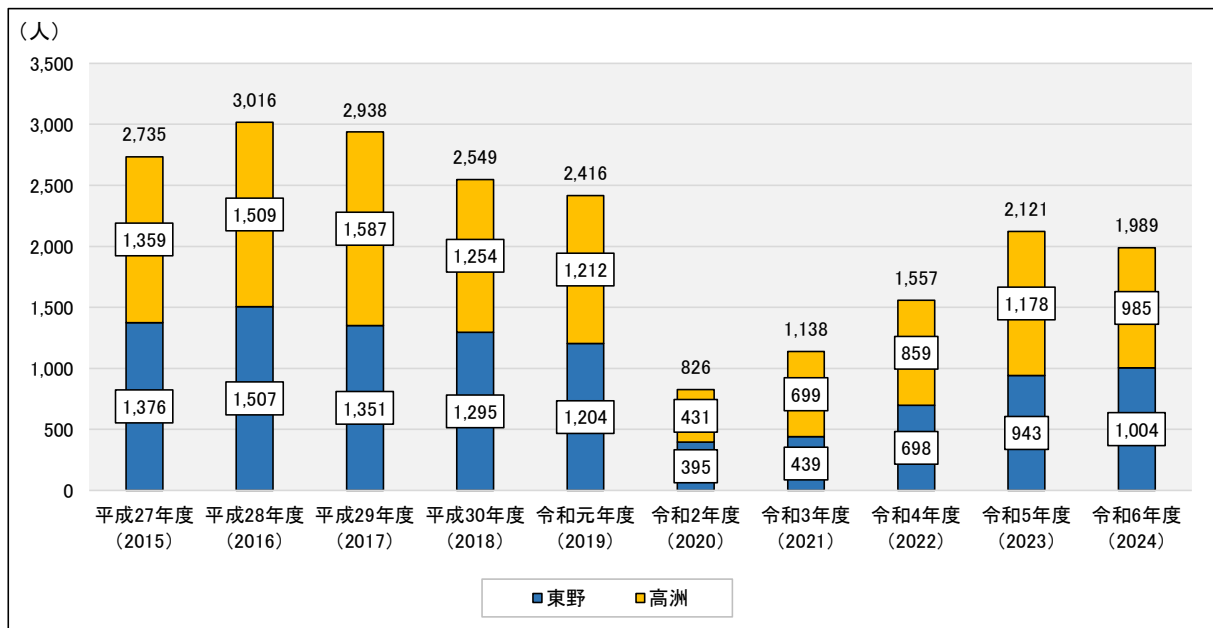
平成30年度: 見明川追加

令和元年度: 神明・入船南追加

また、東野保育園と高洲保育園では、生後4か月から就学前のこどもを対象に、一時預かり事業を実施しています。これは、保護者がパートや就労等で断続的に家庭保育が困難となる場合や、保護者の疾病・怪我等により緊急一時的に家庭保育が困難となる場合、及び保護者のリフレッシュや育児負担の軽減等のために、一時的に児童を預かる事業です。

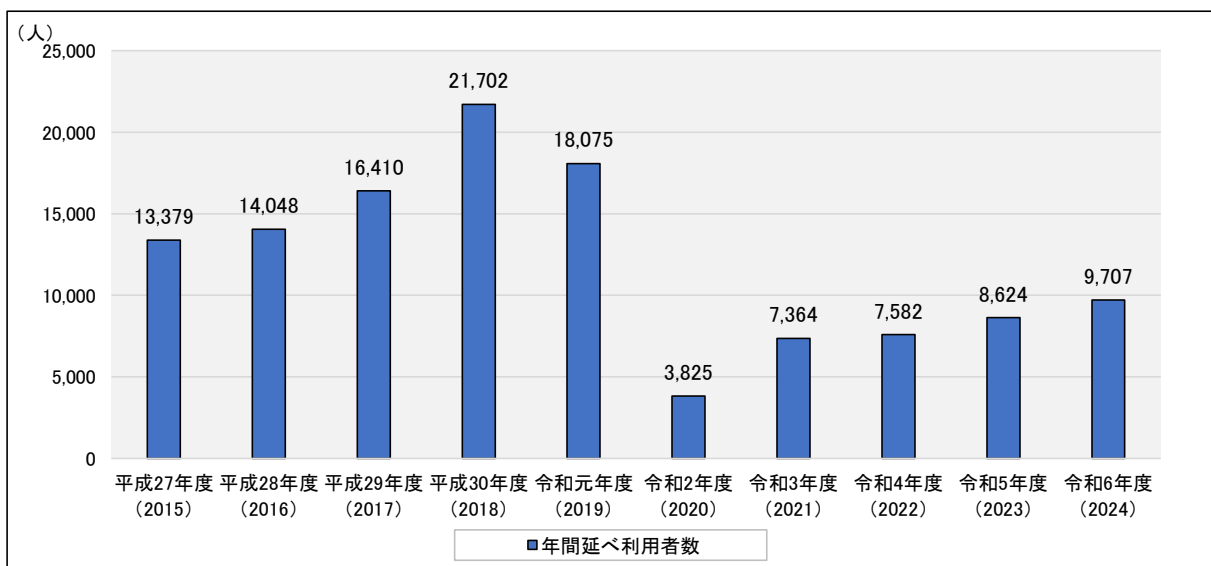
利用者数の推移をみると、コロナ禍前は約2,500人～3,000人で推移していましたが、令和2、3年は1,000人前後まで落ち込みましたが、その後は回復し、令和6年度は延べ1,989人が利用しました。

図表 40 東野・高洲保育園における一時預かり事業



その他に、市立幼稚園内の「すまいるルーム（富岡ルーム、日の出ルーム、青葉ルーム）」等では、保護者のリフレッシュや育児負担の軽減など、理由を問わない一時預かりを実施しており、令和6年は延べ9,707人が利用しました。こちらもコロナ禍に利用者数が減少し、その後は緩やかに持ち直しているものの、コロナ禍前の水準には至っていません。要因としては、私立園において一時預かりを実施する園が増加したことで、一時預かりの受け皿が増えたことによるものと考えられます。

図表 41 理由を問わない一時預かり事業(すまいるルーム)の利用状況推移



富岡ルーム(富岡幼稚園内1階2部屋)開設 平成26年10月1日～
 日の出ルーム(日の出幼稚園内第2園舎)開設 平成27年1月13日～
 青葉ルーム(青葉幼稚園内)開設 平成29年10月1日～
 ※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年3月2日より6月30日まで休止

4章 未就学児保育・教育施設のニーズ 量・利用者数の将来推計

1.未就学児童数の将来推計

(1) 推計の趣旨

令和4年に「認可保育施設待機児童ゼロ維持のための対応方針」の策定にあたって、就学前児童数の将来推計を行いました。しかし、令和5年以降の実績値は本推計結果を下回り、かい離が生じていることから、あらためて就学前児童数の将来推計を実施しました。

(2) 推計手法

0歳児	令和4年に本市が実施した人口推計とのかい離率を地域別・男女別に算出し、それを令和8年以降の0歳の推計人口にかけて計算。
1～5歳児	前年の1歳低年齢人口に、本市の推計結果から算出した増減率（地域別・男女別）をかけて計算。

※将来、土地利用の変化や集合住宅の建て替え、住み替え等が生じた場合には、推計値に影響が出る可能性があります。

推計期間：令和8年～令和17年（10年間）

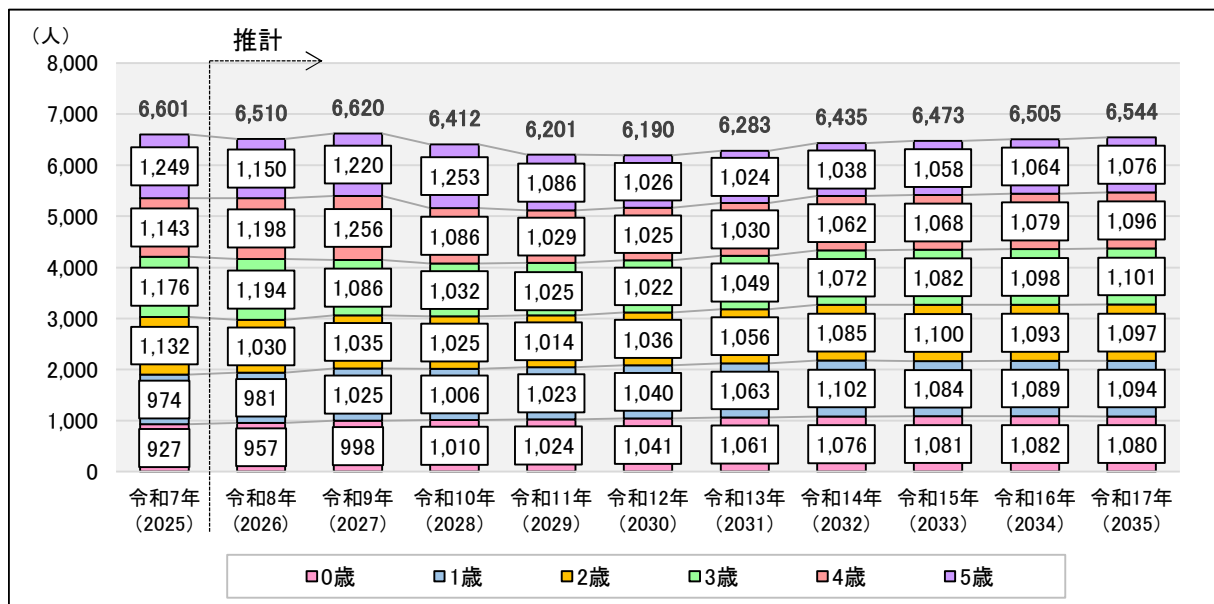
(3) 推計結果

①市全体

本市の就学前児童人口は、やや減少傾向もしくは横ばいで推移すると見込まれます。

令和7年の6,601人から、5年後の令和12年には6,190人（▲6.2%）となり、10年後の令和17年には、6,544人（▲0.9%）となる見込みです。

図表 42 未就学児童数の将来推計（年齢別）



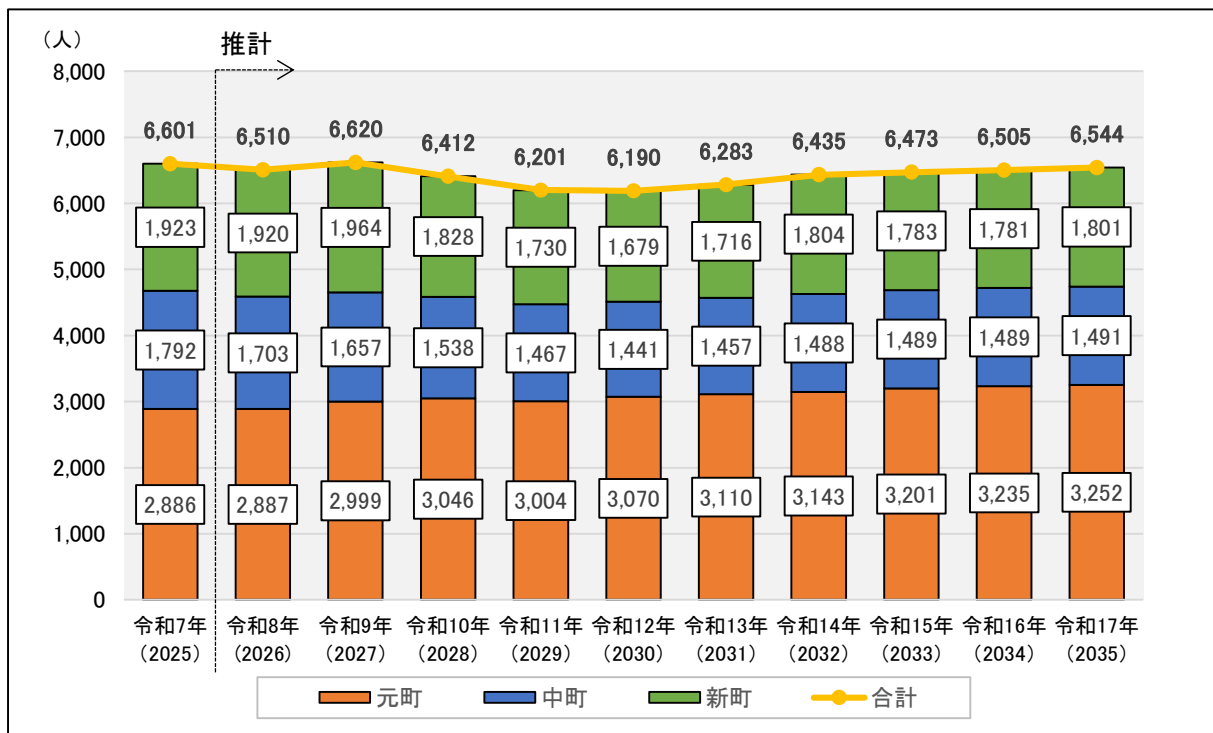
②地域別

地域別にみると、元町は令和7年の2,886人から、5年後の令和12年には3,070人(6.4%)、10年後の令和17年には3,252人(12.7%)となる見込みです。

中町は、令和7年の1,792人から、5年後の令和12年には1,441人(▲19.6%)、10年後の令和17年には1,491人(▲16.8%)となると見込まれます。

新町は、令和7年の1,923人から、5年後の令和12年には1,679人(▲12.7%)、10年後の令和17年には1,801人(▲6.3%)となると見込まれます。

図表 43 未就学児童数の将来推計（地域別）



2.未就学児保育・教育施設のニーズ量・利用者数の将来推計

(1) 推計の趣旨

近年の本市の未就学児保育・教育施設の利用者数は、第3章で示した通り、保育施設はやや増加傾向にあり、幼稚園・認定こども園は著しく減少していました。そこで、未就学児保育・教育施設のニーズ量・未就学児の利用者数の将来推計を実施しました。

(2) 推計手法

保育施設	新入園児（0歳、1歳）は入園率、在園児（2歳以上）は変化率（令和2年～令和7年の平均値）で算出し、結果を合計することで将来の保育ニーズ量を推計。
幼稚園・認定こども園	新入園児（3歳）は入園率、在園児（4歳以上）は変化率（令和2年～令和7年の平均値）で算出し、結果を合計することで将来の利用者数を推計。

推計期間：令和8年～令和17年（10年間）

【推計結果を見る際の留意点】

本推計は、市内在住の未就学児を対象としたものであり、市外からの通園者は含まれていません。そのため、市外からの通園者の割合が比較的多い施設については、実際の施設利用状況と推計結果が異なる場合があります。

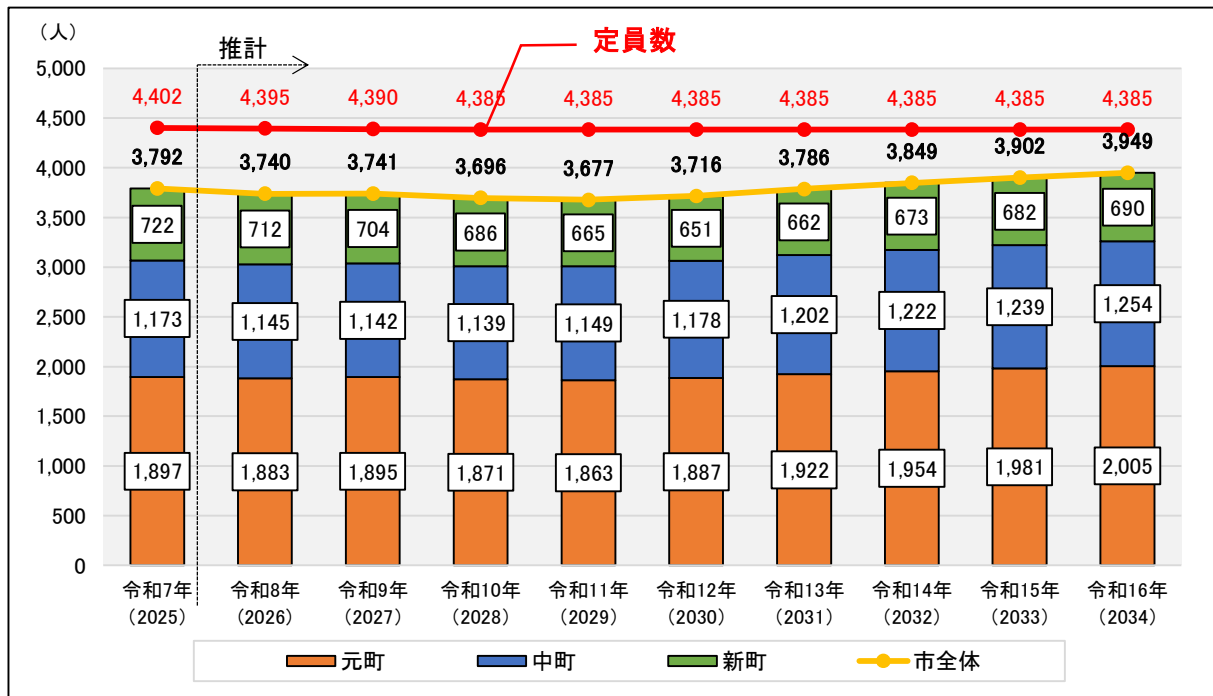
(3) 推計結果

① 保育施設のニーズ量

保育施設のニーズ量は今後も増加するものの、定員数の範囲内で推移する見込みであり、市内の保育ニーズに対する受け皿は十分確保されています。

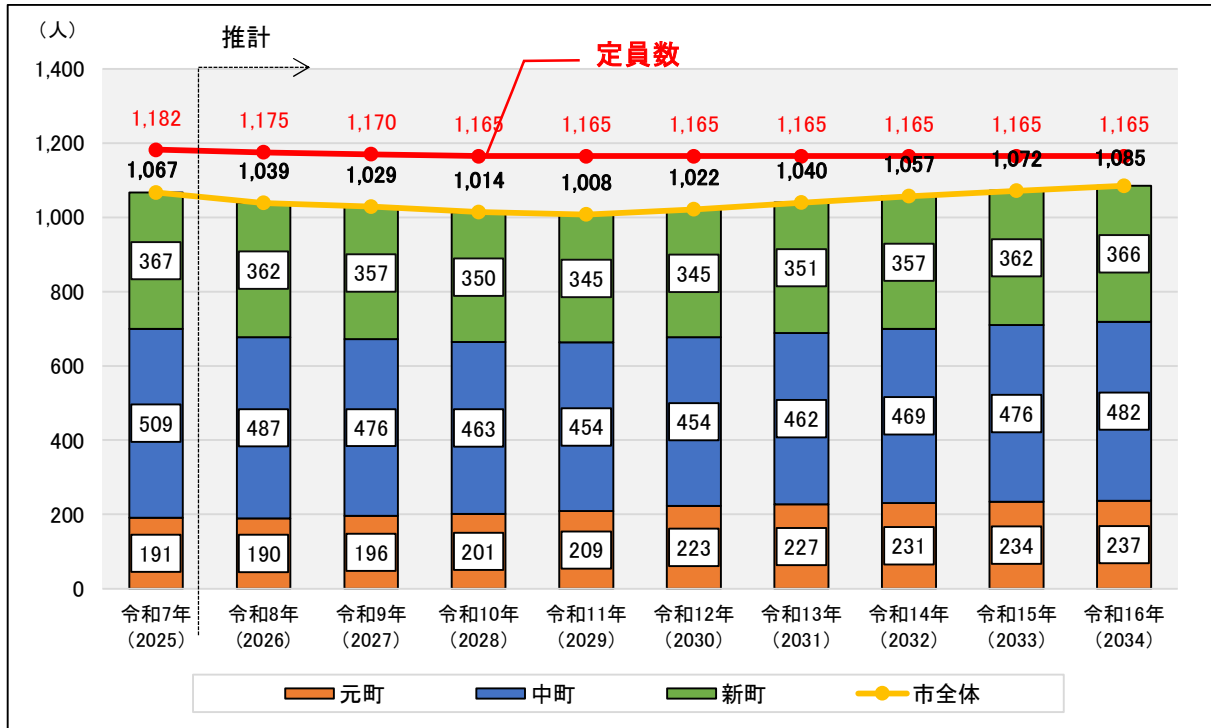
将来的には、共働き世帯の更なる増加、少子化の進行といった社会環境の変化によって、保育ニーズ量も変動することが想定されるため、保育施設全体として、今後のニーズ量を踏まえた必要かつ十分な保育の受け皿の確保を引き続き行っていく必要があります。

図表 44 保育施設全体に対するニーズ量の推計結果



※市立保育園の定員数は「浦安市立保育所の設置及び管理に関する条例」より。私立保育園等の定員数は、令和7年の定員数から変更がないものと想定。

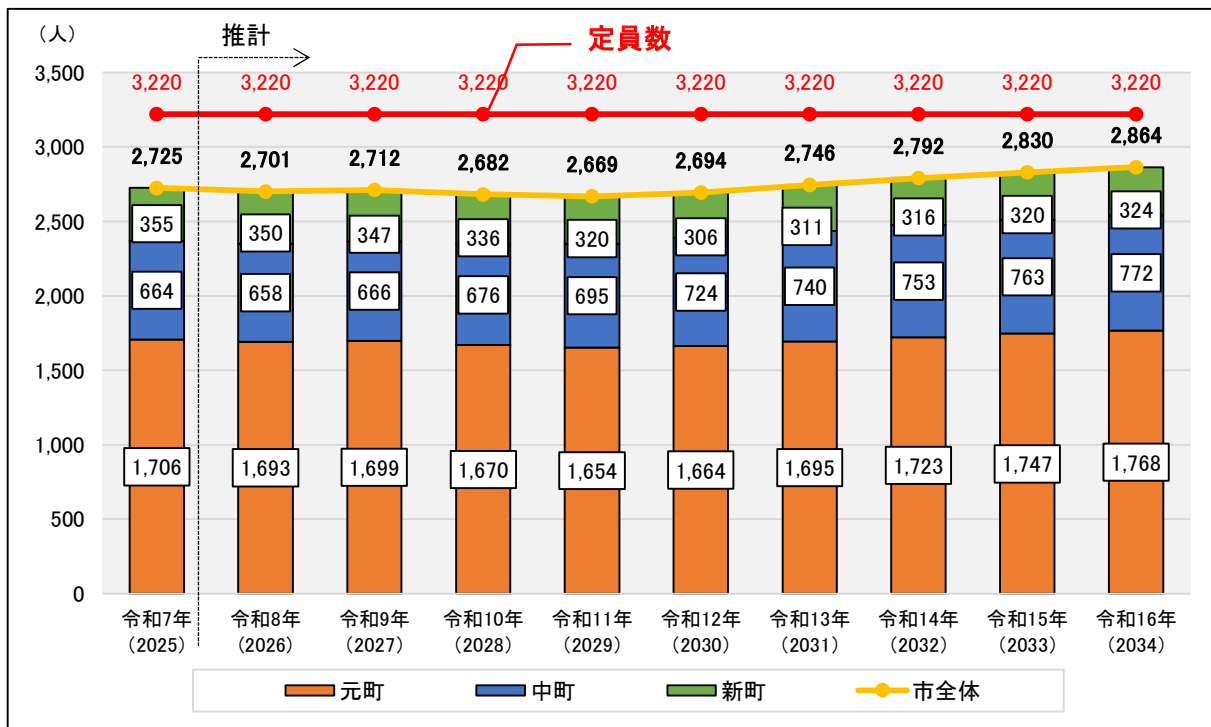
図表 45 市立保育園に対するニーズ量の推計結果



※市立保育園の定員数は「浦安市立保育所の設置及び管理に関する条例」より。

図表 46 私立保育園等(※)に対するニーズ量の推計結果

※私立保育園・幼保連携型認定こども園・小規模保育事業・家庭的保育事業の合計

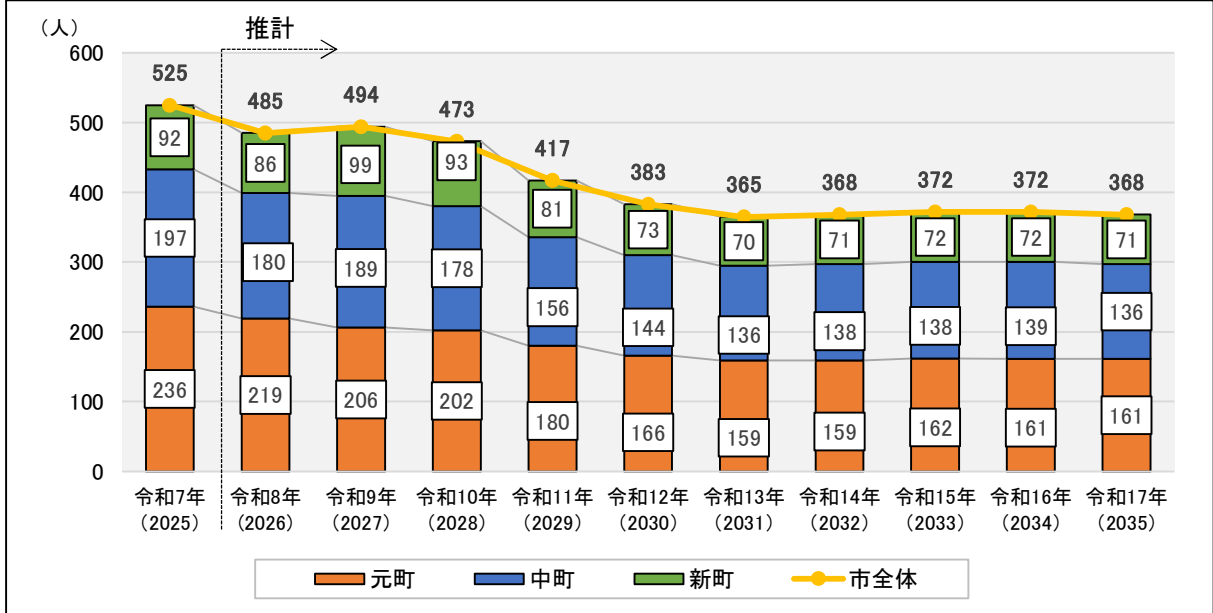


※私立保育園等の定員数は、令和7年の定員数から変更がないものと想定。

② 市立幼稚園・認定こども園の利用者数

利用者数は減少を続け、令和13年には365人と、令和7年の7割程度まで減少します。その後はおおむね横ばいで推移する見通しです。

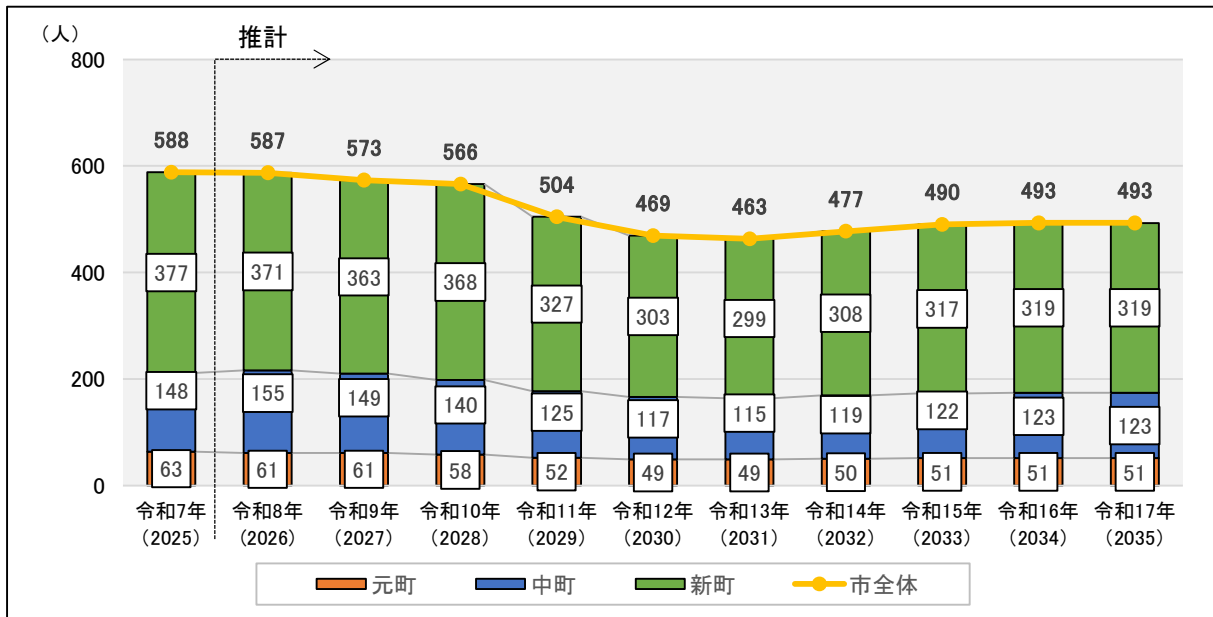
図表 47 市立幼稚園・認定こども園の推計結果



③ 私立幼稚園の利用者数

私立幼稚園の利用者数は、令和13年には463人と、令和7年の8割程度まで減少します。その後はやや回復するものの、10年後の令和17年には493人と、令和7年の84%程度の水準にとどまる見通しです。

図表 48 私立幼稚園・認定こども園の推計結果



3.推計結果の整理・考察

これまでの推計結果から、今後のニーズ量・利用者数について整理・考察します。

1：保育ニーズ量を踏まえた定員数の確保

保育施設のニーズ量は今後も増加するものの、定員数の範囲内で推移する見込みであり、市内の保育ニーズに対する受け皿は十分確保されています（P48 図表 45、46）。

もっとも、共働き世帯の更なる増加、少子化の進行といった社会環境の変化によって、保育ニーズ量も変動することが想定されます。

また、保育施設の全体ニーズ量はカバーできていても、定員数が相対的に少ない1, 2歳児では、将来的に定員超過が発生する可能性もあります。また、保育施設が相対的に少ない地域では通園時間などについて保護者の利便性を損なう可能性も考えられます。

そのため、今後のニーズ量を踏まえた必要かつ十分な保育の受け皿の確保を引き続き行っていく必要があります。

なお、受け皿確保に当たっては、既存の就学前保育・教育施設をより効率的に活用し、様々なニーズに柔軟に答えられるよう、施設のあり方等について見直しを検討することが適切です。

2：市立幼稚園・認定こども園の利用者数の急速な減少

市立幼稚園・認定こども園の利用者数は、令和7年の525人から令和13年には365人と、約3割減少し、その後も令和7年の7割程度の水準にとどまる見通しです（P49 図表 47）。

園児数が365人になった場合、1園あたりの園児数は約30人、1学年あたりでは約10人となります。そのため、多くの園で適切な集団規模を維持することが困難になります。十分な集団規模を確保できない園が増加すると、園児どうしの関係性が固定化されたり、集団での遊びや行事が縮小されたりして、社会性や協調性を育む機会が減少するといった課題が生じやすくなります。

また、園児数のさらなる減少により、空き教室の増加、園児1人あたりの人件費や維持管理費の増加など、非効率な運営による財政負担の増加が懸念されます。

5章 利用者のニーズ

1.利用者向けアンケート結果

(1) 調査概要

趣旨	市内保育・教育施設の利用者を対象として、入園先を選択する際に重視した項目や現在の満足度等のニーズを把握するために行いました。
調査方法	保育園・幼稚園・こども園の保育 ICT システム「キッズビュー」を利用し発送・回収
調査対象	市立保育園利用者、市立幼稚園・認定こども園利用者
調査時期	令和6年9月13日～9月25日
回答状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育園利用者 送信数：1,121件、回答数：631件（56%） ◆ 幼稚園・認定こども園利用者 送信数：628件、回答数：447件（71%）
結果の見方	<p>本文中の「SA」、「MA」、「n」は以下の略称である。</p> <p>「SA」（Single Answer）：単一回答形式（選択肢の中から1つを選択）</p> <p>「MA」（Multiple Answer）：複数回答形式（選択肢の中から複数を選択）</p> <p>「n」：設問に対する有効回答件数。</p>

(2) 市立保育園利用者結果

①対象先の属性

（単位：件、%）

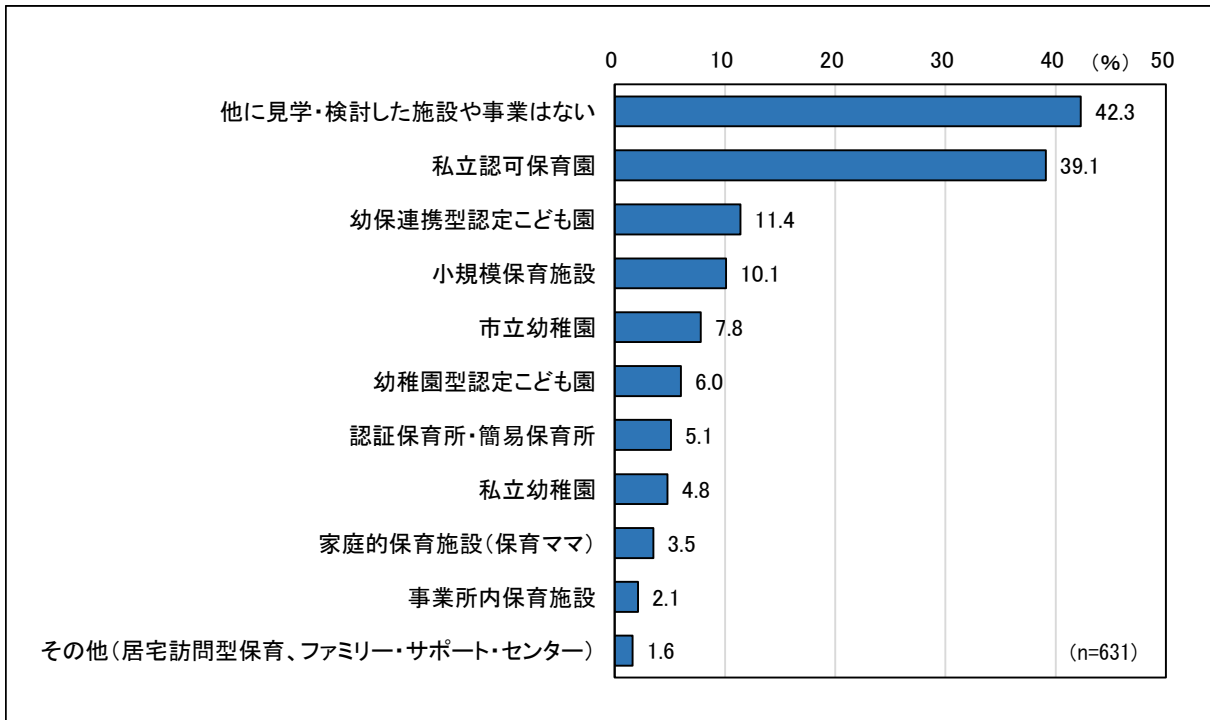
		回答数	割合
全体		631	100.0
性別	男性	75	11.9
	女性	556	88.1
年齢	20歳代	36	5.7
	30歳代	407	64.5
	40歳代	185	29.3
	50歳代	3	0.5
居住地	当代島	43	6.8
	猫実	12	1.9
	堀江	27	4.3
	北栄	75	11.9
	富士見	14	2.2
	海楽	11	1.7
	東野	54	8.6
	富岡	36	5.7
	弁天	28	4.4
	美浜	22	3.5
	入船	35	5.5
	今川	30	4.8
	鉄鋼	0	0.0
	舞浜	3	0.5
	日の出	81	12.8
	明海	25	4.0
高洲	134	21.2	
千鳥	1	0.2	
港	0	0.0	

②アンケート結果（抜粋）

Q.入園にあたり、ほかに見学・検討した施設や事業があればお答えください。（MA）

入園にあたり見学・検討した施設や事業は、「他に見学・検討した施設や事業はない」が42.3%で最も多く、以下、「私立認可保育園（39.1%）」、「幼保連携型認定こども園（11.4%）」が続いています。

地域別にみると、「私立認可保育園」は「元町（45.0%）」、「幼保連携型認定こども園」は「新町（20.7%）」、「家庭的保育施設（保育ママ）」は「中町（5.9%）」で比較的多くなっています。



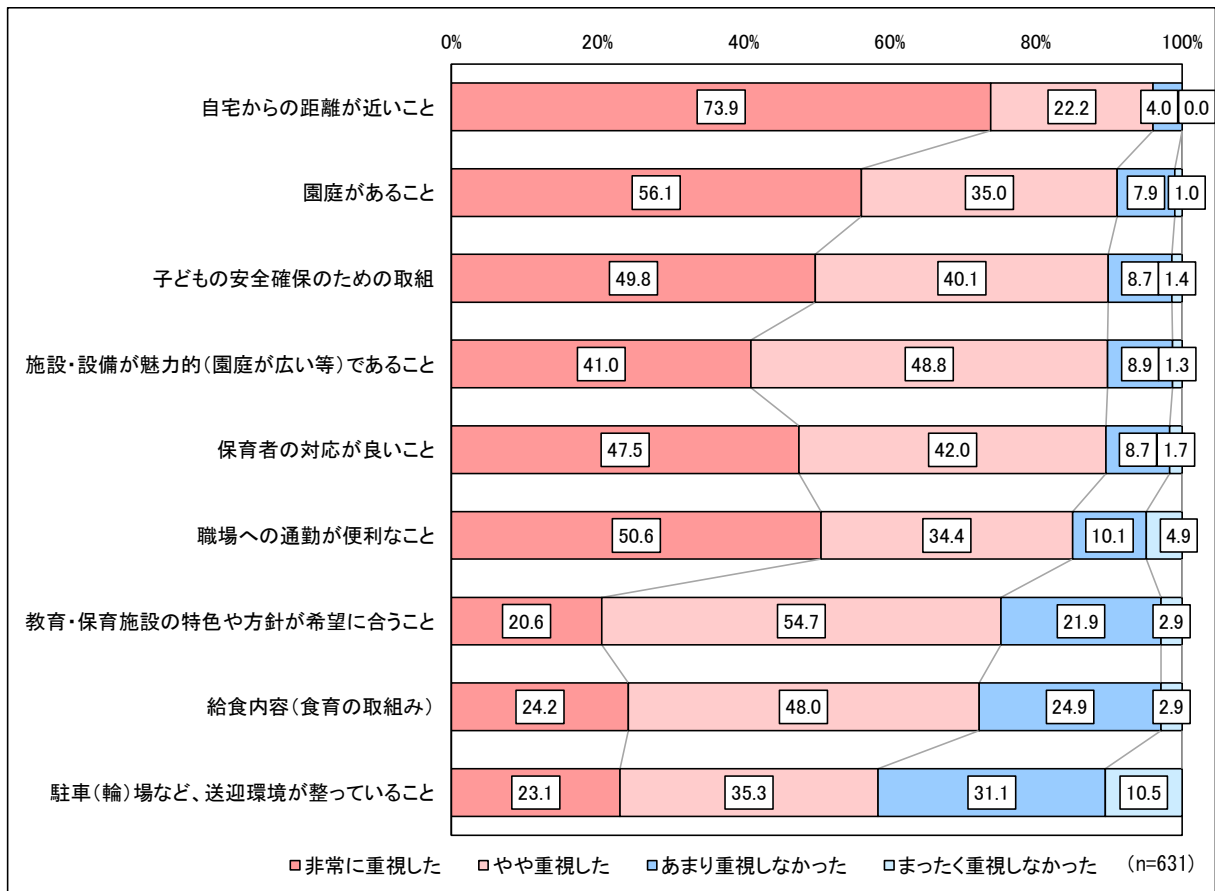
(単位: %)

	件数	他に見学・検討した施設や事業はない	私立認可保育園	幼保連携型認定こども園	小規模保育施設	市立幼稚園	幼稚園型認定こども園	認証保育所・簡易保育所	私立幼稚園	家庭的保育施設（保育ママ）	事業所内保育施設	その他（居宅訪問型保育、ファミリー・サポート・センター、ファ）
全体	631	42.3	39.1	11.4	10.1	7.8	6.0	5.1	4.8	3.5	2.1	1.6
元町	171	39.2	45.0	4.7	9.9	7.6	5.3	9.4	6.4	1.8	2.3	2.3
中町	219	44.3	36.5	6.4	10.0	7.3	5.0	4.1	3.7	5.9	4.1	1.4
新町	241	42.7	37.3	20.7	10.4	8.3	7.5	2.9	4.6	2.5	0.0	1.2

Q.保育園を選ぶ際に、以下の項目についてどの程度重視しましたか。(各SA)

保育園を選ぶ際に『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合が高い項目は、「自宅からの距離が近いこと(96.1%)」が最も多く、以下、「園庭があること(91.1%)」、「こどもの安全確保のための取組(89.9%)」が続きました。

『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合を地域別にみると、「自宅からの距離が近いこと」は、すべての地域で9割を超えています。また、「園庭があること」は元町でやや多く、「職場への通勤が便利なこと」は中町でやや多く、「教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと」、「駐車（輪）場など、送迎環境が整っていること」は、新町でやや多くなっています。

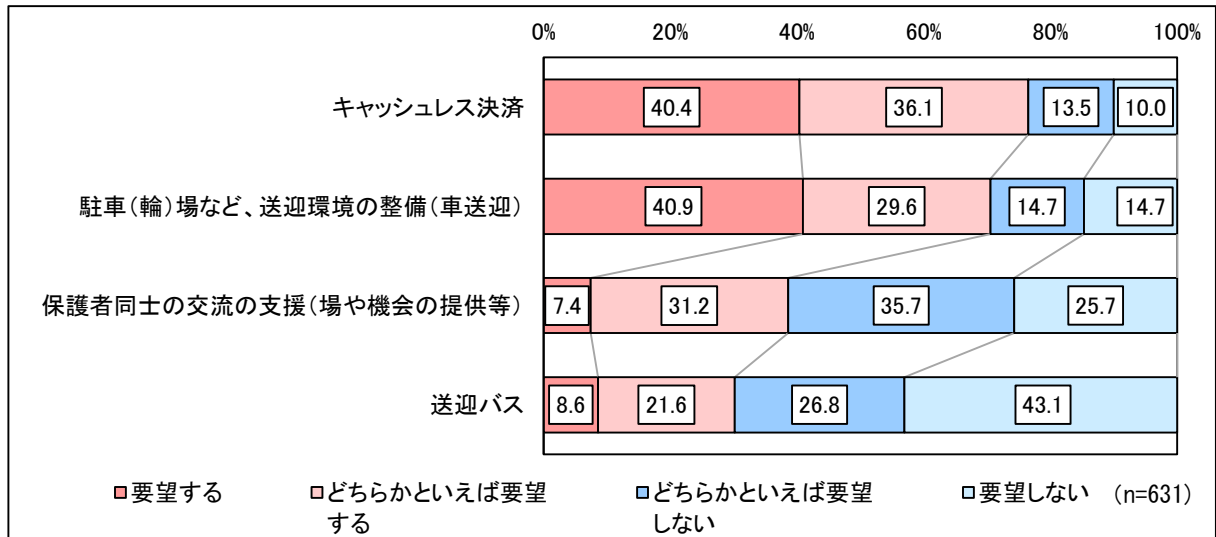


(単位: 件、%)

	件数	自宅からの距離が近いこと	園庭があること	子どもの安全確保のための取組	施設・設備が魅力的(園庭が広い等)であること	保育者の対応が良いこと	職場への通勤が便利なこと	教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと	(食育の取組み) 給食内容	駐車(輪)場など、送迎環境が整っていること
全体	631	96.1	91.1	89.9	89.8	89.5	85.0	75.3	72.2	58.4
元町	171	94.7	94.7	84.8	91.8	87.7	81.9	74.3	66.7	50.8
中町	219	98.2	88.1	91.3	87.7	88.6	88.1	71.7	74.9	57.9
新町	241	95.1	91.3	92.1	90.4	91.7	84.3	79.2	73.9	64.3

Q.保育園の運営・サービス面において、特に要望することは何ですか。(各SA)

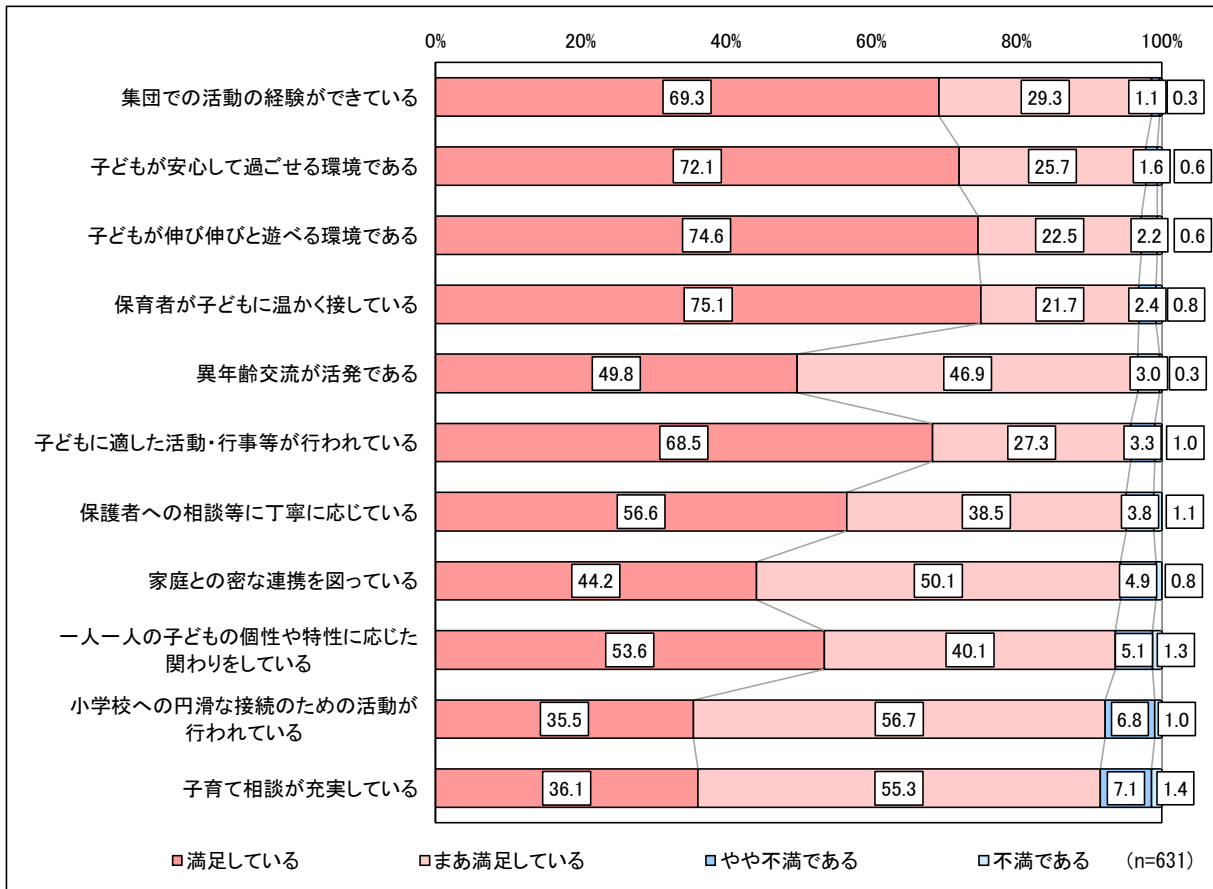
保育園の運営・サービス面において『要望する』（「要望する」+「どちらかといえば要望する」）と回答した割合が高い項目は、「キャッシュレス決済（76.5%）」が最も多く、以下、「駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）（70.5%）」、「保護者同士の交流の支援（場や機会の提供等）（38.6%）」が続きました。



(単位:%)

	要望する			要望しない		
	要望する	どちらかといえば要望する	どちらかといえば要望する	要望しない	どちらかといえば要望しない	要望しない
キャッシュレス決済	76.5	40.4	36.1	23.5	13.5	10.0
駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）	70.5	40.9	29.6	29.4	14.7	14.7
保護者同士の交流の支援（場や機会の提供等）	38.6	7.4	31.2	61.4	35.7	25.7
送迎バス	30.2	8.6	21.6	69.9	26.8	43.1

Q.お子さまが通園している保育園について、それぞれの項目に対し、どの程度満足していますか。
(各SA)



(単位:%)

項目	満足			不満		
	満足している	まあ満足している	満足している	不満	やや不満である	不満である
集団での活動の経験ができています	98.6	69.3	29.3	1.4	1.1	0.3
子どもが安心して過ごせる環境である	97.8	72.1	25.7	2.2	1.6	0.6
子どもが伸び伸びと遊べる環境である	97.1	74.6	22.5	2.8	2.2	0.6
保育者が子どもに温かく接している	96.8	75.1	21.7	3.2	2.4	0.8
異年齢交流が活発である	96.7	49.8	46.9	3.3	3.0	0.3
子どもに適した活動・行事等が行われている	95.8	68.5	27.3	4.3	3.3	1.0
保護者への相談等に丁寧に応じている	95.1	56.6	38.5	4.9	3.8	1.1
家庭との密な連携を図っている	94.3	44.2	50.1	5.7	4.9	0.8
一人一人の子どもの個性や特性に応じた関わりをしている	93.7	53.6	40.1	6.4	5.1	1.3
小学校への円滑な接続のための活動が行われている	92.2	35.5	56.7	7.8	6.8	1.0
子育て相談が充実している	91.4	36.1	55.3	8.5	7.1	1.4

自由意見（参考）

趣旨を尊重しながら誤字等を修正しています。

高洲に住んでいますが、徒歩すぐに行ける保育園がなく、新設されれば良いなと思っております。

1歳児と2歳児の受入枠が少なく、保留児童や待機児童が多い状況なので、枠の拡大や新園設立などの対策をお願いしたいです。

まだまだ希望する保育施設に入園できる機会は少なく、保育施設もエリアによって偏りがある。家から反対方向、バスのアクセスも悪い位置に住んでいるため雨の日や台風の日などはとても辛い。希望する保育園に誰もが入園できる体制を整えていただきたい。

早くこども園化してほしい。

明海地区は子供の数が多いのに対し私立保育園しかなく、バランスが悪いなと感じます。（私立には一定数他の地区から集まってくる傾向があり、近くの住民が入れない）

特に第一子で遠くの保育園になりかつ車が使えないとなると、第二子へのハードルが高くなると感じました。

3歳の子どもをこども園など教育要素のある園にいれたいが、兄弟姉妹で別々だと送迎が大変で非常にハードルが高い。0歳児から通えるこども園を増やしていただきたい。

こども園は園児が少ないと聞きます。どうして統合して園児数を増やさないのでしょうか？少人数の良さはあるのはわかりますが、集団での学びの意味とは…とってしまいます。単学級だと、先生方の負担も大きいでしょうし、次世代を育てるのも大変なのではないでしょうか？

日中の活動で、もう少し体験・経験が増えるとより嬉しいです。この保育園期間中の経験を通じて、興味に繋がることが出てくると思うので。

年長になるとイベント（遠足や行事など）が多くなるが、それまでの年齢のイベントが少ないため、経験や思い出作りのためにももう少し増やしてほしい。

きょうだいを同時に預けたくて、選べる中で1番自宅に近い日の出保育園を選びましたが、駐車場から園舎が遠いのが難点です。雨の日など本当に大変でびしょびしょです。駐車場からの道のりも雑草だらけなので、道の整備もお願いしたいし、もう少し駐車場が近くなるか、園舎が駐車場近くに移転してこないかと毎日思っています。

保育園の学区内の小学校の連携はあるかと思いますが、隣の学区の小学校以外に通う場合も多いので、訪れる機会を増やしてもらえるとありがたいです。

難しいとは思いますが学区外の小学校とも連携をとってもらえるとありがたいです。

児童発達の専門家が常駐してもらえるといろんな子の発達に寄り添えるようになると思います。

(3)市立幼稚園・認定こども園利用者結果**①対象者の属性**

(単位:件、%)

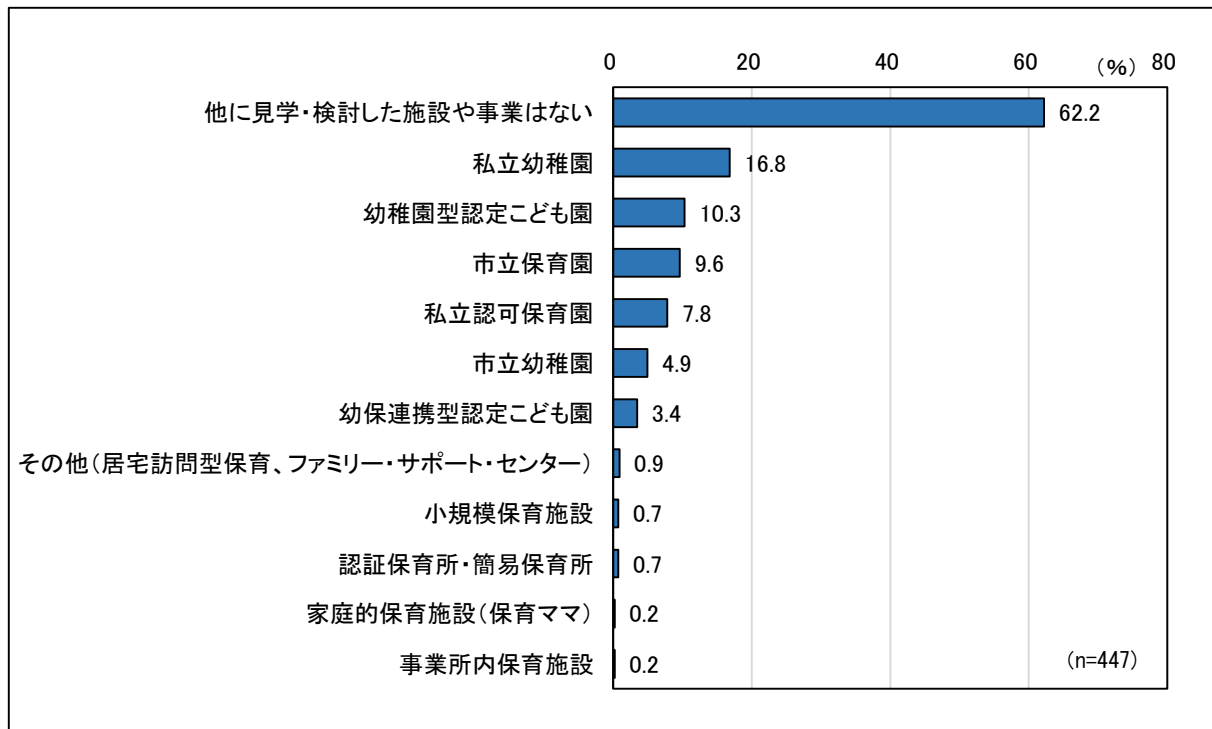
		回答数	割合
全体		447	100.0
性別	男性	14	3.1
	女性	433	96.9
年齢	20歳代	12	2.7
	30歳代	271	60.6
	40歳代	159	35.6
	50歳代	4	0.9
	60歳代	1	0.2
居住地	当代島	26	5.8
	猫実	25	5.6
	堀江	56	12.5
	北栄	76	17.0
	富士見	44	9.8
	海楽	23	5.1
	東野	18	4.0
	富岡	16	3.6
	弁天	25	5.6
	美浜	16	3.6
	入船	9	2.0
	今川	17	3.8
	鉄鋼	0	0.0
	舞浜	9	2.0
	日の出	28	6.3
	明海	33	7.4
	高洲	26	5.8
	千鳥	0	0.0
	港	0	0.0

②アンケート結果（抜粋）

Q.入園にあたり、ほかに見学・検討した施設や事業があればお答えください。（MA）

入園にあたり見学・検討した施設や事業は、「他に見学・検討した施設や事業はない」が62.2%で突出して多く、以下、「私立幼稚園（16.8%）」、「幼稚園型認定こども園（10.3%）」が続いています。

地域別にみると、「私立幼稚園」、「市立保育園」は新町で多く、「私立認可保育園」は元町で比較的多くなっています。



(単位: %)

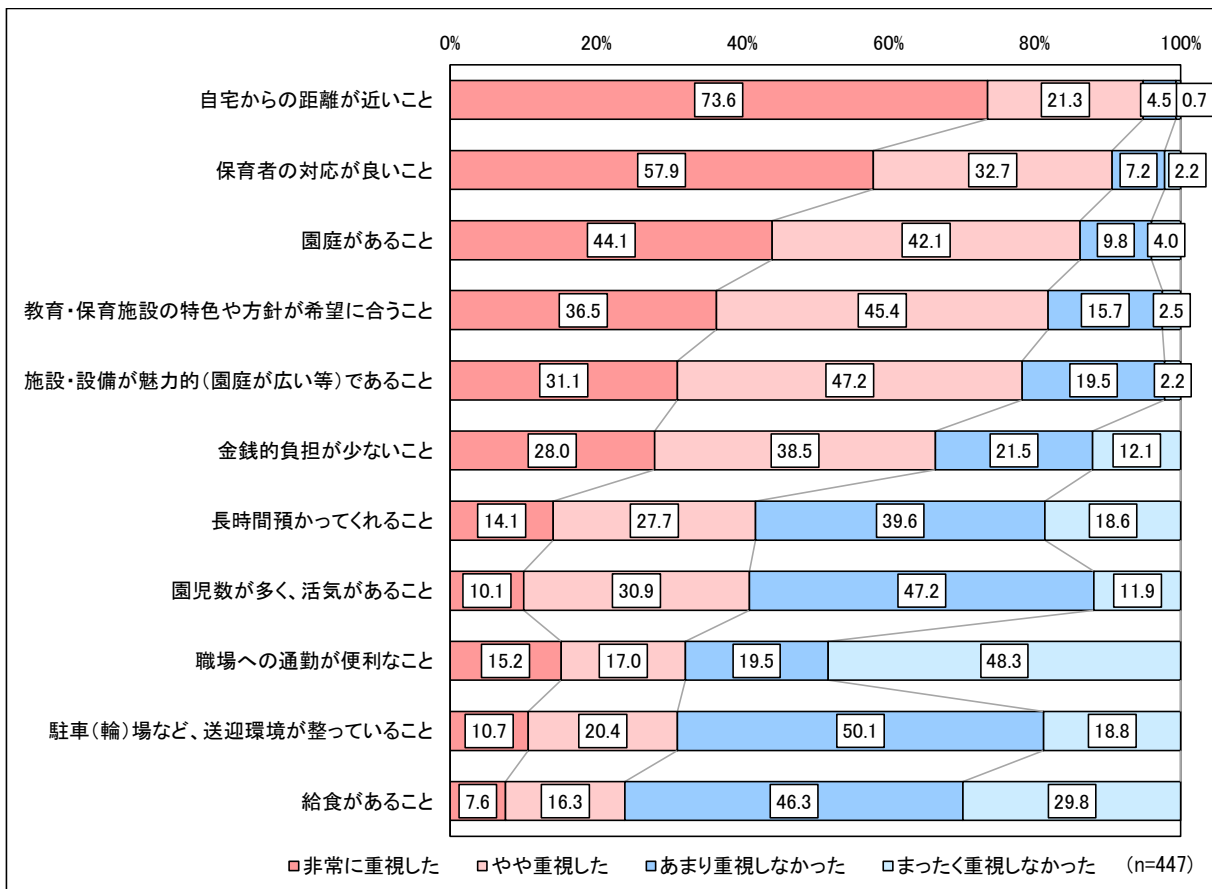
	件数	他に見学・検討した施設や事業はない	私立幼稚園	幼稚園型認定こども園	市立保育園	私立認可保育園	市立幼稚園	幼保連携型認定こども園	その他(居宅訪問型保育、ファミリー・サポート・センター)	小規模保育施設	認証保育所・簡易保育所	家庭的保育施設(保育ママ)	事業所内保育施設
全体	447	62.2	16.8	10.3	9.6	7.8	4.9	3.4	0.9	0.7	0.7	0.2	0.2
元町	227	67.0	11.9	11.9	8.4	10.1	3.5	1.8	0.4	0.9	1.3	0.0	0.0
中町	133	62.4	18.0	9.8	9.0	3.8	6.0	3.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8
新町	87	49.4	27.6	6.9	13.8	8.0	6.9	8.0	1.1	1.1	0.0	1.1	0.0

Q.幼稚園・認定こども園を選ぶ際に、以下の項目についてどの程度重視しましたか。

(各SA)

幼稚園・認定こども園を選ぶ際に『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合が高い項目は、「自宅からの距離が近いこと（94.9%）」が最も多く、以下、「保育者の対応が良いこと（90.6%）」、「園庭があること（86.2%）」が続きました。

『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合を地域別にみると、「自宅からの距離が近いこと」は、すべての地域で9割を超えています。また、「教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと」、「長時間預かってくれること」は、新町で比較的多くなっています。



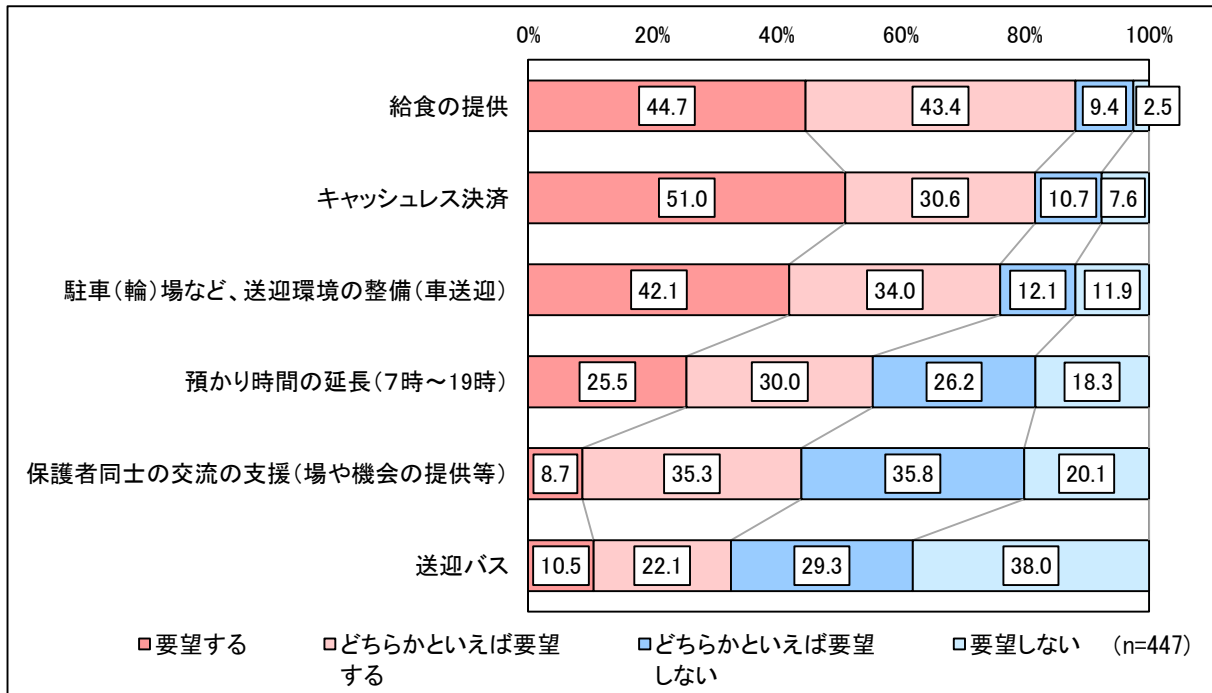
(単位:件、%)

	件数	自宅からの距離が近いこと	保育者の対応が良いこと	園庭があること	教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと	施設・設備が魅力的(園庭が広い等)であること	金銭的負担が少ないこと	長時間預かってくれること	活気があること、園児数が多いこと	職場への通勤が便利なこと	送迎環境が整っていること、駐車(輪)場など	給食があること
全体	447	94.9	90.6	86.2	81.9	78.3	66.5	41.8	41.0	32.2	31.1	23.9
元町	227	93.8	89.8	87.2	80.2	80.2	67.9	44.0	43.2	34.3	30.0	24.7
中町	133	94.8	89.5	84.9	81.2	75.9	69.2	34.6	37.6	25.6	31.6	21.1
新町	87	97.7	94.3	85.1	87.4	77.0	58.6	47.1	40.2	36.7	33.3	26.4

Q.幼稚園・認定こども園の運営・サービス面において、特に要望することは何ですか。

(各SA)

幼稚園・認定こども園の運営・サービス面において『要望する』（「要望する」+「どちらかといえば要望する」）と回答した割合が高い項目は、「給食の提供（88.1%）」が最も多く、以下、「キャッシュレス決済（81.6%）」、「駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）（76.1%）」が続きました。

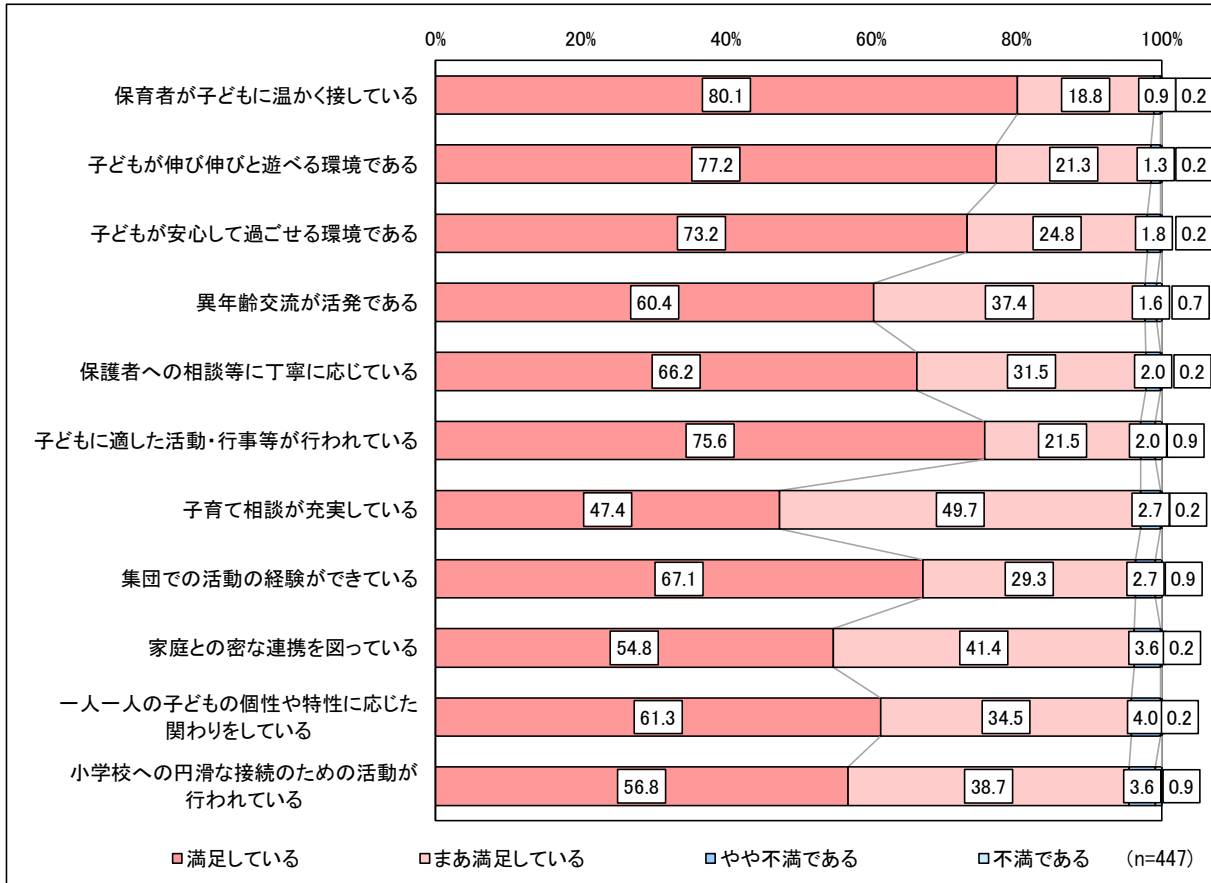


(単位: %)

	要望する	要望する	どちらかとい えは要望 する	要望しない	どちらかとい えは要望 しない	要望しない
給食の提供	88.1	44.7	43.4	11.9	9.4	2.5
キャッシュレス決済	81.6	51.0	30.6	18.3	10.7	7.6
駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）	76.1	42.1	34.0	24.0	12.1	11.9
預かり時間の延長（7時～19時）	55.5	25.5	30.0	44.5	26.2	18.3
保護者同士の交流の支援（場や機会の提供等）	44.0	8.7	35.3	55.9	35.8	20.1
送迎バス	32.6	10.5	22.1	67.3	29.3	38.0

Q.お子様が通園している幼稚園・認定こども園について、それぞれの項目に対し、どの程度満足していますか。(各SA)

幼稚園・認定こども園について『満足』（「満足している」＋「まあ満足している」）と回答した割合が高い項目は、「保育者が子どもに温かく接している（98.9%）」が最も多く、以下、「子どもが伸び伸びと遊べる環境である（98.5%）」、「子どもが安心して過ごせる環境である（98.0%）」が続きました。『満足』の割合は、11項目いずれも9割を超えています。



(単位:%)

	満足	満足している	まあ満足している	不満足	やや不満である	不満である
保育者が子どもに温かく接している	98.9	80.1	18.8	1.1	0.9	0.2
子どもが伸び伸びと遊べる環境である	98.5	77.2	21.3	1.5	1.3	0.2
子どもが安心して過ごせる環境である	98.0	73.2	24.8	2.0	1.8	0.2
異年齢交流が活発である	97.8	60.4	37.4	2.3	1.6	0.7
保護者への相談等に丁寧に応じている	97.7	66.2	31.5	2.2	2.0	0.2
子どもに適した活動・行事等が行われている	97.1	75.6	21.5	2.9	2.0	0.9
子育て相談が充実している	97.1	47.4	49.7	2.9	2.7	0.2
集団での活動の経験ができています	96.4	67.1	29.3	3.6	2.7	0.9
家庭との密な連携を図っている	96.2	54.8	41.4	3.8	3.6	0.2
一人一人の子どもの個性や特性に応じた関わりをしている	95.8	61.3	34.5	4.2	4.0	0.2
小学校への円滑な接続のための活動が行われている	95.5	56.8	38.7	4.5	3.6	0.9

自由意見（参考）

趣旨を尊重しながら誤字等を修正しています。

極端に人数の少ない園は今後どうなるのか不安。こども園も給食にしたり、送迎するなどして、園児数を増やした方が良いと思う。こども園の良い施設をしっかりと活用してほしい。

園児数の減少。(年長は人数がいるけど、年中年少の人数が少ない)

少人数だからこそその良さもあるが、この時期だからこそ、たくさんのお友達と過ごすことで得るものも沢山あると思うので、他の園との交流機会を増やしたりして欲しい。

地域によって、こども園に人数の差があることが少し気になっています。現在のクラス人数に対して、学区小学校のクラス人数がとて多く、進級の時には、ひとクラスに倍以上の人数がいる集団生活に慣れる必要があると予想していて、現時点では少人数の良さを感じている中、数年後の不安も少し感じてとまどいを感じてしまうところがあります。

何か市としても検討できる部分がありましたら、お願いしたいです。

人数が少ないことが寂しいです。他園との合併なども検討いただきたいです。

多少遠くても良いので、人数が多い、クラス数もある園に通わせたいと思う。人数が減る一方で、今後の園運営に不安を感じる場合があります。

我が子が通うクラスは子どもがとても少なく、クラスだけで集団生活の良し悪し(例えば、手洗いに並ぶ列が短すぎて、待つ練習や待つ人の為に早く洗おうと思う気持ちや、運動会のクラス競技でできることが限られるなど)を学ぶことが難しいと思っている。本市は公立の幼稚園やこども園がたくさんあり充実しているのだから、もっと通う人が増えてほしいと思う。

公立幼稚園をこども園にして、1号も働きやすい環境にして欲しい。(まわりの保護者も言っているので需要はかなり高いです。)

自宅からの距離で幼稚園を選択しましたが、認定こども園になってほしいです。子どもが大きくなってきて仕事を見つけないと考えると、幼稚園では預かり時間の延長がないためです。なぜ市内で三園だけ認定こども園になっていないのでしょうか。ぜひ認定こども園化を検討していただきたいです。

要望は、年少の預かりを一学期から始めてほしい。一学期から年少も14時降園にしてほしい。

給食にしてもらえれば、保育園や私立幼稚園へ通う子供が市の認定こども園に来てくれると思う。特に園児が少ない幼稚園は園児を増やせるいい機会になると思う。

給食の日を決め、実行することは子どもが苦手なものにも挑戦でき、とても良いと思います。しかし、その日の食事がなかなか子どもウケしないメニューが多く、せめて子どもが好きそうな挑戦しやすいメニューにして頂きたいです。

1号認定で入園させ慣れた頃に2号認定の申請をしたいと思い、少し離れたこども園に通わせましたが、2号の枠が常に一杯で仕事を探すことが出来ません。

難しいとは思いますが、2号認定の枠をもう少し増やしていただけたら嬉しいです。

2.0～2 歳児向けアンケート結果

(1) 調査概要

趣旨	0歳から2歳児の保護者の保育園、幼稚園・認定こども園等へのニーズを把握するために行いました。
調査方法	郵送にて発送・WEBで回収
調査対象	市内の0歳から2歳児の保護者
調査時期	令和7年4月21日～5月7日
回答状況	発送数：2,814件、回答数：1,572件（回答率：55.9%）
結果の見方	本文中の「SA」、「MA」、「n」は以下の略称である。 「SA」（Single Answer）：単一回答形式（選択肢の中から1つを選択） 「MA」（Multiple Answer）：複数回答形式（選択肢の中から複数を選択） 「n」：設問に対する有効回答件数。

(2) 調査結果

① 対象先の属性

【性別・年代】

		回答数	割合
全体		1,572件	100.0%
性別	男性	216件	13.7%
	女性	1,352件	86.0%
	その他	4件	0.3%
年代	10歳代	2件	0.1%
	20歳代	194件	12.3%
	30歳代	1,081件	68.8%
	40歳代	283件	18.0%
	50歳代	10件	0.6%
	60歳代以上	2件	0.1%

【居住地】

		回答数	割合
全体		1,572件	100.0%
居住地	当代島	99件	6.3%
	猫実	103件	6.6%
	堀江	159件	10.1%
	北栄	239件	15.2%
	富士見	149件	9.5%
	海楽	42件	2.7%
	東野	73件	4.6%
	富岡	45件	2.9%
	弁天	61件	3.9%
	美浜	57件	3.6%
	入船	60件	3.8%
	今川	48件	3.1%
	鉄鋼	0件	0.0%
	舞浜	17件	1.1%
	日の出	139件	8.8%
	明海	103件	6.6%
	高洲	178件	11.3%
	千鳥	0件	0.0%
港	0件	0.0%	

②アンケート結果（抜粋）

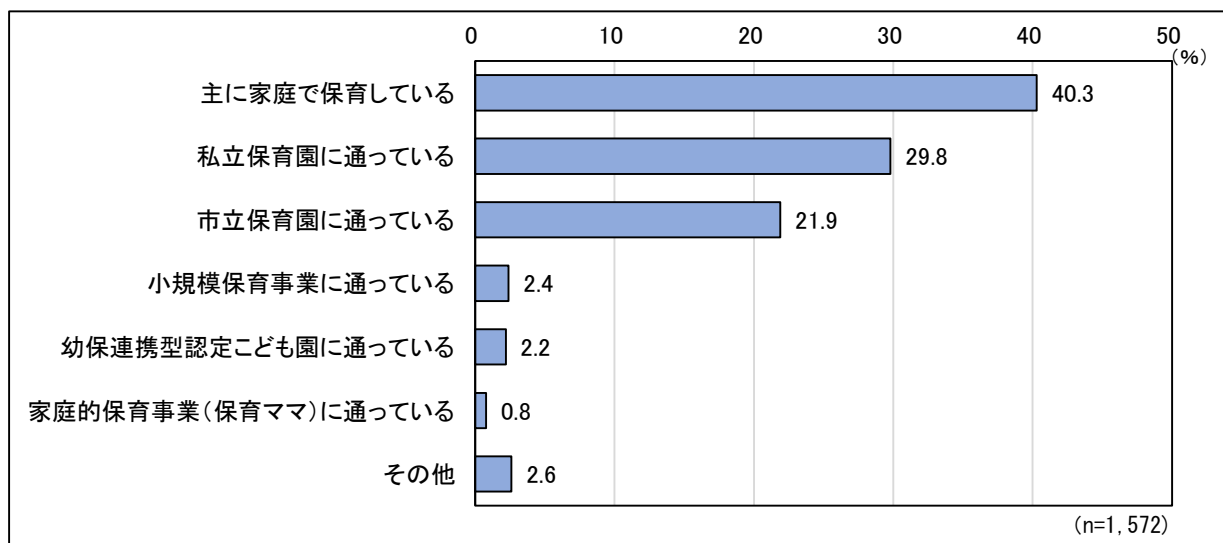
Q.現在の保育状況についてお答えください。（SA）

現在の保育状況は、「主に家庭で保育している（40.3%）」が最も多く、次いで「私立保育園に通っている（29.8%）」、「市立保育園に通っている（21.9%）」となりました。

地域別にみると、「主に家庭で保育」は、新町（41.9%）と元町（40.5%）が中町（38.2%）よりもわずかに多い傾向がみられました。

「私立保育園」は元町（37.7%）で、「市立保育園」は新町（28.1%）と中町（26.3%）でそれぞれ多く、「幼保連携型認定こども園」は新町（6.2%）が他の地域よりも約5ポイント多い結果でした。

年齢別にみると、「主に家庭で保育」は0歳（74.9%）で非常に多い一方、1歳（28.7%）と2歳（24.6%）では3割未満でした。



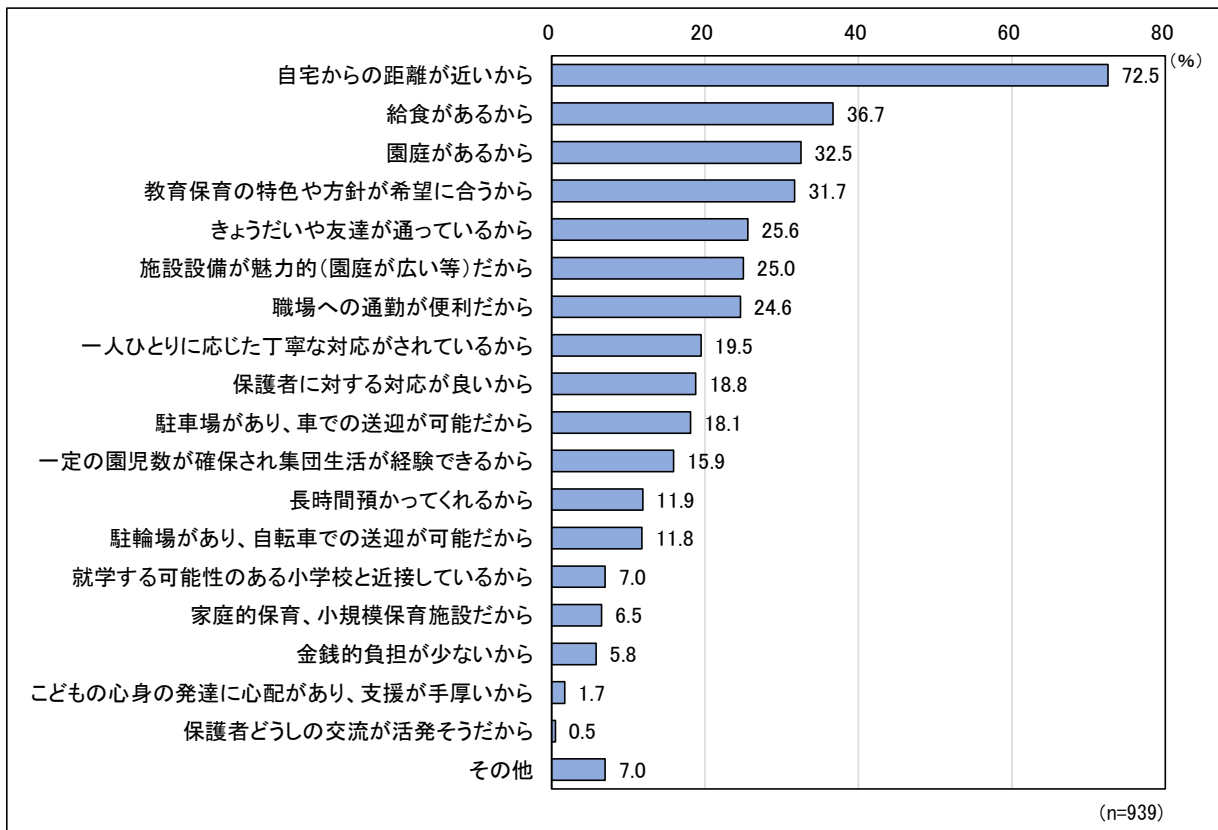
(単位: 件、%)

		合計	主に家庭 で保育	私立 保育園	市立 保育園	小規模 保育事業	幼保連携 型認定 こども園	家庭的 保育事業 (保育 ママ)	その他
全体		1,572	40.3	29.8	21.9	2.4	2.2	0.8	2.6
地域	元町	99	40.5	37.7	16.2	2.0	0.8	0.8	2.1
	中町	103	38.2	28.5	26.3	2.5	0.5	1.0	3.0
	新町	159	41.9	17.1	28.1	3.1	6.2	0.5	3.1
年齢	0歳	447	74.9	14.3	8.3	0.7	0.4	0.4	0.9
	1歳	512	28.7	37.3	28.1	2.3	2.3	0.4	0.8
	2歳	613	24.6	34.9	26.8	3.8	3.3	1.3	5.4

Q.現在の保育施設を選んだ理由についてお答えください。(MA)

現在の保育状況で「主に家庭で保育している」以外を選んだ方（＝現在何らかの保育施設を利用している方）に対し、現在の保育施設を選んだ理由を尋ねました。その結果、「自宅からの距離が近いから（72.5%）」が最も多く、2位の「給食があるから（36.7%）」に倍近くの差をつけました。

3位は「園庭があるから（32.5%）」となりました。なお、園の施設設備に関するものとして、6位の「施設設備が魅力的（園庭が広い等）だから」も25.0%と比較的多くみられました。



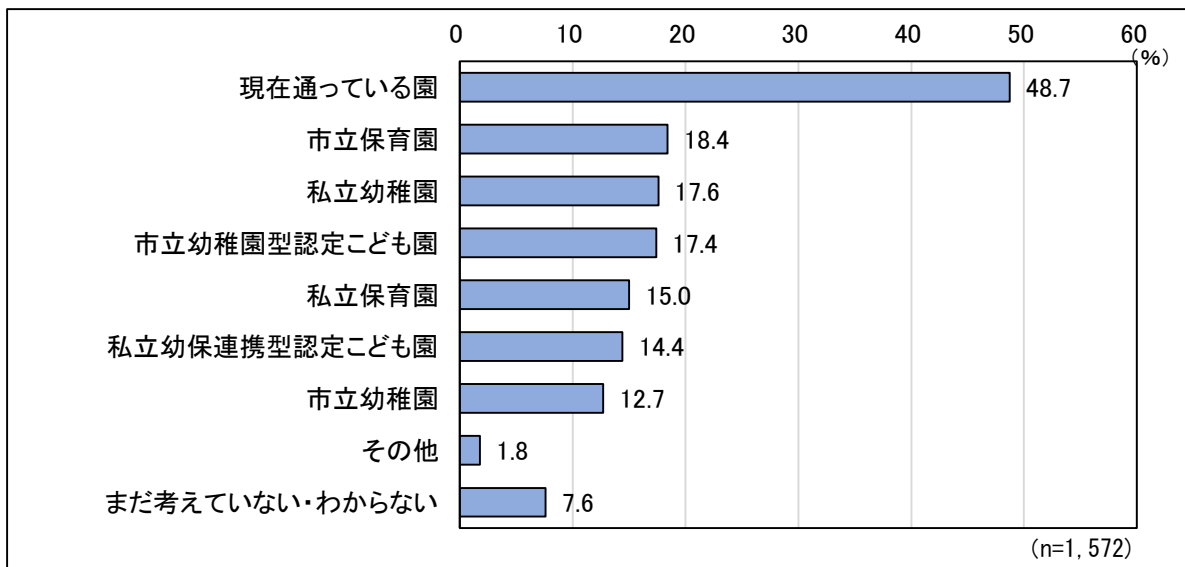
Q.お子様が3歳以上になったとき、どのような保育・教育施設に通わせたいですか。(MA)

子どもが3歳以上になった時に通わせたい施設について尋ねたところ、「現在通っている園(48.7%)」が最も多くなりました。次いで「市立保育園(18.4%)」、「私立幼稚園(17.6%)」、「市立幼稚園型認定こども園(17.4%)」などとなりました。

現在の保育状況別にみると、現在、主に家庭で保育している人は、「市立幼稚園型認定こども園(30.6%)」、「市立保育園(30.3%)」に通わせたいという回答がやや多かったものの、他の施設にも回答が分散する傾向がみられました。

現在、市立保育園、私立保育園、幼保連携型認定こども園を利用している人は、いずれも8割以上が「現在通っている園」に通わせたいという結果でした。

現在、小規模保育事業や、家庭的保育事業(保育ママ)を利用している人は、「市立保育園」や「私立保育園」などに通わせたいという人が多くなりました。

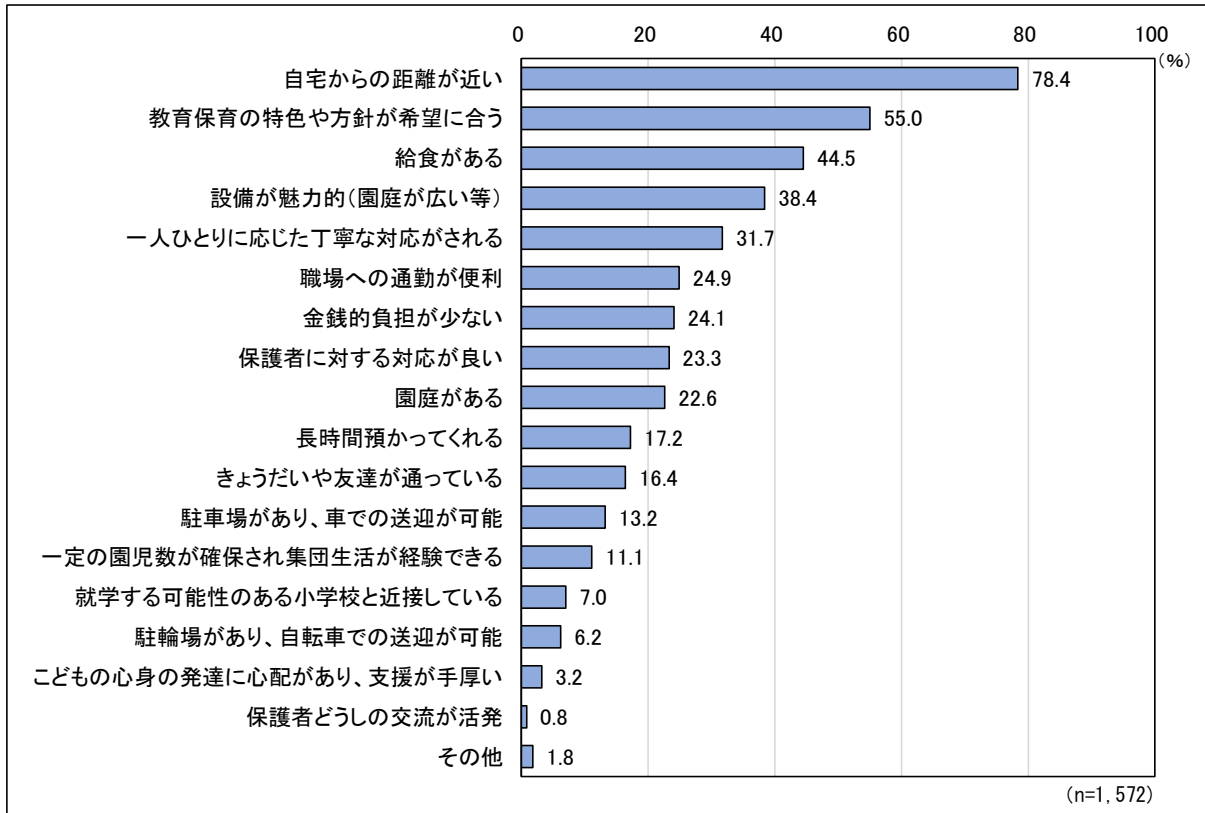


(単位: 件、%)

	合計	現在通っている園	市立保育園	私立幼稚園	市立幼稚園型認定こども園	私立保育園	私立幼保連携型認定こども園	市立幼稚園	その他	まだ考えていない・わからない							
											件	割合 (%)	件	割合 (%)	件	割合 (%)	件
全体	1,572	48.7	18.4	17.6	17.4	15.0	14.4	12.7	1.8	7.6							
現在の保育状況	主に家庭で保育	633	7.4	30.3	29.1	30.6	24.2	21.0	24.6	1.4	11.1						
	市立保育園	345	80.3	11.6	8.7	8.4	4.3	9.3	5.5	1.7	5.5						
	私立保育園	469	81.2	6.4	8.7	8.3	9.8	10.0	3.6	1.5	4.3						
	幼保連携型認定こども園	34	88.2	0.0	5.9	2.9	0.0	5.9	2.9	0.0	2.9						
	小規模保育事業	38	18.4	42.1	15.8	10.5	36.8	15.8	7.9	7.9	15.8						
	家庭的保育事業(保育ママ)	12	8.3	33.3	16.7	25.0	25.0	25.0	0.0	8.3	8.3						
	その他	41	56.1	19.5	29.3	7.3	12.2	9.8	9.8	4.9	7.3						

Q.お子様が3歳以上になったとき、通わせたいと考えている保育・教育施設に対してどのような点を重視しますか。(MA)

子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設に重視する点は、「自宅からの距離が近い(78.4%)」が最も多く、次いで「教育保育の特色や方針が希望に合う(55.0%)」、「給食がある(44.5%)」などとなりました。



■ 子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別（希望数が多い施設順に掲載）

市立保育園は、「金銭的負担が少ない（33.8%）」が全体よりも9.7ポイント、「自宅からの距離が近い（85.5%）」が全体よりも7.1ポイント高くなりました。

私立幼稚園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（76.9%）」が全体よりも21.9ポイント、「設備が魅力的（園庭が広い等）（48.0%）」が9.7ポイント、「給食がある（53.1%）」が8.6ポイント高い結果でした。

市立幼稚園型認定こども園は、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている（40.3%）」が全体よりも8.6ポイント、「金銭的負担が少ない（31.9%）」が7.8ポイント高くなりました。

私立保育園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（71.2%）」が全体よりも16.2ポイント高い結果でした。

幼保連携型認定こども園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（75.3%）」が全体よりも20.4ポイント高く、また、「設備が魅力的（園庭が広い等）（53.3%）」も全体よりも14.9ポイント高くなりました。

市立幼稚園は、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている（42.5%）」が全体よりも10.8ポイント、「金銭的負担が少ない（34.5%）」が10.4ポイント高い結果でした。

市立保育園

全体(n=290)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	85.5	7.1
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	51.7	▲ 3.2
3位	給食がある	46.9	2.4
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	42.4	4.1
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	36.2	4.5
6位	金銭的負担が少ない	33.8	9.7
7位	職場への通勤が便利	31.4	6.4
8位	園庭がある	21.7	▲ 0.9
9位	長時間預かってくれる	21.0	3.9
10位	保護者に対する対応が良い	20.7	▲ 2.7

私立幼稚園

全体(n=277)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	教育保育の特色や方針が希望に合う	76.9	21.9
2位	自宅からの距離が近い	63.5	▲ 14.9
3位	給食がある	53.1	8.6
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	48.0	9.7
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	39.4	7.6
6位	園庭がある	30.0	7.4
7位	金銭的負担が少ない	20.9	▲ 3.2
8位	長時間預かってくれる	18.4	1.2
9位	きょうだいや友達が通っている	16.6	0.2
10位	保護者に対する対応が良い	15.2	▲ 8.2

市立幼稚園型認定こども園

全体(n=273)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	83.2	4.7
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	62.3	7.3
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	42.1	3.8
4位	給食がある	40.7	▲ 3.8
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	40.3	8.6
6位	金銭的負担が少ない	31.9	7.8
7位	園庭がある	27.8	5.3
8位	保護者に対する対応が良い	21.6	▲ 1.7
9位	職場への通勤が便利	17.2	▲ 7.7
10位	長時間預かってくれる	16.1	▲ 1.1

私立保育園

全体(n=236)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	82.6	4.2
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	71.2	16.2
3位	給食がある	46.6	2.1
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	45.8	7.4
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	36.9	5.1
6位	職場への通勤が便利	29.7	4.7
7位	保護者に対する対応が良い	24.6	1.2
8位	金銭的負担が少ない	22.9	▲ 1.2
9位	園庭がある	21.6	▲ 1.0
10位	駐車場があり、車での送迎が可能	17.8	4.6

幼保連携型認定こども園

全体(n=227)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	教育保育の特色や方針が希望に合う	75.3	20.4
2位	自宅からの距離が近い	72.2	▲ 6.2
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	53.3	14.9
4位	給食がある	49.8	5.3
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	38.8	7.0
6位	金銭的負担が少ない	23.3	▲ 0.8
7位	駐車場があり、車での送迎が可能	21.1	8.0
8位	職場への通勤が便利	20.7	▲ 4.2
9位	長時間預かってくれる	20.3	3.1
10位	保護者に対する対応が良い	18.9	▲ 4.4

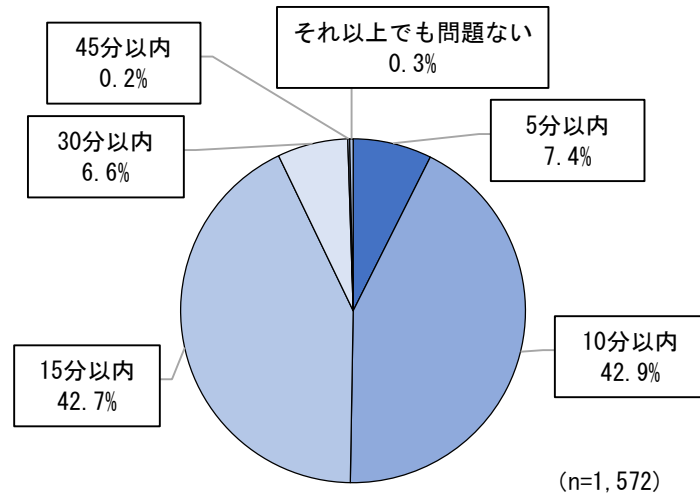
市立幼稚園

全体(n=200)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	81.0	2.6
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	61.5	6.5
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	44.0	5.6
4位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	42.5	10.8
5位	給食がある	38.5	▲ 6.0
6位	金銭的負担が少ない	34.5	10.4
7位	園庭がある	31.5	8.9
8位	保護者に対する対応が良い	22.0	▲ 1.3
9位	職場への通勤が便利	16.5	▲ 8.4
10位	長時間預かってくれる	13.0	▲ 4.2

Q.保育・教育施設への許容できる通園時間（片道）はどの程度までですか。（SA）

保育・教育施設への許容できる通園時間を尋ねたところ、「10分以内（42.9%）」が最も多く、次いで「15分以内（42.7%）」となりました。

15分以内（含む「5分以内」、「10分以内」）を希望する人は、合わせて93.0%を占めました。

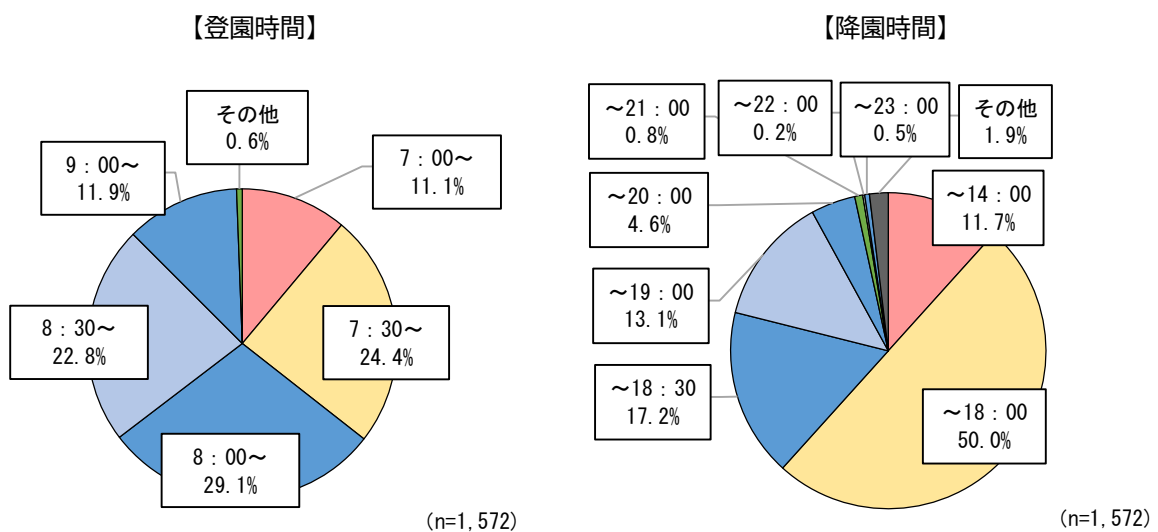


Q.登園時間・降園時間は何時を希望しますか。（SA）

希望登園時間は、「8：00～（29.1%）」が最も多く、次いで「7：30～（24.4%）」、「8：30～（22.8%）」となりましたが、時間帯は比較的分散する傾向がみられました。

一方、希望降園時間は、「～18：00（50.0%）」が半数を占めました。次いで「～18：30（17.2%）」、「～19：00（13.1%）」となりました。

なお、早い時間帯（～14：00）の希望は11.7%、遅い時間帯（20：00～23：00）の希望は合計6.1%と、一定数みられました。



Q.送迎方法について、どのような手段を希望しますか。(MA)

希望する送迎手段は、「徒歩で送迎したい(34.7%)」が最も多く、次いで「自転車で送迎したい(34.1%)」、「自家用車で送迎したい(18.9%)」となりました。

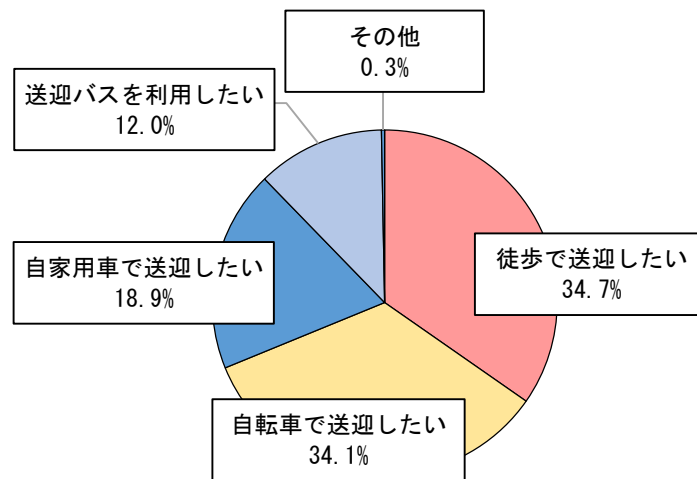
地域別にみると、「徒歩で送迎したい」は、元町(73.2%)で多く、新町(55.5%)では比較的少ない傾向でした。

「自転車で送迎したい」は、地域による顕著な差はみられませんでした。

「自家用車で送迎したい」は、元町(26.3%)では少なく、中町(42.4%)と新町(46.7%)では比較的多くみられました。

「送迎バスを利用したい」は、新町(34.5%)で特に多くみられました。

子どもの年齢別にみると、「徒歩で送迎したい」は子どもの年齢が上がるにつれて少なくなる一方、「自家用車で送迎したい」は、子どもの年齢が上がるにつれて多くなりました。



(n=1,572)

(単位: 件、%)

	合計	徒歩で送迎したい	自転車で送迎したい	自家用車で送迎したい	送迎バスを利用したい	その他	
全体	1,572	65.9	64.8	35.9	22.7	0.6	
地域	元町	749	73.2	62.2	26.3	15.1	0.3
	中町	403	63.3	64.5	42.4	24.6	0.2
	新町	420	55.5	69.5	46.7	34.5	1.7
年齢	0歳	447	75.2	60.6	33.8	23.3	0.4
	1歳	512	65.4	66.4	34.0	24.4	0.8
	2歳	613	59.5	66.4	39.0	20.9	0.7

自由意見（参考）

趣旨を尊重しながら誤字等を修正しています。

働く時間が短くても保育園に入れられるようになって欲しい。幼稚園、こども園での預かり時間を長くして欲しい。

フルタイムで働いている人も幼稚園に通える選択が出来るように、遅くまで預かってくれたり、早く登園できるようにしてほしい。

0歳から通える認定こども園が少ないので増やして欲しい。

上の子が3歳で市立認定こども園に通っているのですが、保育園にはなかなか入れないのに、認定こども園では定員未満しか入園希望者がいないという現状にギャップを感じます。もう少し人数が偏らないかたちとなったらいいなあと思います。認定こども園は素敵な園がたくさんあるのに勿体無い気がします。

公立の幼稚園、認定こども園の幼児の減少が著しい。保育所のニーズが高いのはわかるが、小規模保育所が無数にあることで、集団保育の場であるにも関わらず、1クラス5名など、少人数保育になってしまっている。3歳児の幼児の発達を考えると15名、5歳児では25名はほしいと思う。

夫婦ともにフルタイムで就労しており両親などの援助も受けられないため、利用時間が長いこと（7:00～18:30など）や給食があることが子どもを預ける条件になっています。家の近くに幼稚園があるのですが、希望の条件に満たないので、給食あり（宅食でも可）で、幼保連携型認定こども園（またはせめて幼稚園型認定こども園）になってくれたら利用者も増えて良いのではと思っています。

市立こども園に入園させる予定です。周りの1歳から保育園に預けている親子からもこども園の園庭などの広々とした設備や、こども園幼稚園の行事の多さなどから3、4歳からこども園に転園も考えているという声を聞きますが、給食からお弁当になるのがフルタイムで働く親にとってはネックらしく、そこが解消されればこども園の入学希望者はかなり増えると思います。

浦安市はせっかく市立の良いこども園、幼稚園があるのにこのまま入学希望者がいなくなり存続が難しくなるのは非常にもったいないと思います。私も若草幼稚園卒業なので、娘も入学させたいと思っていて、でもこのままだと来年どうなるか厳しいと思うので、早急に市には対応して欲しいと思います。

公立のこども園でも、園内で作られた給食の提供があると有り難いです。教育面でこども園に魅力を感じますが、フルタイム勤務で毎朝のお弁当作りは厳しく、入園希望を断念せざるを得ない状況です。

公立の幼稚園や認定こども園、私立幼稚園などの選択肢が多いことはありがたいです。一方で公立施設の場合、知り合いの家庭で通っているなど、そこで情報が得られれば良いのですが、園の見学や施設開放の日が限定されているので、実際に通わせるかどうかの判断が難しい面があります。

9時～14時迄はあっという間に迎えの時間になる。就業していないので保育園に入れないので、もう少し預けられる時間が長くなれば、短時間のパートぐらいならできるのと思う。みんながみんな保育園に入れるわけでも、入りたい訳でもないが、公立の幼稚園が14時か15時の選択制ができれば、親の働き方など変わると思う。

市立のこども園でも、0～2歳児クラスの預かり保育を併設して頂けるとありがたいです。

<p>2歳児向けのプレ幼稚園のような、保育園に通っていない子供が集団活動を経験できる機会が増えてほしい。</p> <p>市内の一部の私立幼稚園にはプレ幼稚園があるが、3歳以降に当該幼稚園に入園予定の子供のみが対象となっているため、3歳以降に公立の施設を希望している場合は利用できない。</p>
<p>1人目の幼稚園選びの際、市立幼稚園は人数が少なすぎることで選ばせませんでした。給食は仕方ないとしても、統合など検討しても良いのかなと感じました。</p>
<p>今年度から第一子が市立の幼稚園に通っています。自宅から距離が近く、人数が少ないため一人一人見ていただけて大変満足しています。入園前からすまいるルームも活用しており、とても助かっています。</p> <p>幼稚園は全体的に園児が少なく統廃合を検討されていると思いますが、その場合距離が遠くなってしまうのがネックなので、通園しやすい環境は整備していただきたいです。</p>
<p>市立幼稚園でこども園になっていない園をこども園にしてほしい。できれば自宅から近い園に通わせたいが最も近い施設が幼稚園で、こども園は自転車で10分以上かかる。現在未就労で、こども園であれば通いながら就労を検討できるが、幼稚園だと卒園まで就労が難しいため。</p>
<p>市立幼稚園でも満3歳保育を実施してもらえたら嬉しいです。週2、3回でも。</p>
<p>市立のこども園はお弁当持参のため、こちらも働きづらと感じます。これだけワーキングマザーが増え、かつ幼稚園の教育も受けさせたいと思う保護者が多い地域だと思いますので、幼保一体型施設をもっと誘致した方がいいのではないかと思います。</p>
<p>こども園に上の子が通っていましたが、働くことを視野に入れると、お弁当を作るのがベースというのはなかなか厳しいと感じています。宅配がもっと気軽に頼める(週〇日とか指定になっていて固定金額等)といいなと思います。</p>
<p>保育ママから認定こども園への進級を考えていますが、給食がないと働く親にとってはかなりの負担となるため、給食の導入を検討していただきたいです。こども園は魅力的だが、給食がない為選択肢から外れるという親は周囲にも沢山いらっしゃいます。</p>
<p>幼稚園型認定こども園もお弁当ではなく給食だと希望される方が多いと思います。素敵な園がたくさんあるのに定員割れしているところが多くもったいない…。</p>
<p>日の出保育園の駐車場を整備してほしい。可能ならもう少しバス通り沿いなど通しやすい場所があると便利なので移転してほしい。</p>
<p>こども園も保育園も両方通わせて思うのは、こども園はやはり働いている親にはなかなか大変だということ(行事の多さ、近年の園児数減少にともない、PTAの成り手が少ないにも関わらず、地区Pなどの負荷の高い行事は企画しなければならないということ。)</p>
<p>幼稚園型認定こども園に教育面で魅力を感じますが、保護者への負担(行事準備や保護者会、夏休み中のお弁当)に不安があります。</p>

3.利用者ニーズの整理と考察

アンケート結果からは、保育・教育施設の利用実態や意向の違いに加え、地域特性などによってもニーズが異なることが読み取れます。保護者が施設を選択する際に重視するポイントや要望、満足度などは、未就学児保育・教育施設のあり方を考えるうえで重要であることから、現状について整理・考察します。

1：保育施設利用者：利便性に関する高いニーズ

保育施設に関しては、「自宅からの距離の近さ」が最も重視されており（P54）、「園庭」や「給食」についても重視されています（P54、66）。

【地域別の重視点】

地域	アンケート結果	考察
元町	「園庭」を重視する回答がやや多い	元町は敷地面積が比較的狭い園が多いことから、外でのびのび遊べる環境を求める傾向があると推測される。
中町	「通勤利便性」を重視する回答がやや多い	駅や通勤動線との関係性が強く、“通勤途中で立ち寄れるか”が園選択に影響している可能性がある。
新町	「園の特色や方針」を重視する回答がやや多い	私立幼稚園が多い地域特性を反映し、園の特色や方針に共感・納得できるかが園選択に影響している可能性がある。

また、サービス面においては、キャッシュレス決済や送迎環境の整備を求める声が多くみられました（P55）。就労と育児・家事を両立させるため、効率性重視、日常の小さな負担を減らしたいといった価値観の表れであると推測できます。

2：幼稚園・認定こども園利用者：給食・就労ニーズへの課題が顕在化

幼稚園・認定こども園に関しては、保育施設と同様に「自宅からの距離」や「園庭」が重視されているほか、「保育者の対応」についても重視する傾向がみられました（P60）。保育施設に比べて、教育施設としての人的な関わりの質がより強く意識されていると考えられます。

一方、サービス面では「給食」に関するニーズが非常に高く、お弁当持参の負担が課題として認識されています（P61、63）。

また、自由意見では、子どもが大きくなり就労を考えた時に、幼稚園の場合は預かり時間を延長できないことから、認定こども園化を希望する声があるなど（P73）、幼稚園の運営形態と、働いている（もしくは、今後働きたいと考えている）保護者の生活実態との乖離が生じています。

3：0～2歳児における初期選択が固定化

0～2歳児の保護者では、すでに6割が何らかの保育施設を利用しており、利用中の8割以上の保護者が「現在利用している園に通わせ続けたい」と回答しています（P67）。これは、生活環境が途中で変わる負担を回避するため、最初に選択した環境がその後も継続されやすいという傾向を示すものといえます。

4：施設種類別にみた重視される役割

施設種類ごとに保護者が重視する点を大まかに整理すると、以下のような傾向がみられました（P69、70）。

市立園はいずれも「金銭的負担の少なさ」を重視する回答が比較的多く、公立としての金銭的安心感に期待していることがうかがえます。また市立幼稚園・認定こども園はそれに加えて「保育者の丁寧な対応」も重視されており、個々の児童に対するきめ細やかな関わりなども求められていると考えられます。

一方で私立園は、「特色・方針」や「魅力的な設備」が比較的重視されており、園の理念への共感や、高い付加価値といった点が期待されている傾向がうかがえます。

施設の種類	重視する点（主なもの）
市立保育園	金銭的負担の少なさ、自宅からの距離
市立幼稚園・認定こども園	金銭的負担の少なさ、丁寧な対応
私立保育施設	特色・方針、魅力的な設備
私立幼稚園	特色・方針、魅力的な設備、給食

5：通園条件からうかがえる長時間保育等への高いニーズ

許容できる通園時間（片道）は、10～15分以内が約9割となりました（P71）。また、希望登園時間は朝7時～8時半が約9割、希望降園時間は夜19時までが約9割を占めました（P71）。これらから、通園の利便性や長時間保育に高いニーズがあることがうかがえます。

6章 未就学児保育・教育施設のコスト 分析

1.市立保育園の運営コスト

(1) 歳出額の推移

令和6（2024）年度決算における市立保育園の歳出総額は、約23億1,000万円となっています。

時系列でみると、歳出総額は令和2（2020）年度から令和5（2023）年度にかけて横ばいですが、令和6（2024）年度はやや増加しています。5年間の増減率は、年による変動の大きい工事費を除いた場合10.8%の増となっています。

費目別にみると、人件費の占める割合が非常に高く、全体の91.8%を占めています。人件費は、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度まで少しずつ増加傾向にあります。次いで総額に占める割合が高い光熱水費は、5年間における増減率が28.7%と、増加が目立っています。

図表 49 市立保育園の歳出額の推移

(千円)

費目	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和6年度 構成比	5年間の 増減額	5年間の 増減率
人件費	1,914,863	1,963,285	1,966,970	2,017,497	2,124,543	91.8%	209,680	11.0%
消耗品・備品費	40,945	21,577	24,907	28,753	34,971	1.5%	▲ 5,974	-14.6%
光熱水費	35,968	42,587	49,189	47,041	46,307	2.0%	10,339	28.7%
委託管理費	32,145	24,140	30,992	35,183	37,030	1.6%	4,885	15.2%
施設修繕費	4,202	2,885	4,689	3,733	4,323	0.2%	121	2.9%
工事費	114,148	67,680	46,902	37,659	66,126	2.9%	▲ 48,022	-42.1%
歳出総額	2,142,270	2,122,155	2,123,648	2,169,866	2,313,302	-	171,032	8.0%
歳出総額 (工事費除く)	2,028,122	2,054,475	2,076,746	2,132,207	2,247,176	-	219,054	10.8%

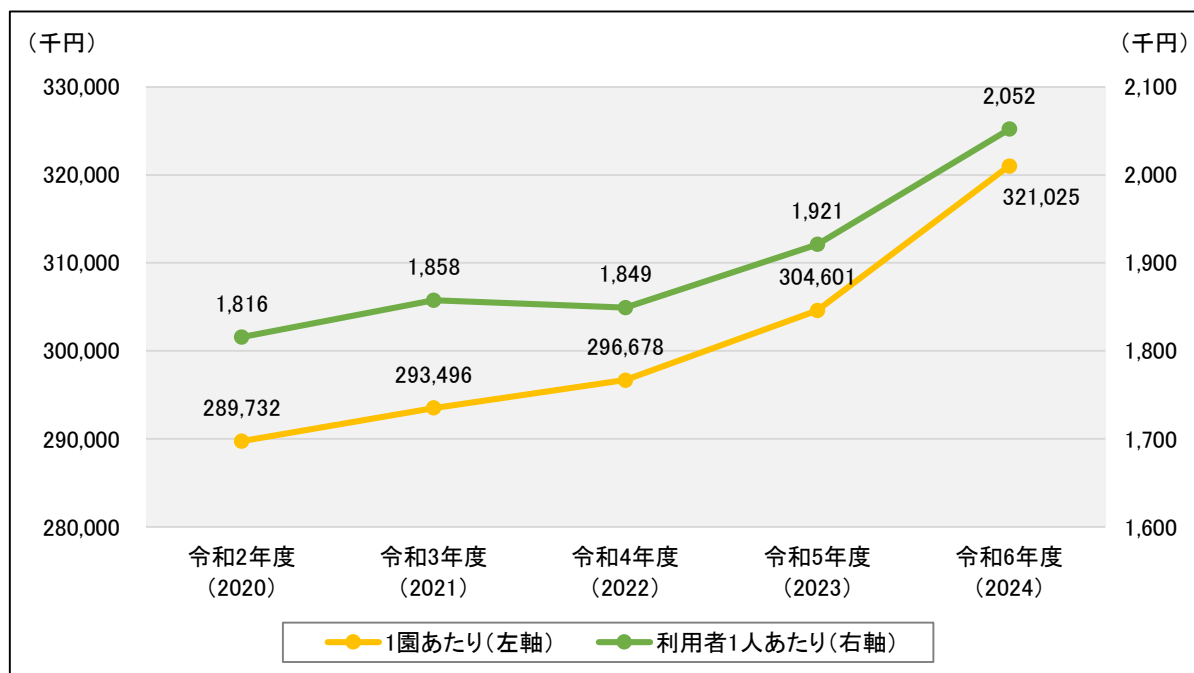
(2) 単位あたりの歳出額の分析

施設あたり、利用者数あたりのそれぞれの費目別歳出額は、以下のようになります（年による増減が激しい工事費を除いて算出）。

令和6（2024）年度の保育園の単位あたりの歳出額は、1園あたり321,025千円、利用者1人あたり2,052千円となっています。

時系列でみると、いずれの単位についてもやや増加しています。

図表 50 市立保育園の単位あたりの歳出額の推移



費目別に利用者1人あたりの歳出額をみると、消耗品・備品費と施設修繕費を除いて増加しています。特に人件費は226千円（13.2%）の増加、光熱水費は10千円（31.3%）の増加となっています。

図表 51 利用者1人あたりの各歳出費目の推移

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	5年間の増減額	5年間の増減率
人件費	1,714	1,775	1,752	1,818	1,940	226	13.2%
消耗品・備品費	37	20	22	26	32	-5	-13.5%
光熱水費	32	39	44	42	42	10	31.3%
委託管理費	29	22	28	32	34	5	17.2%
施設修繕費	4	3	4	3	4	0	0.0%

2.市立幼稚園・認定こども園の運営コスト

(1) 歳出額の推移

令和6（2024）年度決算における市立幼稚園・認定こども園の歳出総額は、約10億円となっています。

時系列で見ると、歳出総額は令和2（2020）年度と比べて5.5%の減少となっています。

費目別にみると、保育園と同様に人件費の割合が最も高く、全体の約8割を占めています。しかし人件費自体は減少傾向にあり、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度にかけて、6.1%の減少となっています。学級数の減少により、教諭の人数が減っていることに伴うものです。また、年による変動が大きい工事費、園舎改修費を除けば、施設修繕費（50.3%の増）、委託管理費（17.5%の増）、光熱水費（8.5%の増）については5年間で増加傾向にあります。

図表 52 市立幼稚園・認定こども園の歳出額の推移

(千円)

費目	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和6年度 構成比	5年間の 増減額	5年間の 増減率
人件費	857,998	811,117	780,478	758,867	805,994	80.8%	▲ 52,004	-6.1%
消耗品・備品費	24,694	13,739	15,356	15,451	13,755	1.4%	▲ 10,939	-44.3%
光熱水費	24,662	27,651	30,625	25,708	26,769	2.7%	2,107	8.5%
委託管理費	28,259	27,914	29,410	34,032	33,207	3.3%	4,948	17.5%
施設修繕費	5,808	4,249	5,741	5,800	8,727	0.9%	2,919	50.3%
工事費	47,158	37,418	39,441	16,095	25,512	2.6%	▲ 21,646	-45.9%
園舎改修費	66,550	156,475	64,350	114,400	83,600	8.4%	17,050	25.6%
歳出総額	1,055,129	1,078,563	965,400	970,353	997,565	-	▲ 57,563	-5.5%
歳出総額 (工事費・園舎改修費除く)	941,421	884,670	861,609	839,858	888,453	-	▲ 52,968	-5.6%

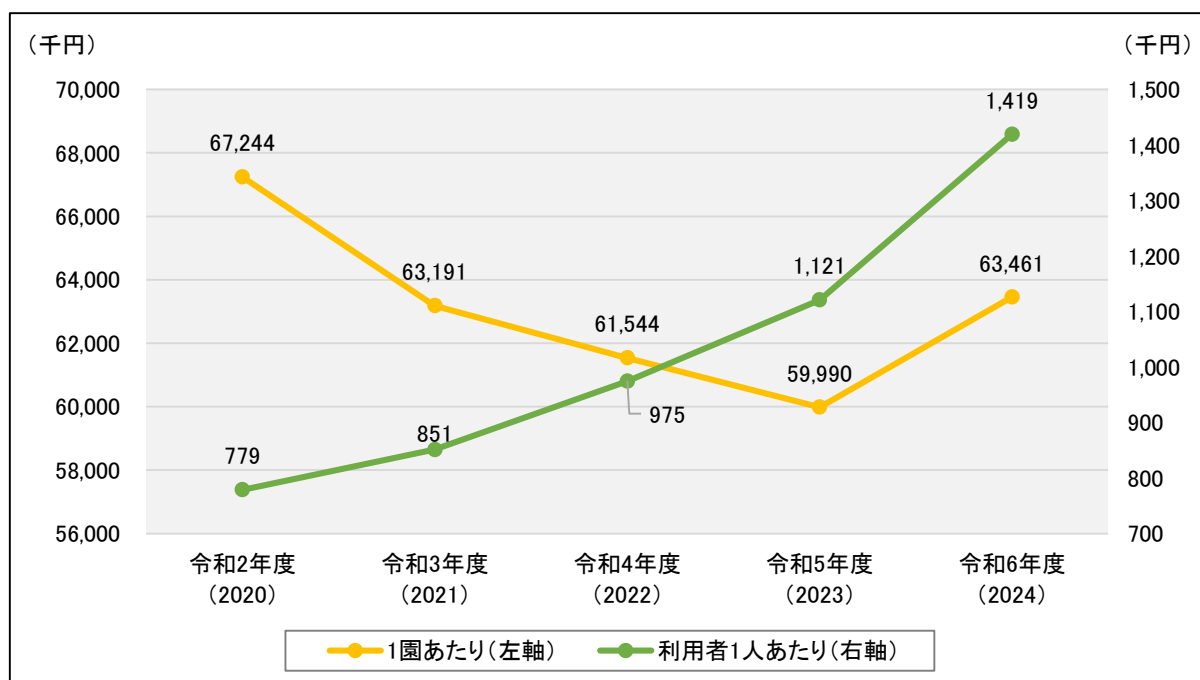
(2) 単位あたりの歳出額の分析

施設あたり、利用者数あたりのそれぞれの費目別歳出額は、以下のようになります（年による増減が激しい工事費・園舎改修費を除いて算出）。

令和6（2024）年度の幼稚園・認定こども園の単位あたりの歳出額は、1園あたり63,461千円、利用者1人あたり1,419千円となっています。

時系列でみると、施設数には変動がないため1園あたりの歳出額は令和6（2024）年度に増加したものの、全体的にみれば施設数には変動が無いため減少傾向となっています。一方で、利用者数の急減に伴い、利用者1人あたりでみると5年間で倍増しています。

図表 53 市立幼稚園・認定こども園の単位あたりの歳出額の推移



費目別に利用者1人あたりの歳出額をみると、すべての費目で増加しています。特に人件費は578千円（81.4%）の増加、委託管理費で30千円（130.4%）の増加、光熱水費で23千円（115.0%）の増加などとなっています。

図表 54 利用者1人あたりの各歳出費目の推移

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	5年間の 増減額	5年間の 増減率
人件費	710	781	883	1,013	1,288	578	81.4%
消耗品・備品費	20	13	17	21	22	2	10.0%
光熱水費	20	27	35	34	43	23	115.0%
委託管理費	23	27	33	45	53	30	130.4%
施設修繕費	5	4	6	8	14	9	180.0%

3.各園の改修工事等の状況

3章でも触れたように、本市の市立の未就学児保育・教育施設は昭和50年代に集中して整備されており、7割以上が建築後40年程度経過し、老朽化が進んでいる状況です。改修計画に基づいて計画的に改修・建て替え工事を実施していますが、今後はそれらの費用がさらに増加していくことが予想されます。

保育・教育施設を維持管理・更新するうえで今後必要となる費用について、「浦安市未就学児保育・教育施設長寿命化計画（令和3年）」で整理しています。それによれば、令和12（2030）年度までの短期的な費用の見通しは、総額約32億円（1年あたり約3.2億円）、令和42（2060）年度までの中長期的な費用の見通しは、総額約231億円（1年あたり約5.8億円）となっています。

図表 55 市立保育園の改修状況等

	園名	開設年	改修工事等		経過年数	延床面積
1	当代島保育園	昭和48年	平成10年	大規模改修	27年	1,049 m ²
2	猫実保育園	昭和54年	平成26年	大規模改修	11年	626 m ²
3	入船保育園	昭和55年	令和3年	建て替え	4年	1,981 m ²
4	富岡保育園	昭和58年	—	—	42年	1,091 m ²
5	東野保育園	平成元年	—	—	36年	1,504 m ²
6	日の出保育園	平成4年	—	—	33年	1,577 m ²
7	高洲保育園	平成11年	—	—	26年	2,556 m ²

※経過年数は、「開設年」と「改修工事等」のうち直近のものから令和7年までの経過年数 ※延床面積は、倉庫・ごみ置き場は含まない

図表 56 市立幼稚園・認定こども園の改修状況等（掲載順は開設年の早い順）

	園名	開設年	改修工事等		経過年数	延床面積
1	若草認定こども園	昭和4年	昭和61年	建て替え	39年	993 m ²
2	青葉幼稚園	昭和30年	平成26年	大規模改修	11年	1,006 m ²
3	みなみ認定こども園	昭和42年	昭和61年	建て替え	39年	998 m ²
4	神明認定こども園	昭和46年	平成2年	建て替え	35年	1,106 m ²
5	北部認定こども園	昭和49年	平成16年	大規模改修	21年	917 m ²
6	見明川認定こども園	昭和53年	令和2年	改修	5年	1,076 m ²
7	堀江認定こども園	昭和54年	令和3年	改修	4年	1,145 m ²
8	富岡幼稚園	昭和54年	令和3年	改修	4年	1,099 m ²
9	美浜南認定こども園	昭和55年	令和4年	改修	3年	1,136 m ²
10	入船南認定こども園	昭和56年	令和5年	改修	2年	1,063 m ²
11	舞浜認定こども園	昭和57年	令和6年	改修	1年	1,181 m ²
12	美浜北認定こども園	昭和59年	—	—	41年	1,106 m ²
13	日の出幼稚園	昭和63年	平成15年	増築	22年	1,610 m ²
14	明海認定こども園	平成6年	平成15年	増築	22年	1,312 m ²

※経過年数は、「開設年」と「改修工事等」のうち直近のものから令和7年までの経過年数 ※延床面積は、倉庫・ごみ置き場は含まない

4. 運営コストに関する現状の整理・考察

少子化や保育ニーズの変化に伴い、施設の利用者数や運営効率に変化している中で、運営コストの効率化や適正化が課題となっています。

以下では、これまでの調査結果等から、市立保育園および市立幼稚園・認定こども園の運営コストの現状について整理・考察します。

1 : 利用者数の減少による運営効率の低下

市立幼稚園・認定こども園の1園あたりの歳出額の推移は5年間でやや減少にとどまる一方、利用者1人あたりの歳出額は、大幅に増加しています（P81 図表53、54）。これは、施設数が維持されている中で利用者数が急減していることによるものであり、運営の効率性が急速に低下していることを示しています。

このまま利用者の減少が続けば、運営効率のさらなる低下が懸念されます。

2 : 固定費の上昇による負担の増加

市立保育園、市立幼稚園・認定こども園ともに、人件費がコストの大部分を占めており、特に市立保育園では91.8%が人件費となっています（P78 図表49）。教育・保育分野は、教諭や保育士といった「人」を基盤とする公共サービスであり、利用者数が減少したとしても一定の人員配置が必要であるため、柔軟に支出を調整することが難しい構造であることが分かります。また、光熱水費等も増加しており（P78 図表49、P80 図表52）、エネルギー価格等の固定費の上昇が施設運営に与える負担が増しています。今後も同様の傾向が続けば、財政負担がさらに拡大すると考えられます。

3 : 老朽化した施設の維持コストの増加

7割以上の施設が建築後40年程度経過し、老朽化が進んでいる状況です（P82 図表55、56）。そのため、今後も現行の施設数が維持される場合、改修や建替えにかかる費用負担が増加する見込みです。特に園児数の減少が見込まれる市立幼稚園・認定こども園においては、現行の施設数を維持したままの維持管理・施設更新は、中長期的な財政負担を著しく増加させる懸念があるため、既存施設の再編や有効活用に舵を切ることが必要といえます。

7章 未就学児保育・教育施設の適正 配置等に向けた課題・調整事項

1. 園児数の動向からの考察

(1) 提供サービスからの考察

過去 10 年間で、本市全体の就学前児童人口は減少している一方、保育施設の利用者数は高止まりで推移してきました。これに対し、市立幼稚園・認定こども園の利用者数は大幅に減少しています。将来推計においても、保育施設の需要は今後も一定水準を維持することが見込まれる一方で、市立幼稚園・認定こども園の利用者数は減少を続ける見通しです。

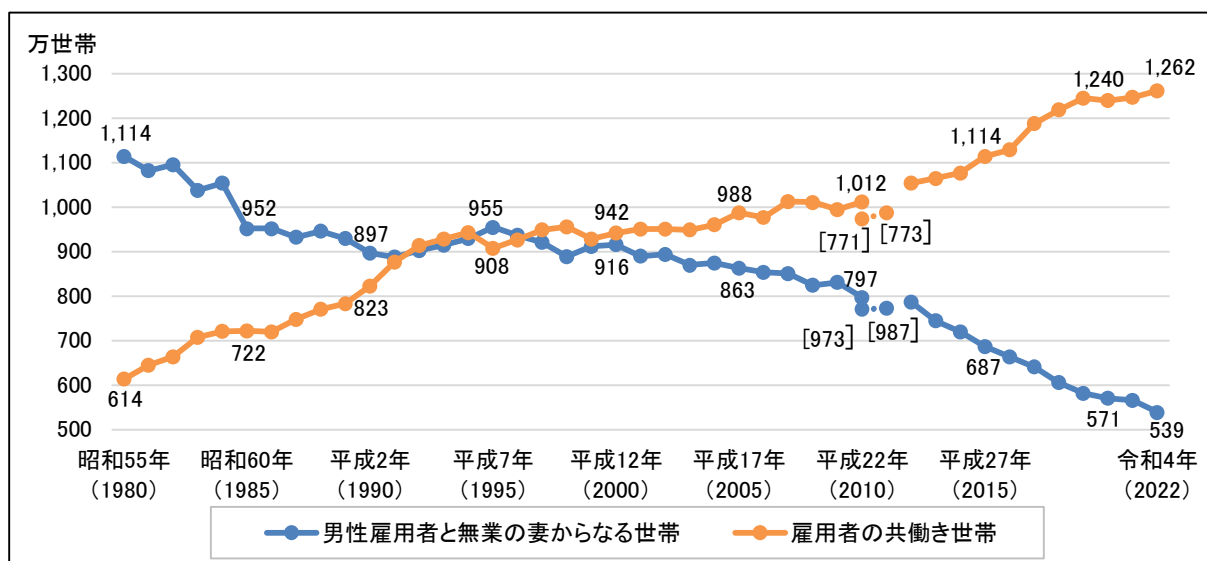
保育施設と幼稚園・認定こども園は、それぞれ所管や制度上の位置づけは異なるものの、こどもに対して行う教育・保育の内容については、本質的な差はないといえます。国は、保育施設には「保育所保育指針」、幼稚園・(幼稚園型)認定こども園には「幼稚園教育要領」を定めていますが、これらはいずれも共通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示し、幼児期に必要な育ちの方向性を位置付けています。また保育施設については、日々の保育活動の中で、こどもの発達段階に応じた教育的配慮を行うことが制度上示されており、幼稚園・認定こども園と共通する教育的な活動が実施されています。

このように園での活動内容において共通点が多いにも関わらず、保育施設と幼稚園・認定こども園との間に園児数の差が生じているのは、教育・保育の内容そのものではなく、運営の仕組みが大きく影響しています。

具体的には、預かり時間の長さ、登降園時間の柔軟性、給食提供等のサービスが挙げられ、これらが保護者の施設選択に大きく影響していると考えられます。

こうした状況の背景として、全国的に共働き世帯が増加していることがあります。世帯所得の減少と伸び悩みに加え、国としても『こども未来戦略』において「共働き・共育ての推進」を柱として掲げるなどの社会的・制度的要因もあり、現在では共働きが「標準的な世帯モデル」となっています。そのため、保育・教育施設についても、保護者の就労継続を前提としたサービスへの需要が高まっているといえます。

共働き等世帯数の年次推移



※2010年及び2011年の[]内の実数は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果

(出所)厚生労働白書

保護者の就労継続を支えるためのサービスにおいて特に不可欠なのは、長時間かつ柔軟な預かり時間です。本市が0～2歳児の保護者に対して実施したアンケートでも、希望登園時間は「7時～8時30分」が約9割、希望降園時間は「19時まで」が約9割という結果が得られており、長時間の預かり時間を希望する声が多くみられました。

また、未就学児を持つ保護者は、こどもの成長等に伴って「就労の開始や転職」、「就労時間の延長」、「リモートワーク中心から出社中心への変化」など、就労形態が変わるケースも多いことから、こうした変化に対応できる柔軟なあり方が求められます。

さらに、子育てと就労、家事を無理なく両立するために、長時間の預かり時間に加え、保護者の負担の軽減や生活支援につながるサービスに対するニーズもより強くなっています。例えば送迎環境については、許容できる通園時間は10～15分以内という回答が約9割を占めており、中町や新町では、自家用車やバス等による送迎ニーズも一定数みられました。また、市立幼稚園・認定こども園は「給食が無いことに対する不満」、「弁当準備の負担」に関する意見が多数寄せられています。

就学前保育・教育施設は保護者の生活全体を下支えするサービスであることから、上記のような保護者のニーズにそったサービス内容であるかどうかという点が、施設選択において重要な要素となっていると考えられます。

(2) 保育施設と幼稚園・認定こども園の対比からの考察

保育施設と幼稚園・認定こども園の利用動向を比較すると、保育所は施設数も多く高い保育需要の下、園児数を維持している一方で、幼稚園・認定こども園については園児数の減少が続いている状況となっています。

前述の通り、両者の差は教育・保育内容の違いによるものではなく、運営の仕組みに起因するものであると整理できます。保育施設は就労を前提とした運営となっている一方、幼稚園・認定こども園は教育時間を中心とした利用が中心に運営が行われており、保護者の就労状況によっては、そもそも選択肢に入らないことも考えられます。

市立幼稚園・認定こども園は、立地条件の良さや充実した園庭といった点で、民間の保育施設よりも優位であるといえます。しかしながら、これらの強みは、多くの保護者にとってフルタイム勤務に対応できる長時間保育や昼食の提供といった利便性を上回るとまではいえません。結果として、保護者は保育施設での利便性を手放してまで、幼稚園・認定こども園を選択するメリットが希薄であるといえます。

本市が0～2歳児の保護者に対して実施したアンケートでも、すでに保育施設を利用している保護者の8割以上が「引き続き同じ園に通わせたい」と回答しています。3歳以上児においても引き続き保育施設の利用率は高く、幼稚園・認定こども園への流入（転園）は限定的であると推察されます。

この背景として、前述のフルタイム勤務に対応できる長時間保育や昼食の提供といった利便性の差に加え、子どもを取り巻く環境を途中で変えたくないという心理が働いていることも想定されます。一般的に、3歳頃の子どもにとって、新たな集団生活への適応は大きな心理的負担を伴

います。新しい環境での「登園しぶり」や「情緒不安定」は、ごく一般的な現象として認識されており、0～2歳のうちから保育施設における集団生活の環境に慣れ親しんでいる場合、あえて3歳で環境をリセットし、新しい集団に飛び込ませることは保護者の心理的負担も大きいと考えられます。そのため、0歳からの入園が可能な保育園は、保護者の施設選択において優位な立場にあるといえます。

以上の「共働き世帯が求めるサービスとの親和性」や「早期からの預かり可能な体制」といった点が影響し、保育施設と幼稚園・認定こども園の利用者数に顕著な差が表れているといえます。

特に、特色のあるカリキュラムや施設といった強みに加え、送迎等の共働き世帯にニーズの高いサービスに取り組む私立幼稚園に比べ、公立幼稚園・認定こども園はさらに大きな影響を受けていることが園児数の推移などから見て取れます。

(3) 市立園と私立園の対比からの考察

保育施設については、市立・私立を問わず、人員配置は国の基準で定められており、サービス内容についても「保育所保育指針」で具体的な内容や運営に関する事項が定められています。

近年は、私立の保育施設が特色ある方針やICT活用による利便性向上など、制度の範囲内で付加価値をつける動きも見られるものの、本市が実施したアンケート結果では、保育施設の選択理由は「自宅からの距離」、「通勤利便性」、「園庭の有無」など、立地・物理的条件が重要視されており、保育サービス内容そのものの違いを理由に市立園と私立園を選定する傾向は比較的弱くなっています。ただし、市立園は「金銭的負担の少なさ」を重視する声もみられ、市立園としての金銭的な安心感に期待する層も一定数いるとみられます。

一方で、幼稚園・認定こども園については、私立園が市立園にない保護者のニーズに対応するためのサービス（送迎や給食提供など）を実施しています。また、私立幼稚園・認定こども園は学校法人が運営していることが多く、特色のある保育の提供や、施設への投資など、独自の経営方針に基づく運営が行われています。アンケート結果でも、私立園で「特色や方針が合うこと」が平均よりも重視されており、保育施設に比べて、市立園と私立園のいずれかを選ぶかにあたって施設ごとの特色が影響していることがうかがえます。

こうした中で、市立幼稚園・認定こども園は、それぞれに特色のある教育方針を持つ私立園との役割分担を明確にすることで、多様な選択肢が維持され、本市全体としての持続可能な教育・保育環境を作り上げることが可能になります。

さらには、市立保育園と幼稚園・認定こども園全体として、市内の未就学児童に対する教育・保育環境全体を俯瞰して、地域ごとに施設の偏在を防ぐことや私立園では対応が難しい支援が必要な家庭に対し、安定した教育・保育を受けられる環境を確保することなど、より公共性の高い機能を担う存在として園の配置やあり方を検討していくことが必要です。

2.園の経営的視点からの考察

(1) 職員体制からの考察

近年、全国的に保育士が不足しており、安定的な人材確保が課題になっています。一方で、幼稚園・認定こども園については、園児数が減少しているにもかかわらず、学級単位での担任制となっているため、園児数が減少しても一定数の職員が必要になります。

また、園児数が少ないからといって業務量が単純に減少するわけではなく、学級運営や行事、保護者対応などの業務は従来通り発生するため、職員数を縮小した場合、職員1人にかかる業務負担が大きくなることに加え、職員数の縮小による職員の孤立感やストレスなども懸念されます。

さらに、勤務形態についても、保育士と幼稚園の職員は異なる点があります。保育士はシフト勤務のため、早朝や夕方以降を含む長時間保育に対応する体制が整えられています。一方で、幼稚園職員は午前8時30分から午後5時までを標準とする勤務体制のみとなっており、時間外勤務も難しいことから、長時間保育や柔軟な登降園への対応には限界があります。この勤務形態の違いが、保護者ニーズとマッチした運営ができない要因の一つとなっています。

また、保育所と幼稚園・認定こども園とで配置される職種が異なることで、園利用のニーズの変化に応じて柔軟に職員の調整を配置することや、より多様なニーズに対応するスキルを持った職員の育成が進んでいないといえます。

人材の確保が困難な中で保護者のニーズに応えるとともに、より効率的な運営を実現するためには、上記の課題を解消し、より多様な業務を担える職員の能力を育成するとともに、保育園と幼稚園・認定こども園の壁を越えた柔軟な職員配置を行うことで、その育成を促進する体制を整えることが不可欠です。

よって、持続可能な教育・保育のためには、園のあり方の見直しと併せて、職員体制や労務のあり方についても一体的に見直していくことが必要です。

(2) 施設面からの考察

市立幼稚園・認定こども園の施設利用状況をみると、園児数が減少する中で、敷地や園舎が十分に活用されていないケースが多く、施設規模と利用実態との間に乖離が生じています。こうした状況は、園児1人あたりの光熱費や施設修繕費などの固定費を押し上げる要因になっています。

一方で、市立保育園については、園舎がほぼ限界まで使用されています。依然として1歳、2歳の保育需要は高いものの、施設面などの制限から、対応が限界を迎えている状況です。このように、市立幼稚園・認定こども園と市立保育園の施設の状況は、余剰とひっ迫という対照的な状況になっています。

限られた既存施設でより多くの保育・教育ニーズに応えるためには、空き教室などの低・未利用スペースを積極的に活用し、すべての施設で建物内の空間を十分に活用している状況を実現する必要があります。

また、施設の老朽化も大きな課題といえます。市立園は、建築後40年程度経過した園が7割以上を占めており、今後も定期的な大規模改修や設備更新が必要な状況です。園児の少ない園にとっては、園児1人あたりの投入額が非常に大きくなり、費用対効果の面で問題が生じます。

このような状況を踏まえると、将来の園児数や利用ニーズを踏まえて、既存施設の有効活用に舵を切ることが必要です。

3.各地域における特徴的な課題の抽出

(1) 元町地域

元町地域は、私立保育施設の立地が比較的多く、徒歩圏内で複数の保育施設が選択できる環境にあります。このことは、保護者にとって利便性が高い一方で、施設間の競争が激しい地域ともいえます。

また、元町地域には限られた敷地面積で運営する園が多く、十分な園庭を確保できない施設もあります。保護者アンケートでは、元町地域の保護者は、他の地域よりも「園庭があること」を重視する声がみられ、住宅密集地であるがゆえに、園庭でのびのびと遊べる環境に対する需要が高いことがうかがえます。加えて、「徒歩による送迎」を重視する割合もやや高い傾向がみられました。

将来的に、未就学児童数が減少した場合、さらなる施設間の競争や淘汰が進み、在籍園児数が二極化する懸念があります。

(2) 中町地域

中町地域は、本市の中で最も高齢化が進行している地域であり、未就学児童数の減少が他の地域に比べて大きくなっています。

保護者アンケートでは、中町地域の保護者は「通勤の利便性」、「自家用車による送迎」をやや重視する傾向がみられ、通勤途中に送迎できることや、駅等への動線が園選択に影響していることが分かりました。

今後、更なる少子化により未就学児の保育・教育需要そのものが減少していく中で、従来の施設規模や運営体制を維持することが難しくなる懸念があります。そのため、地域ニーズに即した施設の集約化などの対応が求められます。

(3) 新町地域

新町地域は、近年の高洲地区の住宅開発などもあり、他の2地域に比べて未就学児童数の減少は緩やかです。

保護者アンケートでは「特色や方針が合うこと」を比較的重視する傾向が高く、私立幼稚園が多く立地している地域特性が表れたものと推察できます。

送迎手段に関しては、中町地域同様「自家用車による送迎」を希望する声のほか、「バスによる送迎」も比較的多い傾向がみられます。新町地域は面積における園の数が相対的に少なく、自宅から徒歩で通える園の選択肢が限られていることから、送迎環境を重視する結果となったものと考えられます。

4. 今後新たに顕在化すると考えられる課題

①施設間での利用者数の格差拡大

少子化の進行と保護者ニーズの多様化に伴い、今後は施設間における利用者数の差が一層拡大することが懸念されます。保護者が重視する「自宅からの距離」、「通勤利便性」、「園庭の有無」、「園の特色」、「送迎や給食といった利便性」などの条件を満たす施設に利用希望が集中し、それ以外の施設が淘汰されていく可能性があります。

②園児数の減少が教育・保育の質に及ぼす影響の顕在化

市立幼稚園・認定こども園の園児数の減少が続く中、一定の集団規模を確保することが困難になりつつあります。1学年10人以下となり、園全体の活気が失われるとともに、年齢や発達段階に応じた活動や、集団活動、行事などの実施がさらに難しくなり、こどもの社会性や協調性の育成という観点から、教育・保育の質に悪影響を及ぼす可能性があります。

③保護者ニーズのさらなる多様化・高度化

少子化が進行する中、保護者ニーズもさらに多様化・高度化することが見込まれます。具体的には、単に「預けられるか」から、「どのような環境で、どのようなサービスが受けられるのか」をより重視するようになり、選ばれる施設であり続けるための競争が激化する可能性があります。

④人員配置見直しの必要性和職員のモチベーションの低下

全国的に生産年齢人口が減少しており、労働力不足が顕在化しています。そのため教育・保育分野でも人材の確保が今後一層困難になることが予想されます。特に保育士は全国で慢性的な人材不足が続いており、保育ニーズが高い本市では、限られた人材をいかに効果的に配置するかが重要になってきます。保育施設に人材を重点的に投入した場合、幼稚園・認定こども園の人員配置については、一定の見直しが避けられません。

また、園児数の減少は、職員に「園が縮小に向かっている」という危機感や不安を与え、モチベーションの維持や意欲的な取組みが難しくなる可能性もあります。

8章 改革の方向性の検討

1.改革全体の方向性

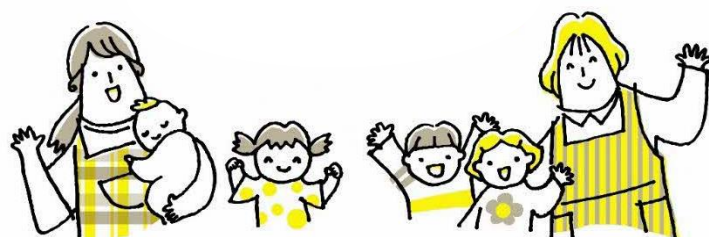
本市では、埋め立てによる計画的なまちづくりを行っていくなかで、幼小連携を重視し、幼稚園と小学校を一体的に整備してきました。しかし、男女共同参画社会の推進等により、共働きの世帯が右肩上がりが増え続けるなかで、保育所の需要が高まり、また、令和元年10月から幼児教育・保育の無償化の影響もあり、近年、市立幼稚園・認定こども園の園児数が急速に減少している状況です。

将来的に、市立幼稚園・認定こども園は、1園あたりの平均人数が20~30人台となり、年少・年中・年長の各クラスが10人以下となる可能性が高まっています。そのため、これまでと同じ施設数でこれまでと同様の保育・教育サービスを維持し続けることは難しい状況にあり、中長期的には施設の集約や、市立保育園との統合による、新しい施設の可能性の検討といった抜本的な取組が必要になると考えられます。

本市では令和2年度に「浦安市未就学児の保育・教育環境のあり方基本方針」を定め、市立幼稚園・認定こども園の今後の具体的方策として「保育・教育環境の質の向上を図りながら統合を検討していく」とことと「統合により施設の配置などを変更する場合は、適正規模と地域ニーズを踏まえて進めていく」ことを示しました。

また、『浦安市就学前「保育・教育」指針』では、市内のすべての就学前保育・教育施設関係者が、育てほしいこども像を共有し、日々の保育・教育活動の充実を目指すとともに、小学校へのより円滑な接続を図っています。そして、保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携協力のもとで家庭や地域と連携しながら、就学前から義務教育を見通した教育を展開しています。

これらの取組などをさらに力強く推進し、市内の保育・教育環境の質を一層向上させるために、幼稚園・認定こども園1園あたりの適正人数の確保を目標に見据えつつ、未就学児保育・教育施設のさらなる連携強化を図りながら、多様化する保護者ニーズに対応するための適正配置等について、検討します。



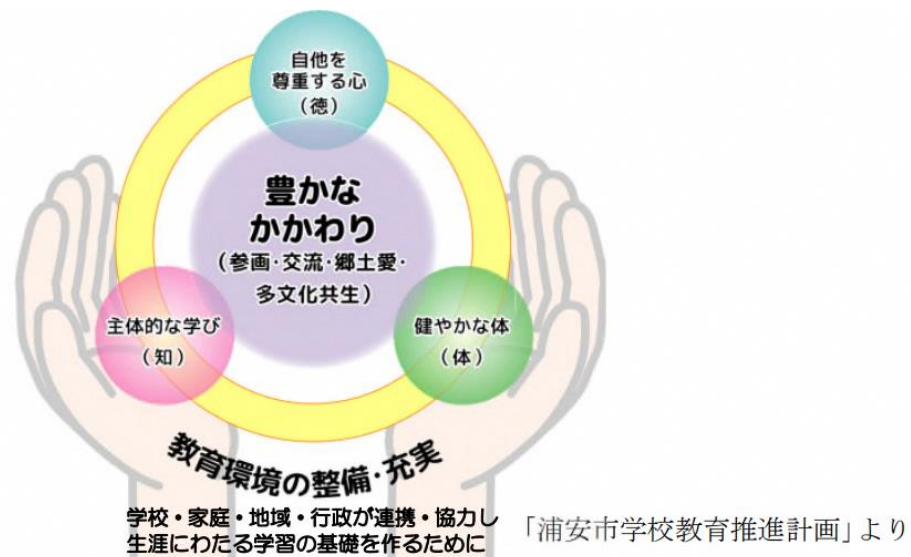
2.適正配置等によって目指す姿

(1) 就学前「保育・教育」指針のさらなる推進

市立未就学児保育・教育施設の適正配置等は、本市の「第3期こども・子育て支援総合計画」で掲げる3つの基本理念『こどもが健やかに成長できるまち』、『安心して、生き生きと子育てできるまち』、『こどもと家庭を見守り、支えあえるまち』の実現に向け、ハード面・ソフト面の双方において、こども・保護者・施設職員にとって望ましい保育・教育環境を提供することを第一としなければなりません。

また、『浦安市就学前「保育・教育」指針』に掲げる「幼保小連携の取組」について、さらに前進していくために、『浦安市就学前「保育・教育」指針』における育てたいこども像を念頭に置き、日々の保育・教育活動の充実を目指すとともに、小学校へのより円滑な接続を図ります。

図表 57 『浦安市就学前「保育・教育」指針』における育てたいこども像



(2) 地域における保育・教育の一体的な推進とニーズへの対応

現在、少子化や社会情勢・ニーズの変化などに伴い、市立幼稚園・認定こども園の園児数は著しく減少しており、今後も減少傾向が続いていくことが懸念されます。一方で、認定こども園を含む幼稚園のニーズも一定程度の水準で推移していくものと思慮されます。そのため、本市は、特別支援教育、教育機会の確保、幼児教育の研究、子育て支援施策、人材育成機能など、これまでも地域の幼児教育の質向上において重要な役割を果たしてきており、今後もその役割を明確にしながら存続させ、私立園との共存を図るとともに、市立園における適正な教育環境を整備することが望ましいと考えられます。

そして、多様なニーズに柔軟に対応するには、アンケートで得た結果なども踏まえ、中長期的な視点から、市立保育園と市立幼稚園・認定こども園を、地域の保育・教育サービスを提供する公的施設として一体的にとらえるとともに、私立保育園・幼稚園等と共存を図っていくことが望ましいと考えます。

3.適正配置の基本的な考え方

(1) 一定の集団規模の確保

保育園・幼稚園・認定こども園等は、乳幼児一人ひとりの特性や成長を考慮しながら、集団生活の中での他者との関わりを通して、乳幼児の健やかな成長を促しています。

しかし、幼稚園・認定こども園では園児数の減少が著しい中で、将来にわたり一定の学級規模を確保することが困難となってきています。

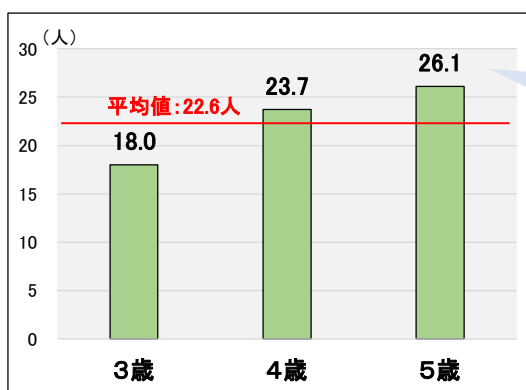
学校教育法においては、幼稚園における教育は、発達の側面から、心身の健康に関する領域、人とかかわりに関する領域、身近な環境とかかわりに関する領域、言葉の獲得に関する領域、感性と表現に関する領域の5つの領域として示され目標を達成するように行われるものとされています。人とかかわりに関する領域「人間関係」の目標としては、集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家庭や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと（学校教育法第23条第2号）、と目標が掲げられています。

幼稚園教育においては、人とかかわる力を育むにあたり、集団による遊びの楽しさを味わうことや、同年代の友だちとかかわりの中で、折り合いを付けるといった体験を通じて、主体性や社会的態度を身につけていくことが大切です。

近年、家庭や地域において幼児が兄弟姉妹や近隣の幼児とかかわる機会が減少していることを踏まえると、幼稚園において、一定規模の集団の中で群れ遊びや互いに切磋琢磨するなど、友だちとかかわり、さまざまな体験を重ねる中で育まれる協同性や規範意識、向上心の芽生えなど、生きる力の基礎を培うことの意義は大きいと考えます。

また、幼児の発達状況に応じたきめ細かな保育・教育を提供するとともに、一定規模の集団を形成し、こども同士が相互に影響しあい、一人ひとりのこどもが発達にそった必要な経験が得られる環境を整えることも必要です。

文科省の研究結果²においては、一人ひとりの幼児への個別の対応が求められる「個に応じた援助」を行い、集団の形成過程を大切に、「協同性の育ち」を培うためには、3歳以上児における1学級あたりの望ましい人数についての平均値は、3歳：18人、4歳：23.7人、5歳：26.1人という結果となっています。このことから、1学級あたり20人程度が望ましいものと考えます。



こどもが他者とかかわる力を高めるためには、1学年に2学級以上あると、学級編成替えができるなど、より望ましい環境であると考えます。

² 社団法人全国幼児教育研究協会「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」（平成23年）

(2) 市立保育・教育施設としての役割の発揮

市立保育・教育施設は、本市が抱える保育・教育環境の課題に対して、直接的・機動的にアプローチすることが可能です。そのため、これまでも、教育研究機関としての責務を果たしながら人材育成にも注力し、成果を私立園と共有するとともに、困難な課題について柔軟に対応し、その役割を果たしてきました。

市立保育・教育施設は、今後も、これまで培ってきた就学前保育・教育を継続的に発展させ、地域に根差した施設として子育て支援の中心的な役割を担うほか、特別な配慮が必要なこどもへの対応などに引き続き取り組んでいきます。

図表 58 市立保育・教育施設の役割

1 幼児保育・教育の研究・実践

これまで市立園で積み重ねてきた保育・教育活動の成果を生かした研究・実践を推進するとともに、私立園等への成果の共有・発信を行う。

2 保護者や地域に対する子育て支援の拠点

乳幼児と家庭、地域をつなぐ保育・教育のセンターとしての役割を担い、乳幼児期の保育・教育に関する相談・支援や、さまざまな人たちがつながり合う子育て支援の拠点としての機能を発揮する。

3 義務教育の基礎を培う

市立園における就学前教育は、小学校入学後の義務教育の基礎を担うものであることから、未就学児保育・教育施設のさらなる連携強化を図り、小学校教育への円滑な接続を行う。

4 配慮の必要な園児に対する教育・保育の提供

支援員の配置や、専門的知識・技術を習得した職員の配置および資質の向上を図り、園児それぞれの特性・成長に応じた支援を引き続き行う。

4.適正配置等の考え方

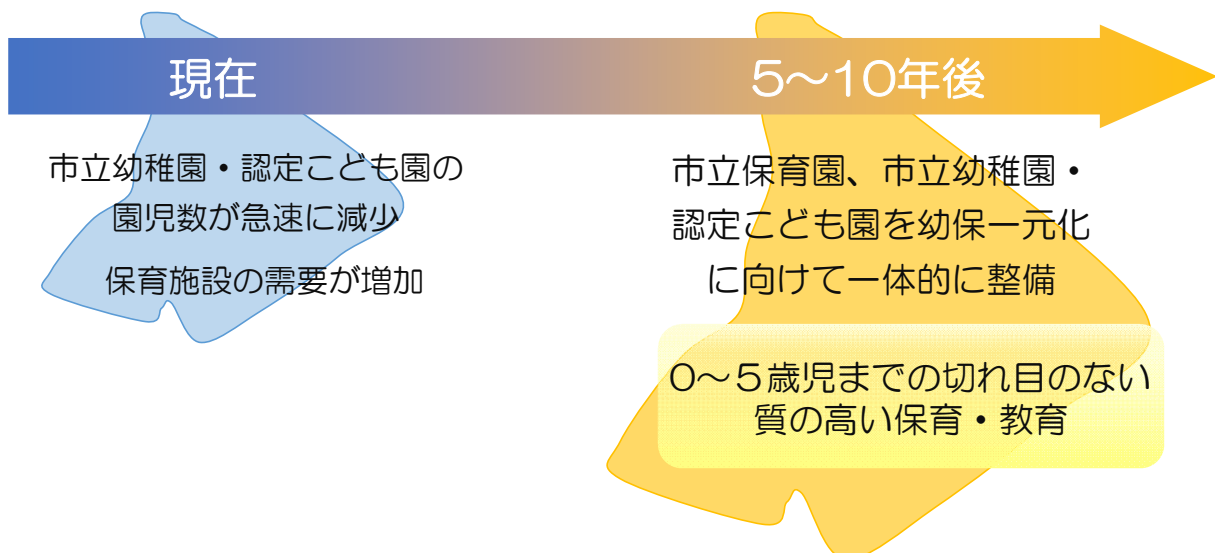
先述した「一定の集団規模の確保」と、「市立保育・教育施設としての役割の発揮」という目的を実現するためには、以下の取組を進め、就学前保育・教育施設の整備が必要と考えます。

目的実現のために、就学前保育・教育施設に求められる取組

- ① 一定の集団規模の確保（1園あたりの園児数）
- ② 0～5歳児までの切れ目のない質の高い保育・教育
- ③ 保護者の就労形態の変化に応じた柔軟な預り時間
- ④ 調理室等の施設整備
- ⑤ 市立園としての役割の発揮
- ⑥ 保育・教育の枠を超えた職員配置・人材育成

5.今後の進め方

今後については、本調査報告書を踏まえ、市内の就学前保育・教育施設のあり方に関する基本方針を作成し、市立保育園、市立幼稚園・認定こども園を一体的に捉えた幼保一元化に向けた整備を検討していきます。



資料編

1.利用者向けアンケート結果詳細

(1) 市立保育園利用者

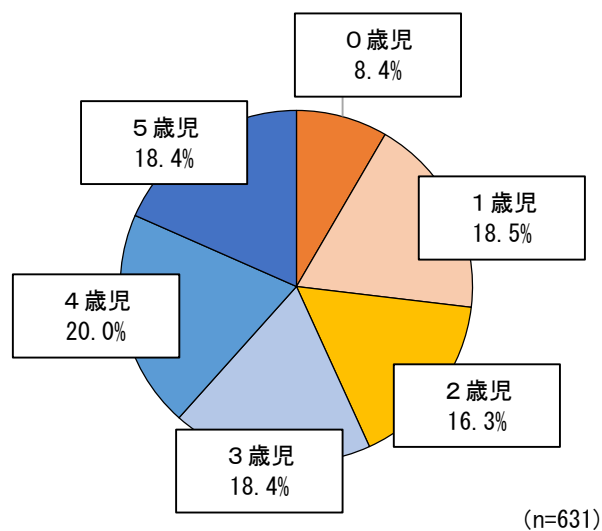
■対象先の属性

(単位: 件、%)

		回答数	割合
全体		631	100.0
性別	男性	75	11.9
	女性	556	88.1
年齢	20歳代	36	5.7
	30歳代	407	64.5
	40歳代	185	29.3
	50歳代	3	0.5
居住地	当代島	43	6.8
	猫実	12	1.9
	堀江	27	4.3
	北栄	75	11.9
	富士見	14	2.2
	海楽	11	1.7
	東野	54	8.6
	富岡	36	5.7
	弁天	28	4.4
	美浜	22	3.5
	入船	35	5.5
	今川	30	4.8
	鉄鋼	0	0.0
	舞浜	3	0.5
	日の出	81	12.8
	明海	25	4.0
	高洲	134	21.2
	千鳥	1	0.2
港	0	0.0	

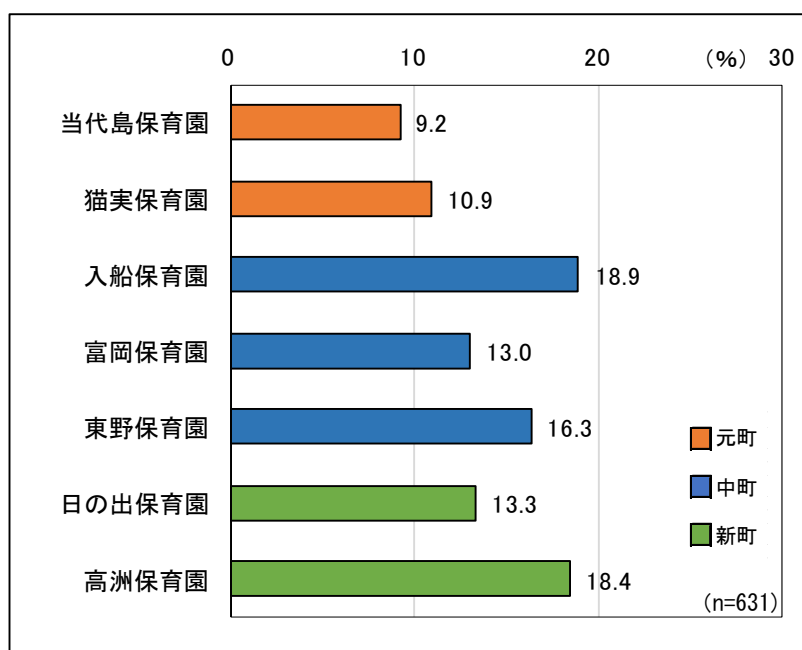
1. お子さまのクラスをお答えください。(SA)

クラスは、「4歳児」が20.0%で最も多く、「1歳児」が18.5%、「5歳児」及び「3歳児」が18.4%となっています。



2. 現在お子さまが通園している保育園はどこですか。(SA)

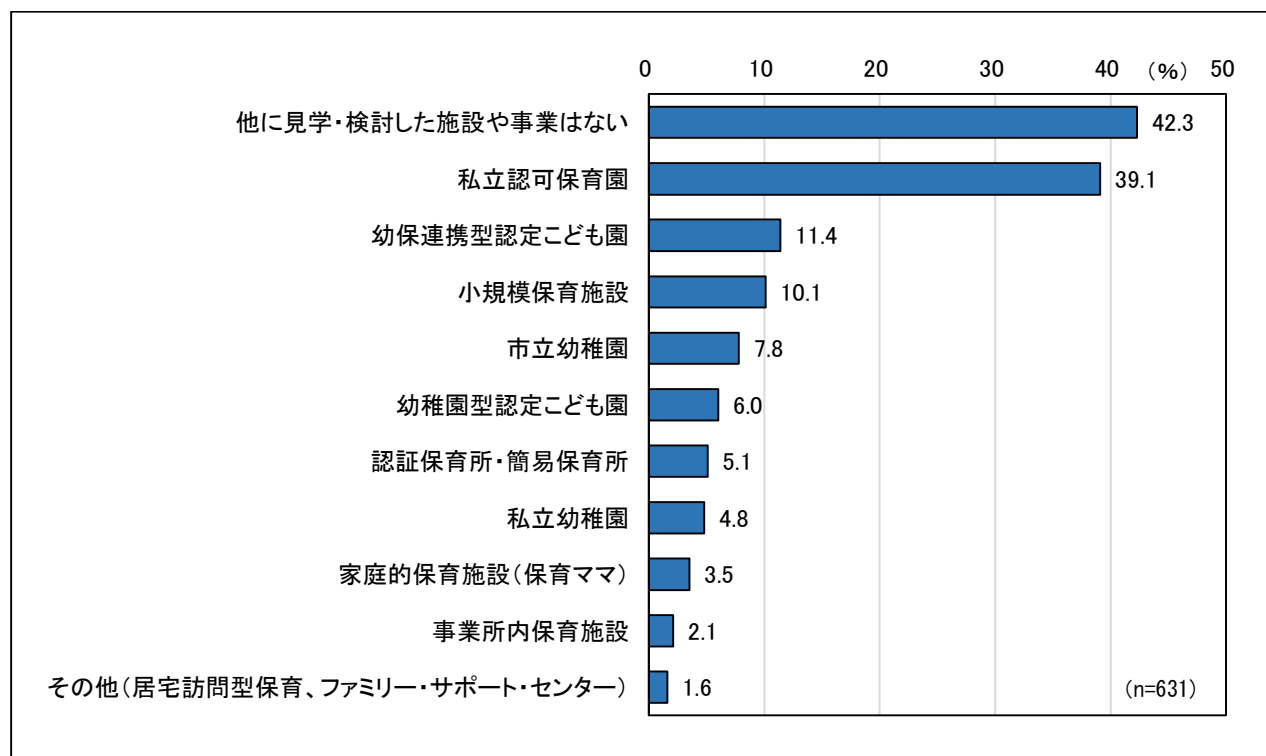
通園している幼稚園・認定こども園は「入船保育園」が18.9%で最も多く、以下、「高洲保育園（18.4%）」、「東野保育園（16.3%）」が続いています。



3. 入園にあたり、ほかに見学・検討した施設や事業があればお答えください。(MA)

入園にあたり見学・検討した施設や事業は、「他に見学・検討した施設や事業はない」が42.3%で最も多く、以下、「私立認可保育園(39.1%)」、「幼保連携型認定こども園(11.4%)」が続いています。

地域別にみると、「私立認可保育園」は「元町(45.0%)」、「幼保連携型認定こども園」は「新町(20.7%)」、「家庭的保育施設(保育ママ)」は「中町(5.9%)」で比較的多くなっています。



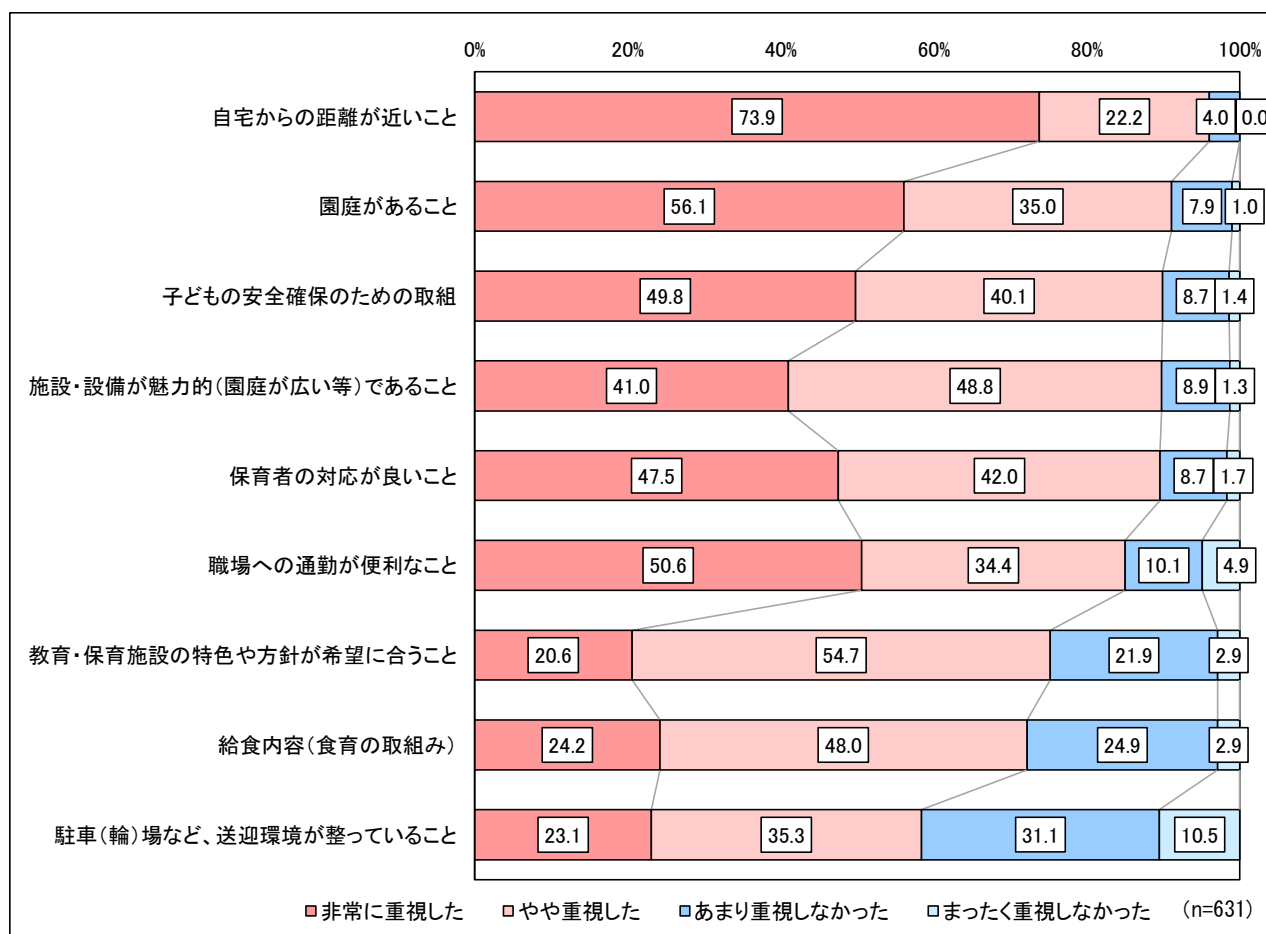
(単位: %)

	件数	他に見学・検討した施設や事業はない	私立認可保育園	幼保連携型認定こども園	小規模保育施設	市立幼稚園	幼稚園型認定こども園	認証保育所・簡易保育所	私立幼稚園	家庭的保育施設(保育ママ)	事業所内保育施設	その他(居宅訪問型保育、ファミリー・サポート・センター)
全体	631	42.3	39.1	11.4	10.1	7.8	6.0	5.1	4.8	3.5	2.1	1.6
元町	171	39.2	45.0	4.7	9.9	7.6	5.3	9.4	6.4	1.8	2.3	2.3
中町	219	44.3	36.5	6.4	10.0	7.3	5.0	4.1	3.7	5.9	4.1	1.4
新町	241	42.7	37.3	20.7	10.4	8.3	7.5	2.9	4.6	2.5	0.0	1.2

4. 保育園を選ぶ際に以下の項目についてどの程度重視しましたか。（各SA）

保育園を選ぶ際に『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合が高い項目は、「自宅からの距離が近いこと（96.1%）」が最も多く、以下、「園庭があること（91.1%）」、「子どもの安全確保のための取組（89.9%）」が続きました。

『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」）と回答した割合を地域別にみると、「自宅からの距離が近いこと」は、すべての地域で9割を超えています。また、「園庭があること」は元町でやや多く、「職場への通勤が便利なこと」は中町でやや多く、「教育・保育施設の特色や方針が希望に合うこと」、「駐車（輪）場など、送迎環境が整っていること」は、新町でやや多くなっています。

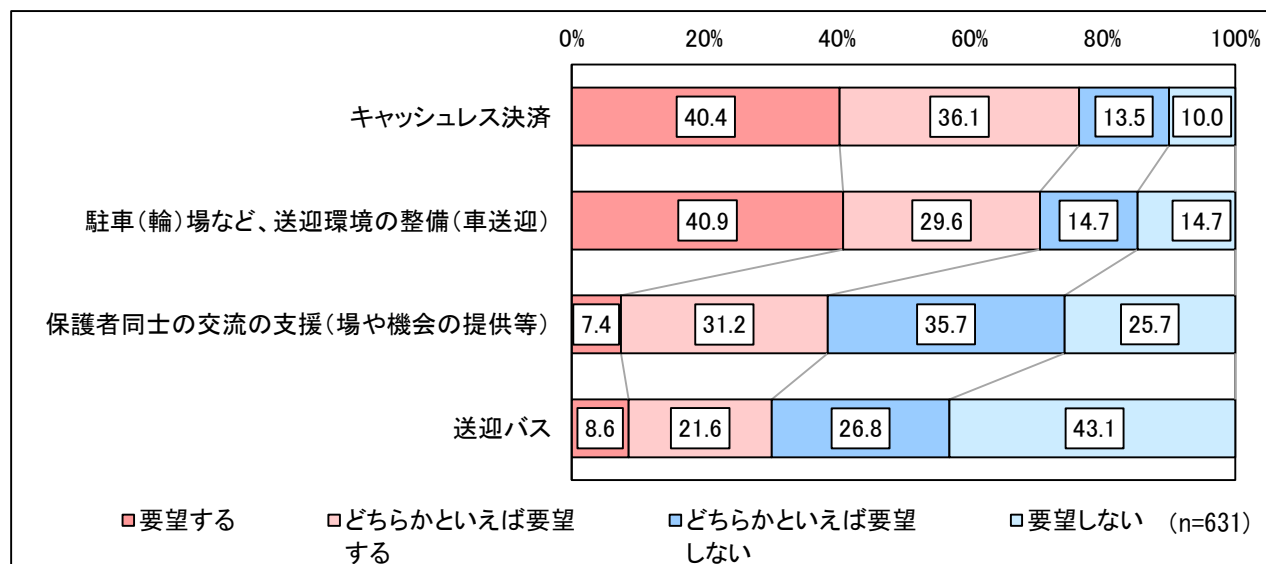


(単位: 件、%)

	件数	自宅からの距離が近いこと	園庭があること	子どもの安全確保のための取組	施設・設備が魅力的（園庭が広い等）であること	保育者の対応が良いこと	職場への通勤が便利なこと	教育・保育施設の特色や方針が希望に合うこと	給食内容（食育の取組み）	送迎環境が整っていること、駐車（輪）場など、
全体	631	96.1	91.1	89.9	89.8	89.5	85.0	75.3	72.2	58.4
元町	171	94.7	94.7	84.8	91.8	87.7	81.9	74.3	66.7	50.8
中町	219	98.2	88.1	91.3	87.7	88.6	88.1	71.7	74.9	57.9
新町	241	95.1	91.3	92.1	90.4	91.7	84.3	79.2	73.9	64.3

5. 保育園の運営・サービス面において、特に要望することは何ですか。（各 SA）

保育園の運営・サービス面において『要望する』（「要望する」＋「どちらかといえば要望する」）と回答した割合が高い項目は、「キャッシュレス決済（76.5%）」が最も多く、以下、「駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）（70.5%）」、「保護者同士の交流の支援（場や機会の提供等）（38.6%）」が続きました。

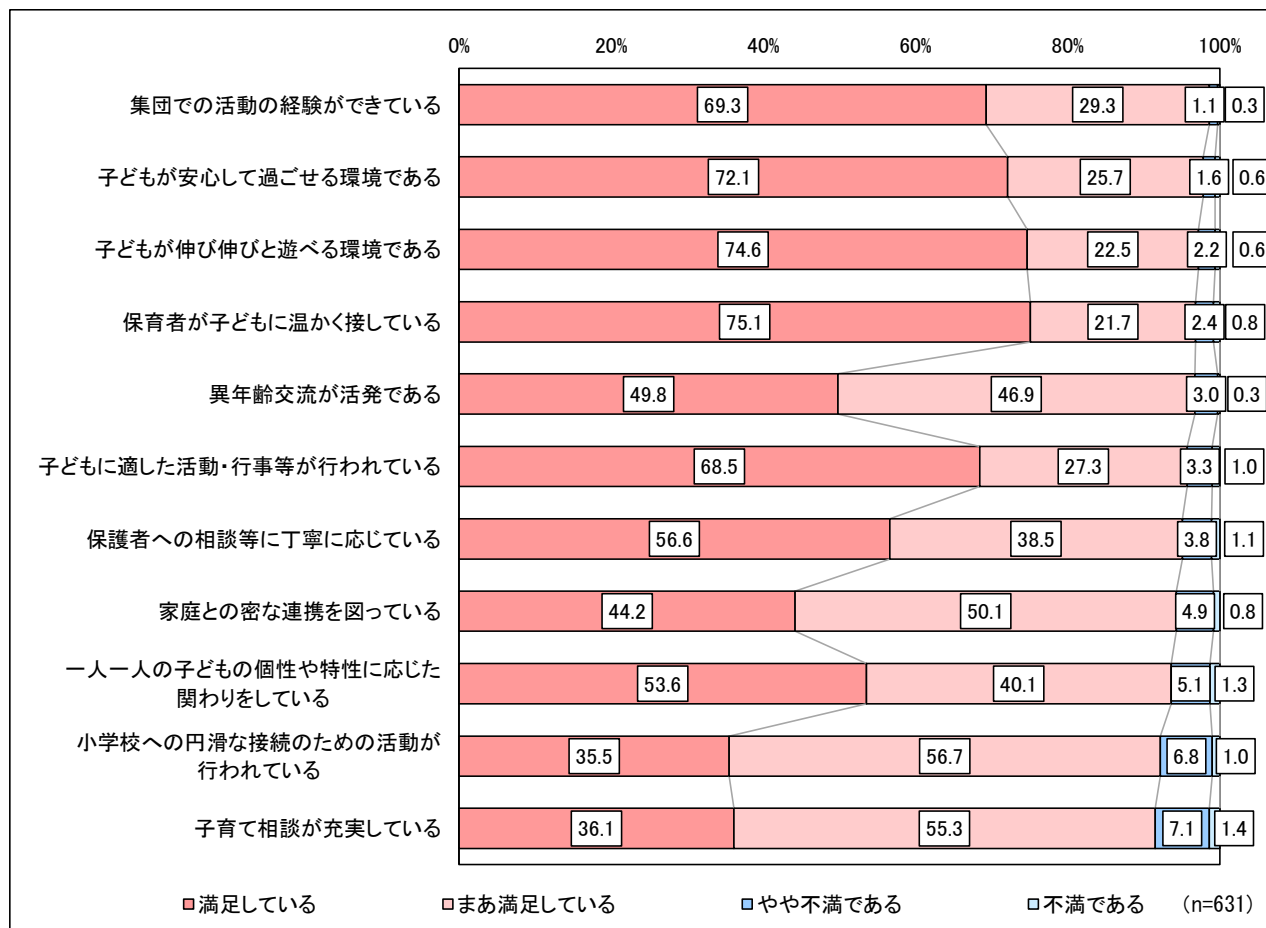


(単位: %)

	要望する			要望しない		
	要望する	どちらかといえば要望する	どちらかといえば要望しない	要望しない	どちらかといえば要望しない	要望しない
キャッシュレス決済	76.5	40.4	36.1	23.5	13.5	10.0
駐車(輪)場など、送迎環境の整備(車送迎)	70.5	40.9	29.6	29.4	14.7	14.7
保護者同士の交流の支援(場や機会の提供等)	38.6	7.4	31.2	61.4	35.7	25.7
送迎バス	30.2	8.6	21.6	69.9	26.8	43.1

6. お子さまが通園している保育園について、それぞれの項目に対し、どの程度満足していますか。（各 SA）

保育園について『満足』（「満足している」＋「まあ満足している」）と回答した割合が高い項目は、「集団での活動の経験ができている（98.6%）」が最も多く、以下、「子どもが安心して過ごせる環境である（97.8%）」、「子どもが伸び伸びと遊べる環境である（97.1%）」が続きました。『満足』の割合は、11項目いずれも9割を超えています。



(単位: %)

	満足			不満		
	満足している	まあ満足している	満足している	不満	やや不満である	不満である
集団での活動の経験ができている	98.6	69.3	29.3	1.4	1.1	0.3
子どもが安心して過ごせる環境である	97.8	72.1	25.7	2.2	1.6	0.6
子どもが伸び伸びと遊べる環境である	97.1	74.6	22.5	2.8	2.2	0.6
保育者が子どもに温かく接している	96.8	75.1	21.7	3.2	2.4	0.8
異年齢交流が活発である	96.7	49.8	46.9	3.3	3.0	0.3
子どもに適した活動・行事等が行われている	95.8	68.5	27.3	4.3	3.3	1.0
保護者への相談等に丁寧に応じている	95.1	56.6	38.5	4.9	3.8	1.1
家庭との密な連携を図っている	94.3	44.2	50.1	5.7	4.9	0.8
一人一人の子どもの個性や特性に応じた関わりをしている	93.7	53.6	40.1	6.4	5.1	1.3
小学校への円滑な接続のための活動が行われている	92.2	35.5	56.7	7.8	6.8	1.0
子育て相談が充実している	91.4	36.1	55.3	8.5	7.1	1.4

(2) 市立幼稚園・認定こども園利用者

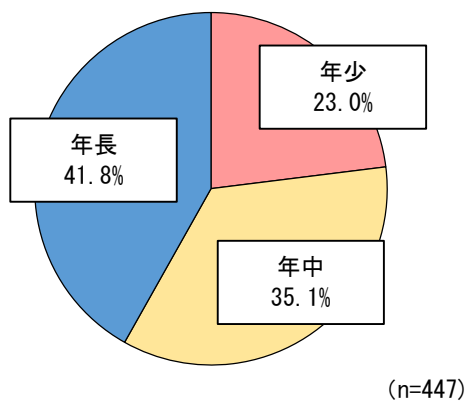
■対象先の属性

(単位:件、%)

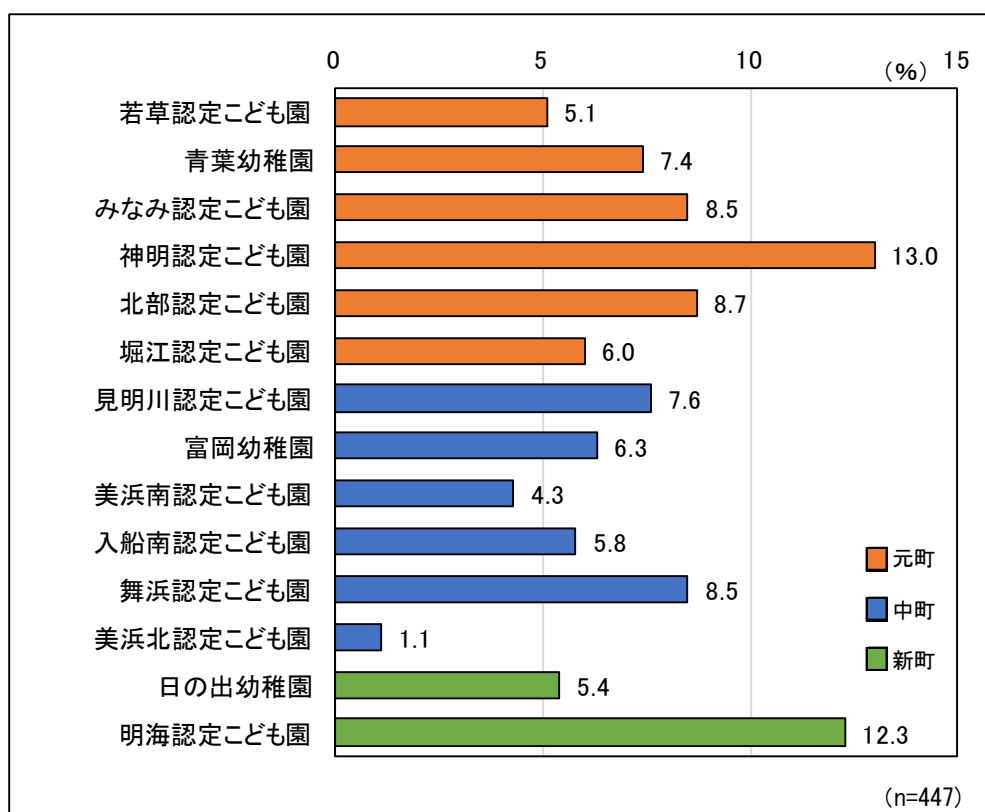
		回答数	割合
全体		447	100.0
性別	男性	14	3.1
	女性	433	96.9
年齢	20歳代	12	2.7
	30歳代	271	60.6
	40歳代	159	35.6
	50歳代	4	0.9
	60歳代	1	0.2
居住地	当代島	26	5.8
	猫実	25	5.6
	堀江	56	12.5
	北栄	76	17.0
	富士見	44	9.8
	海楽	23	5.1
	東野	18	4.0
	富岡	16	3.6
	弁天	25	5.6
	美浜	16	3.6
	入船	9	2.0
	今川	17	3.8
	鉄鋼	0	0.0
	舞浜	9	2.0
	日の出	28	6.3
	明海	33	7.4
	高洲	26	5.8
	千鳥	0	0.0
港	0	0.0	

1. お子さまのクラスをお答えください。(SA)

クラスは、「年少」が23.0%、「年中」が35.1%、「年長」が41.8%となっています。

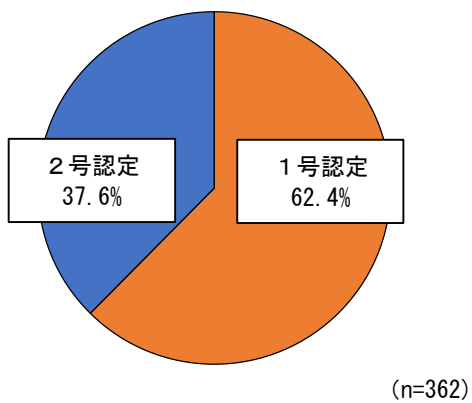
2. 現在お子さまが通園している幼稚園・認定こども園はどこですか。(SA)

通園している幼稚園・認定こども園は「神明認定こども園」が13.0%で最も多く、以下、「明海認定こども園(12.3%)」、「北部認定こども園(8.7%)」が続いています。



3. （認定こども園に通園しているお子さまのみ） お子さまは「1号認定」ですか。「2号認定」ですか。（SA）

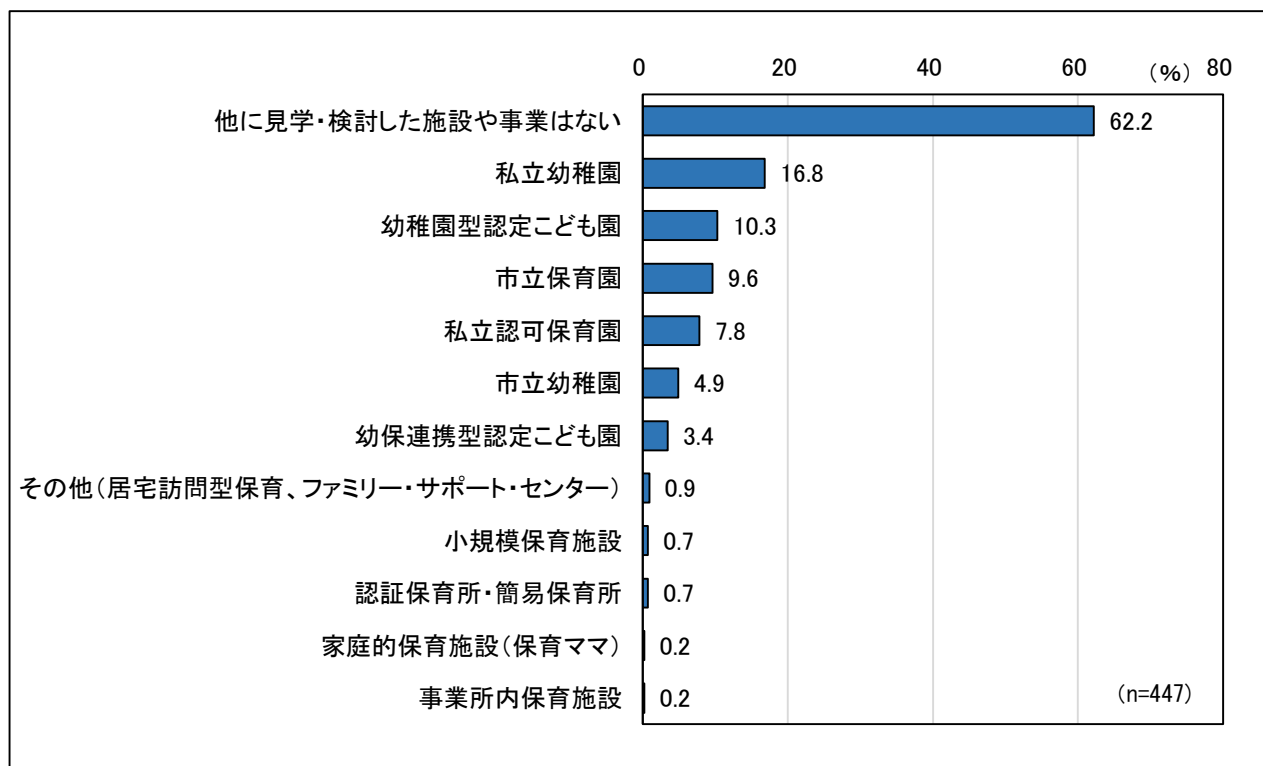
教育・保育給付認定区分は、「1号認定」が62.4%、「2号認定」が37.6%となっています。



4. 入園にあたり、ほかに見学・検討した施設や事業があればお答えください。(MA)

入園にあたり見学・検討した施設や事業は、「他に見学・検討した施設や事業はない」が62.2%で突出して多く、以下、「私立幼稚園(16.8%)」、「幼稚園型認定こども園(10.3%)」が続いています。

地域別にみると、「私立幼稚園」、「市立保育園」は新町で多く、「私立認可保育園」は元町で比較的多くなっています。



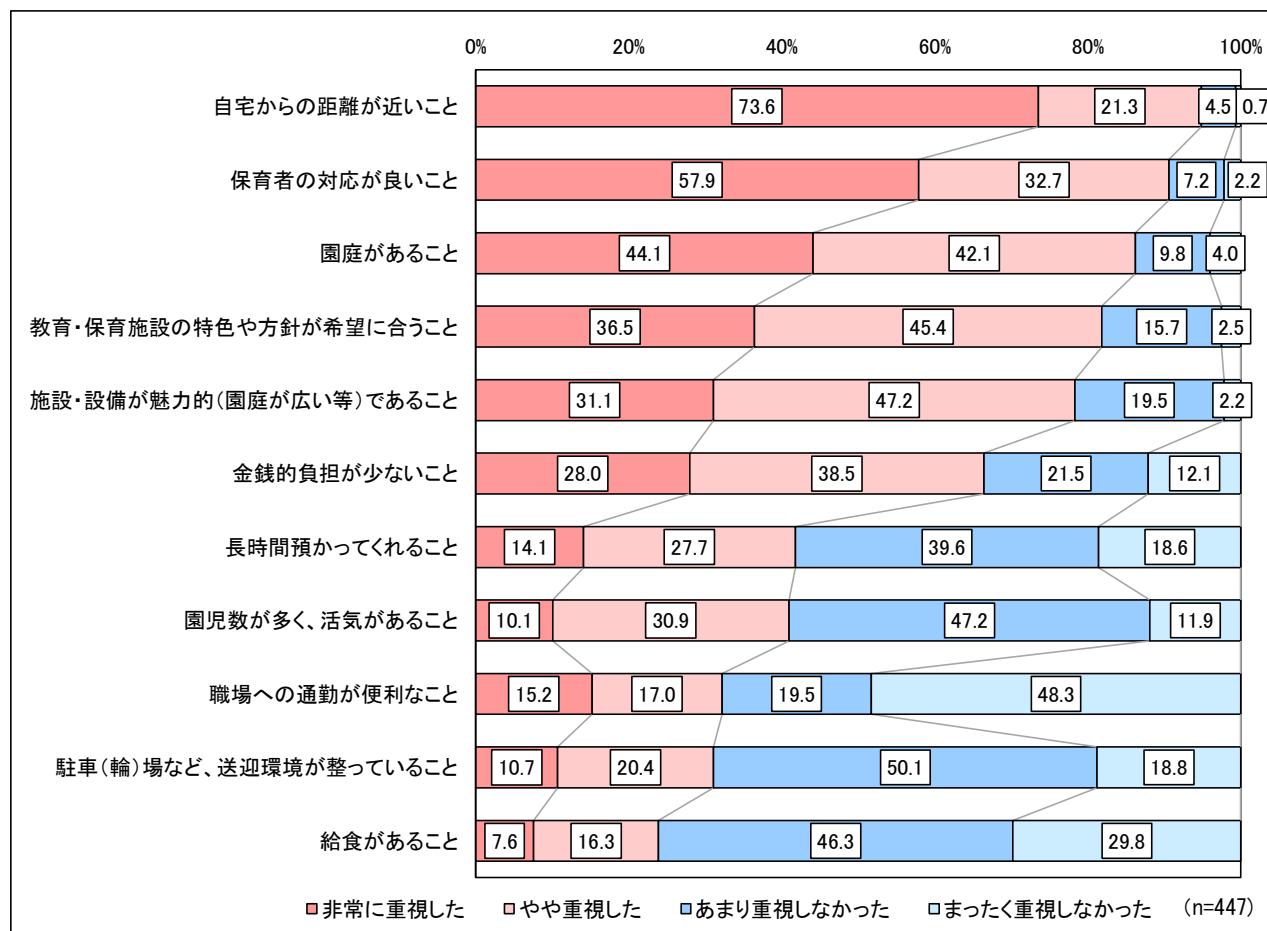
(単位:%)

	件数	他に見学・検討した施設や事業はない	私立幼稚園	幼稚園型認定こども園	市立保育園	私立認可保育園	市立幼稚園	幼保連携型認定こども園	その他(居宅訪問型保育、ファミリー・サポート・センター)	小規模保育施設	認証保育所・簡易保育所	家庭的保育施設(保育ママ)	事業所内保育施設
全体	447	62.2	16.8	10.3	9.6	7.8	4.9	3.4	0.9	0.7	0.7	0.2	0.2
元町	227	67.0	11.9	11.9	8.4	10.1	3.5	1.8	0.4	0.9	1.3	0.0	0.0
中町	133	62.4	18.0	9.8	9.0	3.8	6.0	3.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8
新町	87	49.4	27.6	6.9	13.8	8.0	6.9	8.0	1.1	1.1	0.0	1.1	0.0

5. 幼稚園・認定こども園を選ぶ際に以下の項目についてどの程度重視しましたか。（各 SA）

幼稚園・認定こども園を選ぶ際に『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」と回答した割合が高い項目は、「自宅からの距離が近いこと（94.9%）」が最も多く、以下、「保育者の対応が良いこと（90.6%）」、「園庭があること（86.2%）」が続きました。

『重視した』（「非常に重視した」＋「やや重視した」と回答した割合を地域別にみると、「自宅からの距離が近いこと」は、すべての地域で9割を超えています。また、「教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと」、「長時間預かってくれること」は、新町で比較的多くなっています。

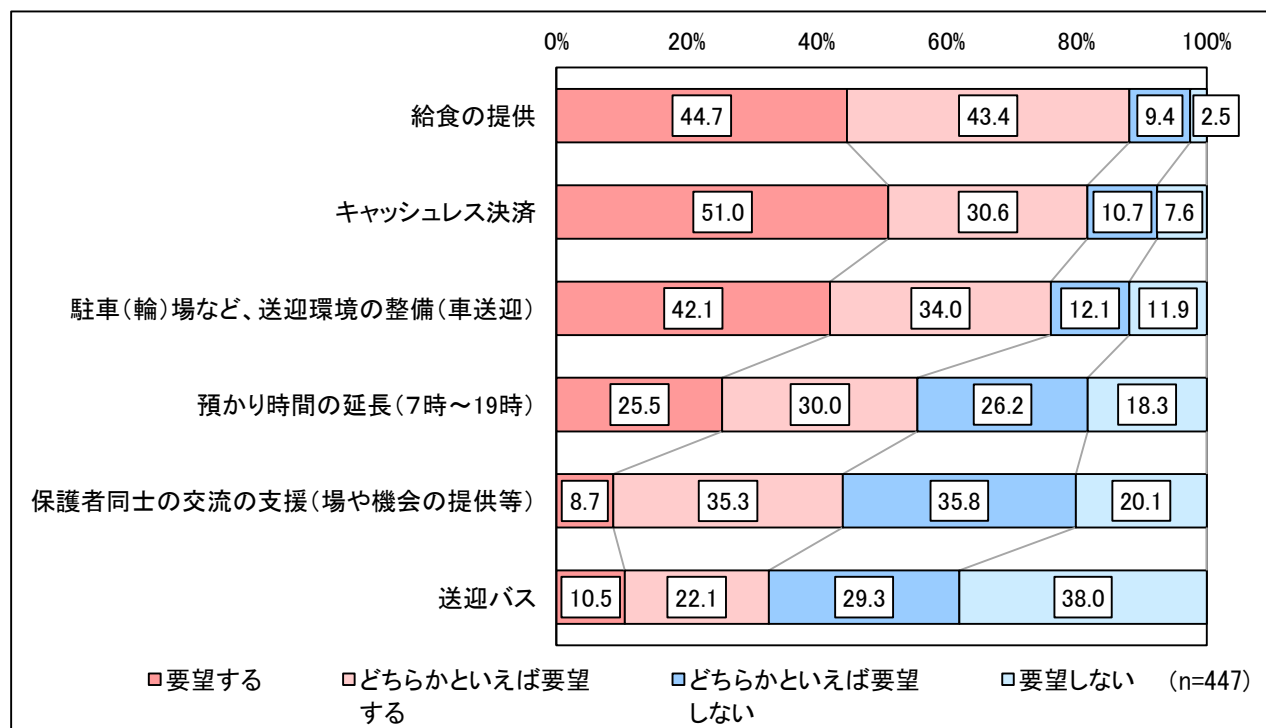


(単位: 件、%)

件数	自宅からの距離が近いこと	保育者の対応が良いこと	園庭があること	教育・保育施設の特徴や方針が希望に合うこと	施設・設備が魅力的（園庭が広い等）であること	金銭的負担が少ないこと	長時間預かってくれること	活気があること、園児数が多いこと	職場への通勤が便利なこと	送迎環境（駐車（輪）場など）が整っていること	給食があること	
全体	447	94.9	90.6	86.2	81.9	78.3	66.5	41.8	41.0	32.2	31.1	23.9
元町	227	93.8	89.8	87.2	80.2	80.2	67.9	44.0	43.2	34.3	30.0	24.7
中町	133	94.8	89.5	84.9	81.2	75.9	69.2	34.6	37.6	25.6	31.6	21.1
新町	87	97.7	94.3	85.1	87.4	77.0	58.6	47.1	40.2	36.7	33.3	26.4

6. 幼稚園・認定こども園の運営・サービス面において、特に要望することは何ですか。（各SA）

幼稚園・認定こども園の運営・サービス面において『要望する』（「要望する」＋「どちらかといえば要望する」）と回答した割合が高い項目は、「給食の提供（88.1%）」が最も多く、以下、「キャッシュレス決済（81.6%）」、「駐車（輪）場など、送迎環境の整備（車送迎）（76.1%）」が続きました。

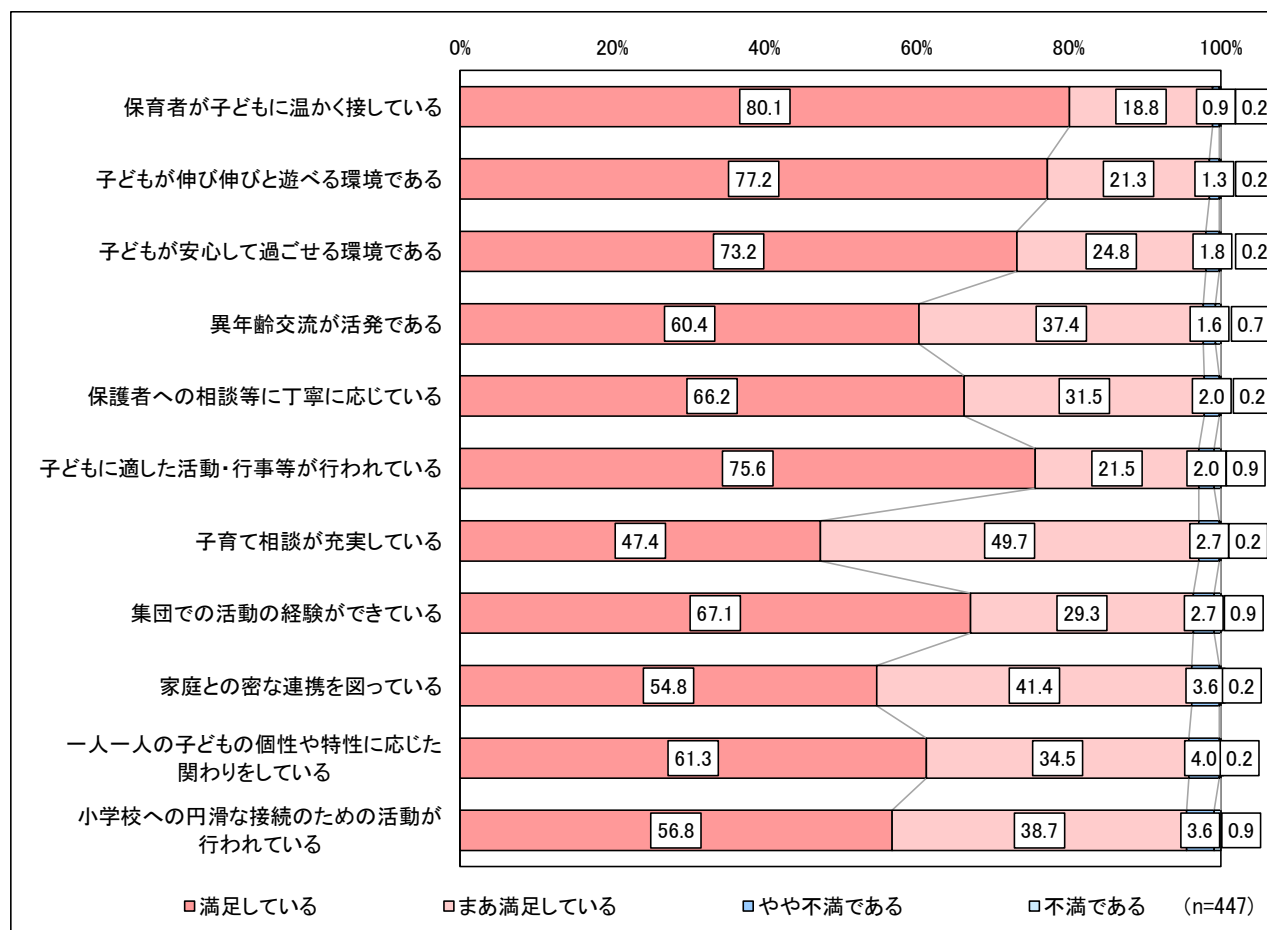


(単位: %)

	要望する			要望しない		
	要望する	どちらかといえば要望する	どちらかといえば要望しない	要望しない	どちらかといえば要望しない	要望しない
給食の提供	88.1	44.7	43.4	11.9	9.4	2.5
キャッシュレス決済	81.6	51.0	30.6	18.3	10.7	7.6
駐車(輪)場など、送迎環境の整備(車送迎)	76.1	42.1	34.0	24.0	12.1	11.9
預かり時間の延長(7時～19時)	55.5	25.5	30.0	44.5	26.2	18.3
保護者同士の交流の支援(場や機会の提供等)	44.0	8.7	35.3	55.9	35.8	20.1
送迎バス	32.6	10.5	22.1	67.3	29.3	38.0

7. お子さまが通園している幼稚園・認定こども園について、それぞれの項目に対し、どの程度満足していますか。（各 SA）

幼稚園・認定こども園について『満足』（「満足している」＋「まあ満足している」）と回答した割合が高い項目は、「保育者がこどもに温かく接している（98.9%）」が最も多く、以下、「こどもが伸び伸びと遊べる環境である（98.5%）」、「こどもが安心して過ごせる環境である（98.0%）」が続きました。『満足』の割合は、11項目いずれも9割を超えています。



(単位：%)

	満足			不満		
	満足している	まあ満足している	満足している	やや不満である	不満である	
保育者がこどもに温かく接している	98.9	80.1	18.8	1.1	0.9	0.2
こどもが伸び伸びと遊べる環境である	98.5	77.2	21.3	1.5	1.3	0.2
こどもが安心して過ごせる環境である	98.0	73.2	24.8	2.0	1.8	0.2
異年齢交流が活発である	97.8	60.4	37.4	2.3	1.6	0.7
保護者への相談等に丁寧に応じている	97.7	66.2	31.5	2.2	2.0	0.2
こどもに適した活動・行事等が行われている	97.1	75.6	21.5	2.9	2.0	0.9
子育て相談が充実している	97.1	47.4	49.7	2.9	2.7	0.2
集団での活動の経験ができています	96.4	67.1	29.3	3.6	2.7	0.9
家庭との密な連携を図っている	96.2	54.8	41.4	3.8	3.6	0.2
一人一人の子どもの個性や特性に応じた関わりをしている	95.8	61.3	34.5	4.2	4.0	0.2
小学校への円滑な接続のための活動が行われている	95.5	56.8	38.7	4.5	3.6	0.9

2.0～2 歳児向けアンケート結果詳細

■ 対象先の属性

【性別・年代】

		回答数	割合
全体		1,572件	100.0%
性別	男性	216件	13.7%
	女性	1,352件	86.0%
	その他	4件	0.3%
年代	10歳代	2件	0.1%
	20歳代	194件	12.3%
	30歳代	1,081件	68.8%
	40歳代	283件	18.0%
	50歳代	10件	0.6%
	60歳代以上	2件	0.1%

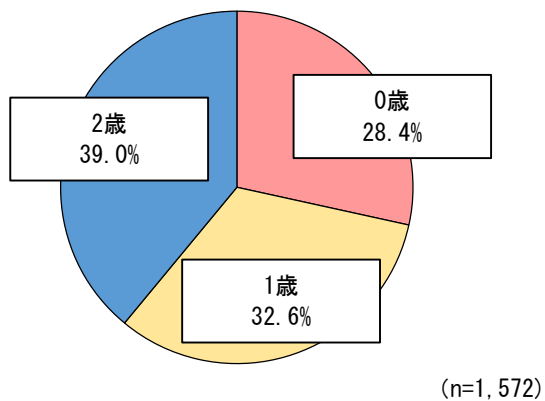
【居住地】

		回答数	割合
全体		1,572件	100.0%
居住地	当代島	99件	6.3%
	猫実	103件	6.6%
	堀江	159件	10.1%
	北栄	239件	15.2%
	富士見	149件	9.5%
	海楽	42件	2.7%
	東野	73件	4.6%
	富岡	45件	2.9%
	弁天	61件	3.9%
	美浜	57件	3.6%
	入船	60件	3.8%
	今川	48件	3.1%
	鉄鋼	0件	0.0%
	舞浜	17件	1.1%
	日の出	139件	8.8%
	明海	103件	6.6%
	高洲	178件	11.3%
	千鳥	0件	0.0%
	港	0件	0.0%

1. お子さまの年齢をお答えください。(SA)

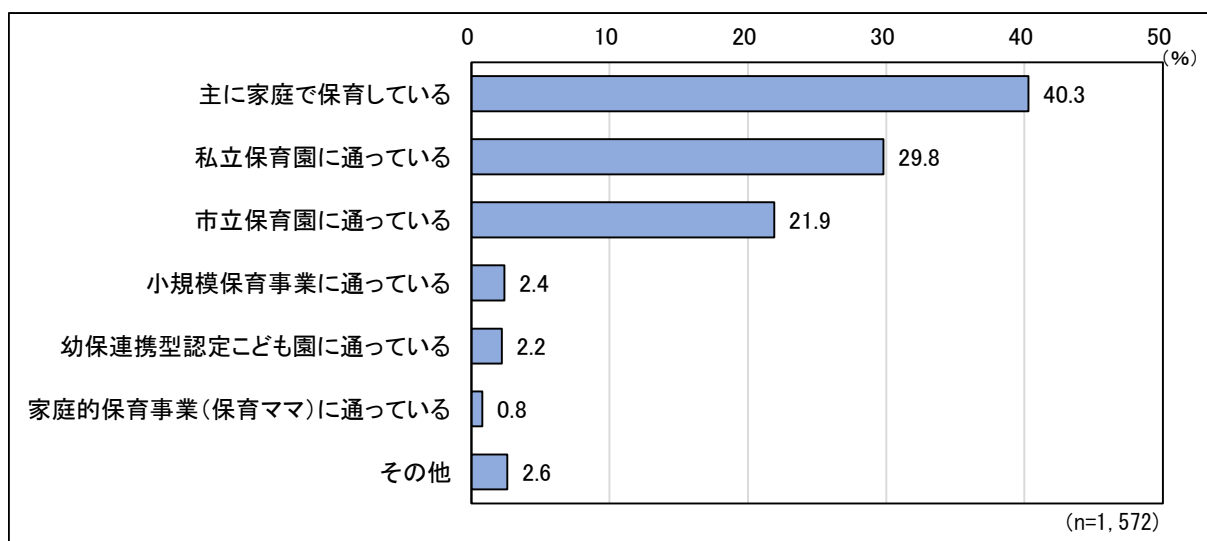
子どもの年齢は、「0歳(28.4%)」、「1歳(32.6%)」、「2歳(39.0%)」と、2歳の割合がやや多いものの、おおむね均等な結果となりました。

0歳:令和6年4月2日以降生まれ
1歳:令和5年4月2日～令和6年4月1日生まれ
2歳:令和4年4月2日～令和5年4月1日生まれ



2. 現在の保育状況についてお答えください。(SA)

現在の保育状況は、「主に家庭で保育している(40.3%)」が最も多く、次いで「私立保育園に通っている(29.8%)」、「市立保育園に通っている(21.9%)」となりました。



■ 地域別・子どもの年齢別

現在の保育状況を地域別にみると、「主に家庭で保育」は、新町(41.9%)と元町(40.5%)が中町(38.2%)よりもわずかに多い傾向がみられました。

「私立保育園」は元町(37.7%)で、「市立保育園」は新町(28.1%)と中町(26.3%)でそれぞれ多く、「幼保連携型認定こども園」は新町(6.2%)が他の地域よりも約5ポイント多い結果でした。

年齢別にみると、「主に家庭で保育」は0歳(74.9%)で非常に多い一方、1歳(28.7%)と2歳(24.6%)では3割未満でした。

(単位: 件、%)

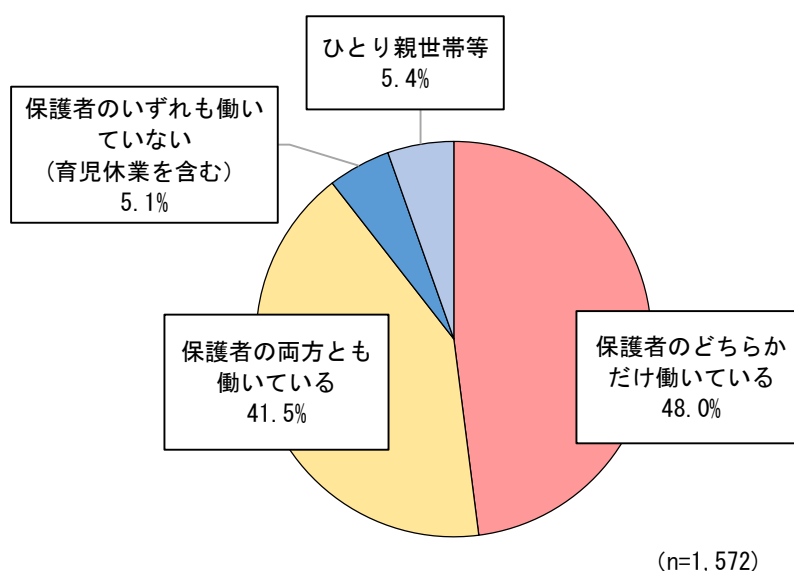
	合計	主に家庭 で保育	私立 保育園	市立 保育園	小規模 保育事業	幼保連携 型認定 こども園	家庭的 保育事業 (保育 ママ)	その他
全体	1,572	40.3	29.8	21.9	2.4	2.2	0.8	2.6
地域	元町	99	40.5	37.7	16.2	2.0	0.8	2.1
	中町	103	38.2	28.5	26.3	2.5	0.5	3.0
	新町	159	41.9	17.1	28.1	3.1	6.2	3.1
年齢	0歳	447	74.9	14.3	8.3	0.7	0.4	0.9
	1歳	512	28.7	37.3	28.1	2.3	2.3	0.8
	2歳	613	24.6	34.9	26.8	3.8	3.3	5.4

3. 現在の就労状況についてお答えください。(SA)

※保護者の属性（父親・母親等）については設問内で特定していません。

※「保護者二人目」を回答しなかった方については、「ひとり親世帯等」と記載しています。

保護者の現在の就労状況は、「保護者のどちらかだけ働いている（48.0%）」が最も多く、次いで「保護者の両方とも働いている（41.5%）」となりました。



■ 就労形態別世帯数

保護者一人目・保護者二人目それぞれについて、就労形態別に世帯数を整理したところ、「（保護者一人目）フルタイム×（保護者二人目）フルタイム」が459世帯と最も多くなりました。

保護者のうち一方がフルタイム、もう一方が育児休業中のケースは合わせて371世帯で、保護者のうち一方がフルタイム、もう一方が未就労の世帯は合わせて270世帯でした。

保護者のどちらも育児休業中の世帯は、42世帯みられました。

(単位: 世帯)

		保護者(二人目)							
		フルタイム	パートタイム			その他	未就労	育児休業中	
			120時間~/月	64時間~120時間/月	~64時間/月				
保護者(一人目)	フルタイム	459	65	59	21	45	169	184	
	パートタイム	120時間~/月	39	5	0	0	5	0	0
		64時間~120時間/月	41	0	2	0	3	0	0
		~64時間/月	11	0	0	1	0	0	0
		その他	14	1	0	0	5	2	1
	未就労	101	0	1	0	3	16	0	
	育児休業中	187	0	2	1	4	3	42	
ひとり親世帯等	17	4	4	5	5	12	33		

■ 地域別・子どもの年齢別

地域による顕著な差はみられませんでした。

子どもの年齢別では、子どもの年齢が0歳では「保護者のどちらかだけ働いている(66.4%)」が過半数を占めましたが、1歳では「保護者の両方とも働いている」が53.7%と逆転し、2歳ではその割合がさらに増えて57.7%となりました。

(単位: 件、%)

		合計	保護者の どちらかだけ 働いている	保護者の 両方とも 働いている	保護者の いずれも働 いていない (育児休業を 含む)	ひとり親世帯 等
全体		1,572	45.4	44.7	4.8	5.1
地域	元町	749	42.6	44.6	5.9	6.9
	中町	403	46.2	46.7	4.0	3.2
	新町	420	49.5	43.1	3.8	3.6
年齢	0歳	447	66.4	16.6	9.2	7.8
	1歳	512	41.8	53.7	2.1	2.3
	2歳	613	33.0	57.7	3.9	5.4

4. (3で、就労していない・育児休業中と答えた方) 今後就労・復職する予定はありますか。

(SA)

3. 現在の就労状況で「育児休業中」もしくは「未就労」を選んだ方に対し、今後の復職予定を尋ねたところ、全体では「フルタイムで働く予定(46.0%)」が最も多い結果となりました。

内訳をみると、現在育児休業中の方は、「フルタイムで働く予定(70.7%)」が7割を超えた一方、現在未就労の方は「就労予定はない・わからない(64.7%)」が最も多くなりました。

パートタイムで働く予定の方について、月間労働時間による違いをみると、現在育児休業中の方は、「120時間~/月(11.6%)」が多かった一方で、現在未就労の方は、「~64時間/月(12.4%)」が比較的多くなりました。

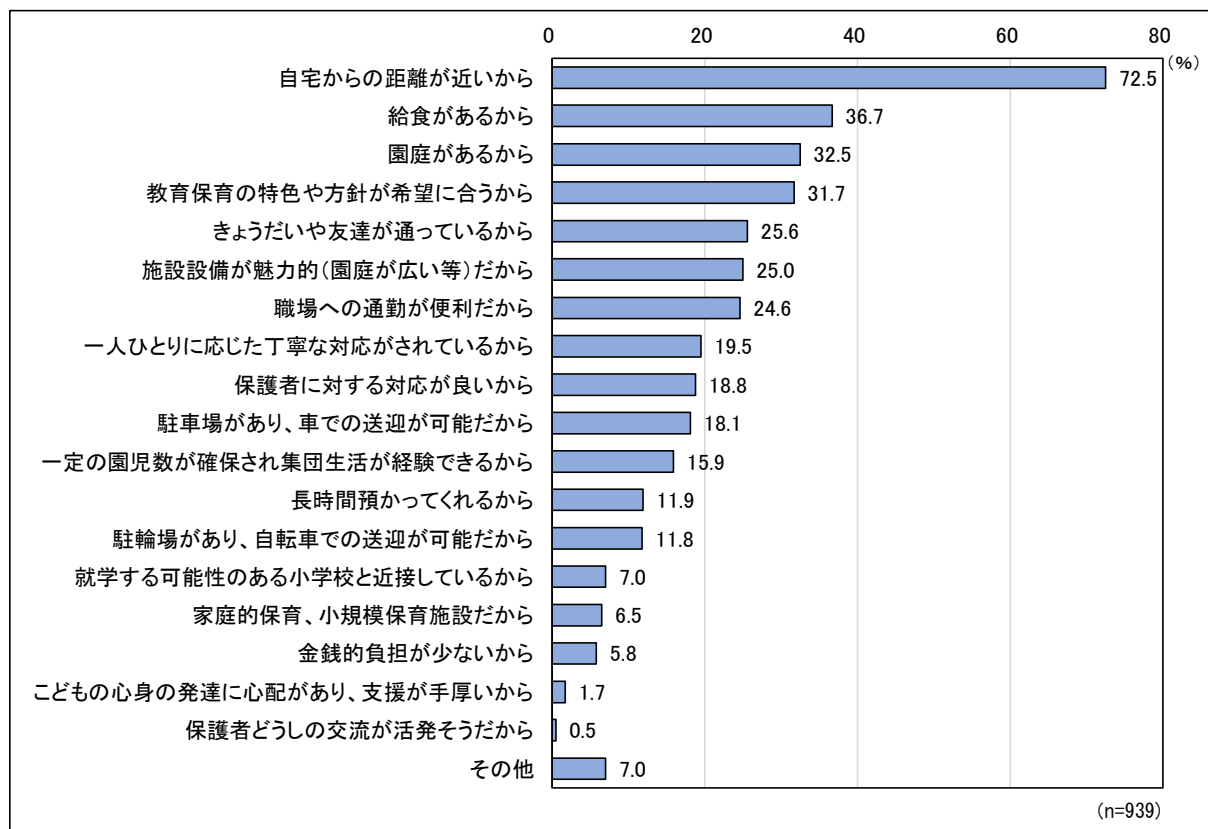
(単位: 件、%)

		合計	今後の復職予定					就労予定はない・わからない	その他
			フルタイムで働く予定	パートタイムで働く予定					
				120時間~/月	64時間~120時間/月	~64時間/月			
現在の就労状況	全体	822	46.0	8.9	8.4	5.4	28.0	3.4	
	育児休業中	499	70.7	11.6	8.2	0.8	4.2	4.4	
	未就労	323	7.7	4.6	8.7	12.4	64.7	1.9	

5. (2で、主に家庭で保育している以外を選んだ方) 現在の保育施設を選んだ理由についてお答えください。(MA)

現在の保育状況で「主に家庭で保育している」以外を選んだ方(=現在何らかの保育施設を利用している方)に対し、現在の保育施設を選んだ理由を尋ねました。その結果、「自宅からの距離が近いから(72.5%)」が最も多く、2位の「給食があるから(36.7%)」に倍近くの差をつけました。

3位は「園庭があるから(32.5%)」となりました。なお、園の施設設備に関するものとして、6位の「施設設備が魅力的(園庭が広い等)だから」も25.0%と比較的多くみられました。



■ 地域別・子どもの年齢別

現在の保育施設を選んだ理由を地域別にみると、「自宅からの距離が近いから」は、元町（76.5%）で多く、新町（66.8%）と10ポイント近い差がみられました。一方で「給食があるから」では、元町（31.4%）よりも新町（42.6%）のほうが多い結果となりました。

地域による差が大きかった項目として、「駐車場があるから」は、元町（10.5%）で少なく、中町（27.3%）と新町（22.5%）で多くなりました。

年齢別にみると、「給食があるから」は子どもの年齢が上がるにつれ、重視する傾向がみられました。また、「保護者に対する対応が良いから」は0歳（29.5%）で特に多く、1歳・2歳に比べて10ポイント近い差がみられたほか、「職場への通勤が便利だから」も0歳（31.3%）でやや多い傾向でした。

(単位:件、%)

	合計	自宅からの距離が近いから	給食があるから	園庭があるから	教育保育の特色や方針が希望に合うから	きょうだいや友達が通っているから	施設設備が魅力的だから	職場への通勤が便利だから	一人ひとりに応じた丁寧な対応だから	保護者に対する対応が良いから	駐車場があるから	集団生活が経験できるから	長時間預かってくれるから	駐輪場があるから	就学可能性のある小学校と近いから	家庭的保育、小規模保育施設だから	金銭的負担が少ないから	こどもの心身の発達支援が手厚いから	保護者どうしの交流が活発そうだから	その他	
全体	939	72.5	36.7	32.5	31.7	25.6	25.0	24.6	19.5	18.8	18.1	15.9	11.9	11.8	7.0	6.5	5.8	1.7	0.5	7.0	
地域	元町	59	76.5	31.4	32.1	32.3	26.2	23.5	24.0	17.9	19.1	10.5	17.7	9.2	9.9	6.1	5.6	5.2	1.1	0.2	6.7
	中町	54	71.1	40.6	34.1	32.1	28.9	25.7	23.7	22.5	20.9	27.3	14.5	17.7	14.9	8.8	8.8	6.0	2.4	0.8	7.2
	新町	101	66.8	42.6	31.6	30.3	20.9	27.0	26.6	19.3	16.4	22.5	13.9	11.1	12.3	7.0	5.7	6.6	2.0	0.8	7.4
年齢	0歳	112	72.3	31.3	35.7	31.3	24.1	30.4	31.3	21.4	29.5	17.0	15.2	13.4	12.5	7.1	4.5	8.0	2.7	2.7	4.5
	1歳	365	75.9	35.9	33.7	33.2	21.4	24.1	22.5	17.5	17.0	17.8	14.5	10.4	10.4	6.3	5.5	3.8	1.4	0.3	6.3
	2歳	462	69.9	38.7	30.7	30.7	29.2	24.5	24.7	20.6	17.7	18.6	17.1	12.8	12.8	7.6	7.8	6.7	1.7	0.2	8.2

■ 通っている施設別（利用者が多い施設順に掲載）

私立保育園は、「教育保育の特色や方針が希望に合うから（40.5%）」が、全体よりも8.8ポイント高い結果でした。

市立保育園は、「園庭があるから（44.1%）」が、全体よりも11.6ポイント高くなりました。

小規模保育事業は、「家庭的保育・小規模保育施設だから（47.4%）」が全体よりも40.9ポイント、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされているから（36.8%）」が17.4ポイント高い結果でした。

幼保連携型認定こども園は、「教育保育の特色や方針が希望に合うから（52.9%）」、「給食があるから（50.0%）」、「きょうだいや友達が通っているから（44.1%）」、「施設設備が魅力的（園庭が広い等）（41.2%）」が全体よりも10ポイント以上高くなりました。

家庭的保育事業は、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされているから（100.0%）」、「教育保育の特色や方針が希望に合うから（83.3%）」、「家庭的保育・小規模保育施設だから（83.3%）」、「保護者に対する対応が良いから（50.0）」が、全体よりも10ポイント以上高くなりました。

私立保育園

全体(n=469)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近いから	73.3	0.8
2位	教育保育の特色や方針が希望に合うから	40.5	8.8
3位	給食があるから	39.2	2.5
4位	きょうだいや友達に通っているから	30.3	4.7
5位	園庭があるから	29.9	▲ 2.6
6位	職場への通勤が便利だから	24.7	0.1
7位	施設設備が魅力的(園庭が広い等)だから	24.1	▲ 0.9
8位	保護者に対する対応が良いから	23.7	4.8
9位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされているから	23.0	3.5
10位	駐車場があり、車での送迎が可能だから	19.2	1.1

市立保育園

全体(n=345)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近いから	76.8	4.3
2位	園庭があるから	44.1	11.6
3位	給食があるから	33.3	▲ 3.4
4位	施設設備が魅力的(園庭が広い等)だから	28.7	3.7
5位	職場への通勤が便利だから	26.7	2.1
6位	きょうだいや友達に通っているから	20.0	▲ 5.6
7位	駐車場があり、車での送迎が可能だから	18.8	0.7
8位	一定の園児数が確保されていて集団生活が経験できるから	16.2	0.4
9位	教育保育の特色や方針が希望に合うから	14.8	▲ 17.0
10位	保護者に対する対応が良いから	13.9	▲ 4.9

小規模保育事業

全体(n=38)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近いから	63.2	▲ 9.4
2位	家庭的保育、小規模保育施設だから	47.4	40.9
3位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされているから	36.8	17.4
4位	教育保育の特色や方針が希望に合うから	31.6	▲ 0.2
5位	職場への通勤が便利だから	26.3	1.7
6位	給食があるから	26.3	▲ 10.4
7位	金銭的負担が少ないから	10.5	4.8
8位	保護者に対する対応が良いから	10.5	▲ 8.3
9位	きょうだいや友達が通っているから	7.9	▲ 17.7
10位	長時間預かってくれるから	5.3	▲ 6.7

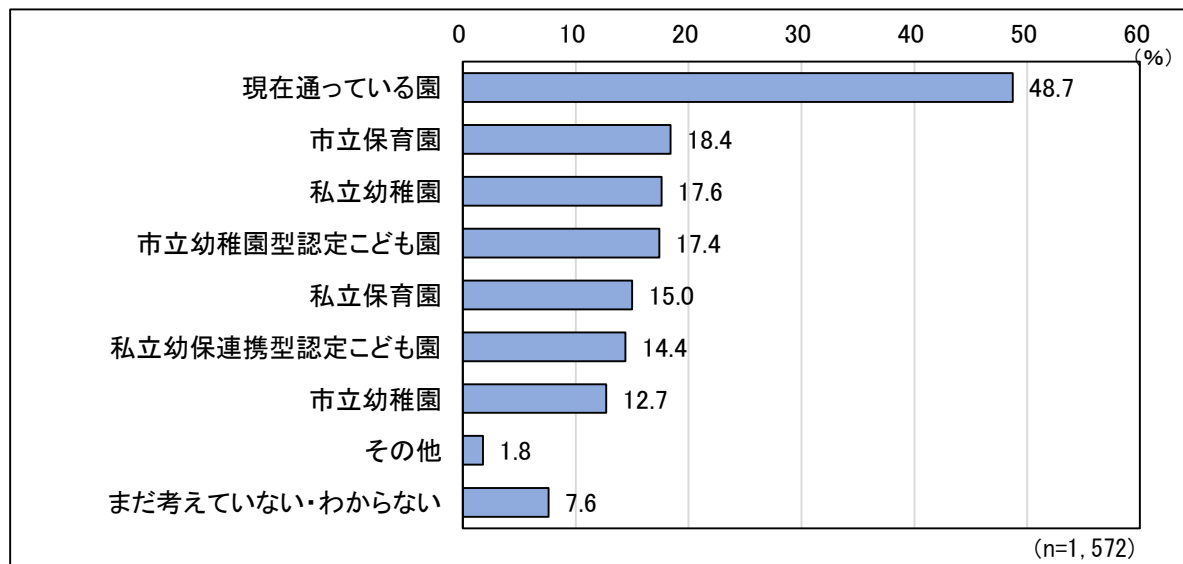
幼保連携型認定こども園

全体(n=34)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近いから	73.5	1.0
2位	教育保育の特色や方針が希望に合うから	52.9	21.2
3位	給食があるから	50.0	13.3
4位	きょうだいや友達が通っているから	44.1	18.6
5位	施設設備が魅力的(園庭が広い等)だから	41.2	16.1
6位	駐車場があり、車での送迎が可能だから	26.5	8.4
7位	一定の園児数が確保されていて集団生活が経験できるから	20.6	4.7
8位	長時間預かってくれるから	14.7	2.8
9位	就学する可能性のある小学校と近接しているから	14.7	7.7
10位	駐輪場があり、自転車での送迎が可能だから	11.8	▲ 0.1

家庭的保育事業

全体(n=12)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされているから	100.0	80.5
2位	教育保育の特色や方針が希望に合うから	83.3	51.6
3位	家庭的保育、小規模保育施設だから	83.3	76.8
4位	保護者に対する対応が良いから	50.0	31.2
5位	自宅からの距離が近いから	41.7	▲ 30.9
6位	給食があるから	25.0	▲ 11.7
7位	きょうだいや友達が通っているから	16.7	▲ 8.9
8位	就学する可能性のある小学校と近接しているから	16.7	9.6
9位	職場への通勤が便利だから	8.3	▲ 16.3
10位	施設設備が魅力的(園庭が広い等)だから	8.3	▲ 16.7

6. お子様が3歳以上になったとき、どのような保育・教育施設に通わせたいですか。(MA)
 子どもが3歳以上になった時に通わせたい施設について尋ねたところ、「現在通っている園(48.7%)」が最も多くなりました。次いで「市立保育園(18.4%)」、「私立幼稚園(17.6%)」、「市立幼稚園型認定こども園(17.4%)」などとなりました。



■ 地域別・子どもの年齢別

地域別では、「現在通っている園」、「市立保育園」では大きな差はありませんでしたが、「私立幼稚園」は新町(28.1%)で多い結果でした。

年齢別では、0歳では「市立保育園(34.2%)」と「私立保育園(26.4%)」も多くみられました。

(単位: 件、%)

	合計	現在通っている園	市立保育園	私立幼稚園	市立幼稚園型認定こども園	私立保育園	私立幼保連携型認定こども園	市立幼稚園	その他	まだ考えていない・わからない	
全体	1,572	48.7	18.4	17.6	17.4	15.0	14.4	12.7	1.8	7.6	
地域	元町	749	49.1	19.8	10.7	18.6	15.5	11.7	12.3	1.9	8.9
	中町	403	51.4	18.6	19.6	17.1	15.1	13.6	11.2	1.2	4.5
	新町	420	45.5	16.0	28.1	15.5	14.0	20.0	15.0	2.1	8.3
年齢	0歳	447	26.6	34.2	17.0	20.6	26.4	19.7	17.7	2.5	11.0
	1歳	512	54.5	13.1	16.8	16.4	11.7	14.1	11.5	1.4	10.2
	2歳	613	60.0	11.4	18.8	15.8	9.5	10.9	10.1	1.6	3.1

■ 現在の保育状況別

現在、主に家庭で保育している人は、「市立幼稚園型認定こども園（30.6%）」、「市立保育園（30.3%）」に通わせたいという回答がやや多かったものの、他の施設にも回答が分散する傾向がみられました。

現在、市立保育園、私立保育園、幼保連携型認定こども園を利用している人は、いずれも8割以上が「現在通っている園」に通わせたいという結果でした。

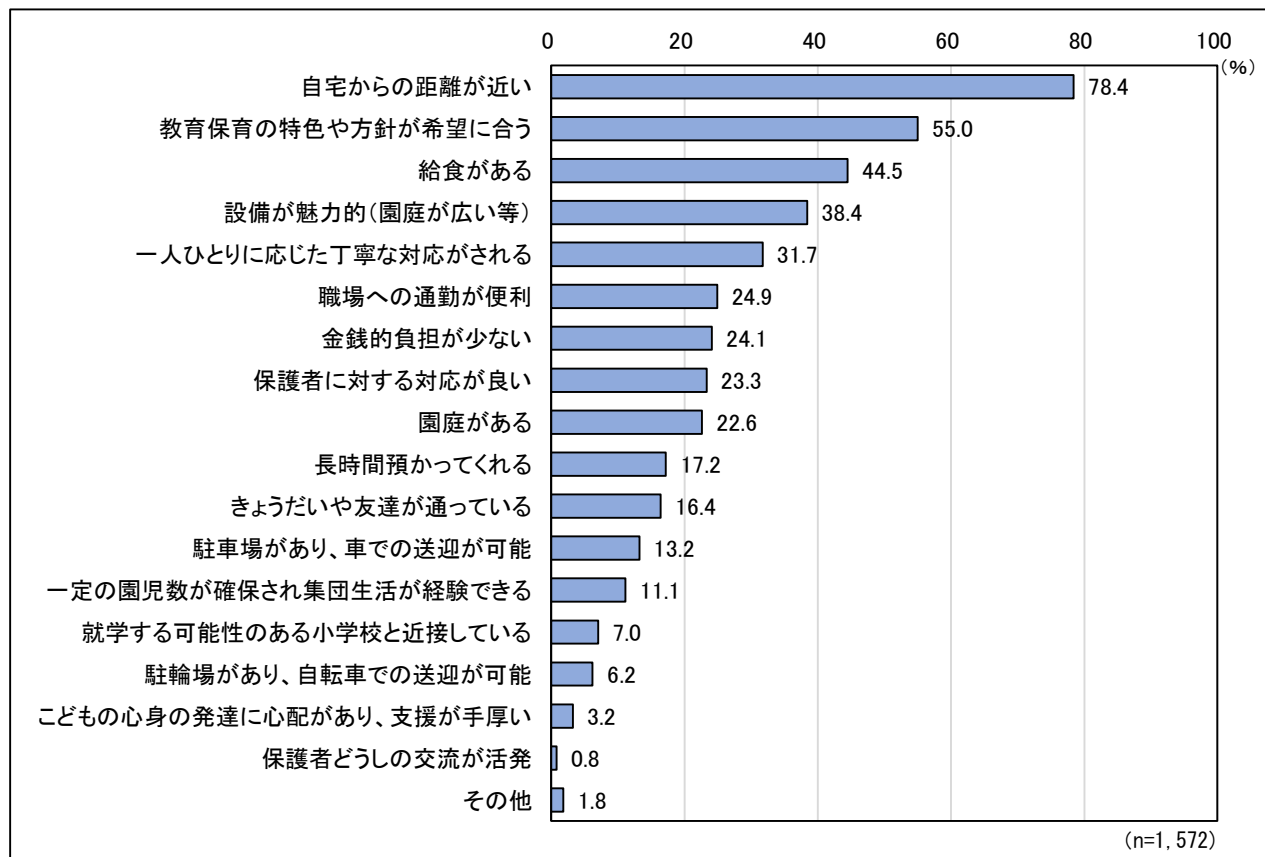
現在、小規模保育事業や、家庭的保育事業（保育ママ）を利用している人は、「市立保育園」や「私立保育園」などに通わせたいという人が多くなりました。

（単位：件、％）

		合計	現在通っている園	市立保育園	私立幼稚園	市立幼稚園型認定こども園	私立保育園	私立幼保連携型認定こども園	市立幼稚園	その他	まだ考えていない・
現在の保育状況	全体	1,572	48.7	18.4	17.6	17.4	15.0	14.4	12.7	1.8	7.6
	主に家庭で保育	633	7.4	30.3	29.1	30.6	24.2	21.0	24.6	1.4	11.1
	市立保育園	345	80.3	11.6	8.7	8.4	4.3	9.3	5.5	1.7	5.5
	私立保育園	469	81.2	6.4	8.7	8.3	9.8	10.0	3.6	1.5	4.3
	幼保連携型認定こども園	34	88.2	0.0	5.9	2.9	0.0	5.9	2.9	0.0	2.9
	小規模保育事業	38	18.4	42.1	15.8	10.5	36.8	15.8	7.9	7.9	15.8
	家庭的保育事業(保育ママ)	12	8.3	33.3	16.7	25.0	25.0	25.0	0.0	8.3	8.3
	その他	41	56.1	19.5	29.3	7.3	12.2	9.8	9.8	4.9	7.3

7. お子様が3歳以上になったとき、通わせたいと考えている保育・教育施設に対してどのような点を重視しますか。(MA)

子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設に重視する点は、「自宅からの距離が近い(78.4%)」が最も多く、次いで「教育保育の特色や方針が希望に合う(55.0%)」、「給食がある(44.5%)」などとなりました。



■ 地域別・子どもの年齢別

地域別では、「自宅からの距離が近い」は新町（73.1%）で他の地域よりも5ポイント程度少ない傾向がみられました。

一方で、「教育保育の特色や方針が希望に合う」は、新町（61.9%）が他の地域よりも5～10ポイント程度多く、「給食がある」についても、新町（52.1%）が他の地域よりも10ポイント程度多い結果となりました。

子どもの年齢別では、「自宅からの距離が近い」は0歳（82.3%）でやや多かったほか、「職場への通勤が便利」、「金銭的負担が少ない」も0歳が他の年齢よりも多い傾向がみられました。

一方で、「園庭がある」に関しては、0歳（17.0%）よりも1歳（25.6%）・2歳（24.1%）のほうが重視する傾向でした。

（単位：件、%）

	合計	自宅からの距離が近い	教育保育の特色や方針が希望に合う	給食がある	設備が魅力的（園庭が広い等）	一人ひとりに応じた丁寧な対応	職場への通勤が便利	金銭的負担が少ない	保護者に対する対応が良い	園庭がある	長時間預かってくれる	きょうだいや友達が通っている	駐車場があり、車での送迎が可能	一定の園児数が確保されていて 集団生活が経験できる	就学する可能性のある小学校と近接	駐輪場があり、自転車での送迎が可能	こどもの心身の発達に心配があり、 支援が手厚い	保護者どうしの交流が活発	その他	
全体	1,572	78.4	55.0	44.5	38.4	31.7	24.9	24.1	23.3	22.6	17.2	16.4	13.2	11.1	7.0	6.2	3.2	0.8	1.8	
地域	元町	749	81.0	51.1	41.3	37.0	31.9	27.0	25.5	26.7	21.6	16.2	16.7	8.3	13.0	7.5	5.6	3.9	0.8	1.6
	中町	403	79.2	54.8	42.4	36.0	33.0	22.8	25.8	22.8	22.1	17.9	15.9	16.9	9.2	8.4	5.5	2.2	0.5	2.7
	新町	420	73.1	61.9	52.1	43.1	30.2	23.3	20.0	17.9	24.8	18.3	16.4	18.3	9.5	4.8	8.1	3.1	1.0	1.2
年齢	0歳	447	82.3	55.7	41.6	41.2	35.8	29.1	30.9	25.1	17.0	19.9	12.3	13.0	10.7	5.1	6.0	2.7	0.4	1.3
	1歳	512	77.1	56.6	48.2	42.6	32.6	22.9	18.8	24.0	25.6	16.6	15.6	12.9	10.2	6.8	6.1	3.5	1.2	1.0
	2歳	613	76.7	53.0	43.4	32.8	28.1	23.7	23.7	21.5	24.1	15.7	20.1	13.5	12.1	8.5	6.5	3.4	0.7	2.8

■ 子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別（希望数が多い施設順に掲載）

市立保育園は、「金銭的負担が少ない（33.8%）」が全体よりも9.7ポイント、「自宅からの距離が近い（85.5%）」が全体よりも7.1ポイント高くなりました。

私立幼稚園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（76.9%）」が全体よりも21.9ポイント、「設備が魅力的（園庭が広い等）（48.0%）」が9.7ポイント、「給食がある（53.1%）」が8.6ポイント高い結果でした。

市立幼稚園型認定こども園は、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている（40.3%）」が全体よりも8.6ポイント、「金銭的負担が少ない（31.9%）」が7.8ポイント高くなりました。

私立保育園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（71.2%）」が全体よりも16.2ポイント高い結果でした。

幼保連携型認定こども園は、「教育保育の特色や方針が希望に合う（75.3%）」が全体よりも20.4ポイント高く、また、「設備が魅力的（園庭が広い等）（53.3%）」も全体よりも14.9ポイント高くなりました。

市立幼稚園は、「一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている（42.5%）」が全体よりも10.8ポイント、「金銭的負担が少ない（34.5%）」が10.4ポイント高い結果でした。

市立保育園

全体(n=290)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	85.5	7.1
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	51.7	▲ 3.2
3位	給食がある	46.9	2.4
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	42.4	4.1
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	36.2	4.5
6位	金銭的負担が少ない	33.8	9.7
7位	職場への通勤が便利	31.4	6.4
8位	園庭がある	21.7	▲ 0.9
9位	長時間預かってくれる	21.0	3.9
10位	保護者に対する対応が良い	20.7	▲ 2.7

私立幼稚園

全体(n=277)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	教育保育の特色や方針が希望に合う	76.9	21.9
2位	自宅からの距離が近い	63.5	▲ 14.9
3位	給食がある	53.1	8.6
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	48.0	9.7
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	39.4	7.6
6位	園庭がある	30.0	7.4
7位	金銭的負担が少ない	20.9	▲ 3.2
8位	長時間預かってくれる	18.4	1.2
9位	きょうだいや友達が通っている	16.6	0.2
10位	保護者に対する対応が良い	15.2	▲ 8.2

市立幼稚園型認定こども園

全体(n=273)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	83.2	4.7
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	62.3	7.3
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	42.1	3.8
4位	給食がある	40.7	▲ 3.8
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	40.3	8.6
6位	金銭的負担が少ない	31.9	7.8
7位	園庭がある	27.8	5.3
8位	保護者に対する対応が良い	21.6	▲ 1.7
9位	職場への通勤が便利	17.2	▲ 7.7
10位	長時間預かってくれる	16.1	▲ 1.1

私立保育園

全体(n=236)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	82.6	4.2
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	71.2	16.2
3位	給食がある	46.6	2.1
4位	設備が魅力的(園庭が広い等)	45.8	7.4
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	36.9	5.1
6位	職場への通勤が便利	29.7	4.7
7位	保護者に対する対応が良い	24.6	1.2
8位	金銭的負担が少ない	22.9	▲ 1.2
9位	園庭がある	21.6	▲ 1.0
10位	駐車場があり、車での送迎が可能	17.8	4.6

幼保連携型認定こども園

全体(n=227)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	教育保育の特色や方針が希望に合う	75.3	20.4
2位	自宅からの距離が近い	72.2	▲ 6.2
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	53.3	14.9
4位	給食がある	49.8	5.3
5位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	38.8	7.0
6位	金銭的負担が少ない	23.3	▲ 0.8
7位	駐車場があり、車での送迎が可能	21.1	8.0
8位	職場への通勤が便利	20.7	▲ 4.2
9位	長時間預かってくれる	20.3	3.1
10位	保護者に対する対応が良い	18.9	▲ 4.4

市立幼稚園

全体(n=200)		割合(%)	全体との差(pt)
1位	自宅からの距離が近い	81.0	2.6
2位	教育保育の特色や方針が希望に合う	61.5	6.5
3位	設備が魅力的(園庭が広い等)	44.0	5.6
4位	一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	42.5	10.8
5位	給食がある	38.5	▲ 6.0
6位	金銭的負担が少ない	34.5	10.4
7位	園庭がある	31.5	8.9
8位	保護者に対する対応が良い	22.0	▲ 1.3
9位	職場への通勤が便利	16.5	▲ 8.4
10位	長時間預かってくれる	13.0	▲ 4.2

■ 現在の保育施設を選んだ理由との比較

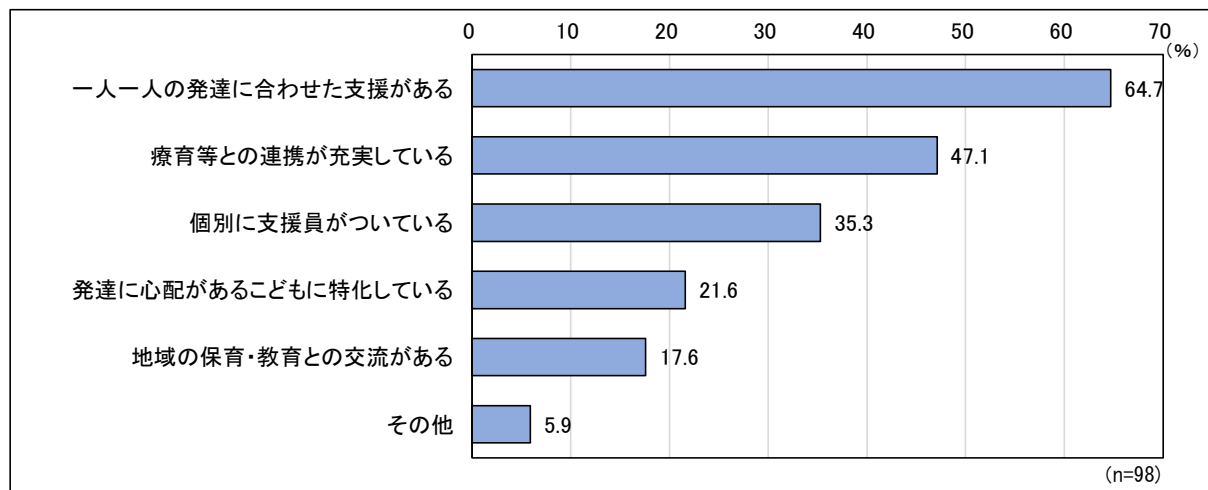
現在の保育施設を選んだ理由と比較したところ、3歳以上になったときに通わせたい施設のほうが重視度が高い項目は、「教育保育の特色や方針が希望に合う(23.3ポイント差)」や「金銭的負担が少ない(18.3ポイント差)」、「施設設備が魅力的(園庭が広い等)(13.4ポイント差)」などとなりました。

一方で、3歳以上になったときに通わせたい施設のほうが重視度が低い項目は、「園庭がある(▲9.9ポイント差)」、「きょうだいや友達が通っている(▲9.2ポイント差)」などとなりました。

	現在利用している①	3歳以上で通わせたい②	差②-①
教育保育の特色や方針が希望に合う	31.7	55.0	23.3
金銭的負担が少ない	5.8	24.1	18.3
施設設備が魅力的(園庭が広い等)	25.0	38.4	13.4
一人ひとりに応じた丁寧な対応がされている	19.5	31.7	12.2
給食がある	36.7	44.5	7.8
自宅からの距離が近い	72.5	78.4	5.9
長時間預かってくれる	11.9	17.2	5.3
保護者に対する対応が良い	18.8	23.3	4.5
こどもの心身の発達に心配があり、支援が手厚い	1.7	3.2	1.5
保護者どうしの交流が活発(そう)	0.5	0.8	0.3
職場への通勤が便利	24.6	24.9	0.3
就学する可能性のある小学校と近接している	7.0	7.0	0.0
一定の園児数が確保され集団生活が経験できる	15.9	11.1	▲ 4.8
駐車場があり、車で送迎が可能	18.1	13.2	▲ 4.9
その他	7.0	1.8	▲ 5.2
駐輪場があり、自転車での送迎が可能	11.8	6.2	▲ 5.6
きょうだいや友達が通っている	25.6	16.4	▲ 9.2
園庭がある	32.5	22.6	▲ 9.9

8. (7でこどもの心身の発達に心配があり、支援が手厚い施設と答えた方) どのような施設を希望しますか。(MA)

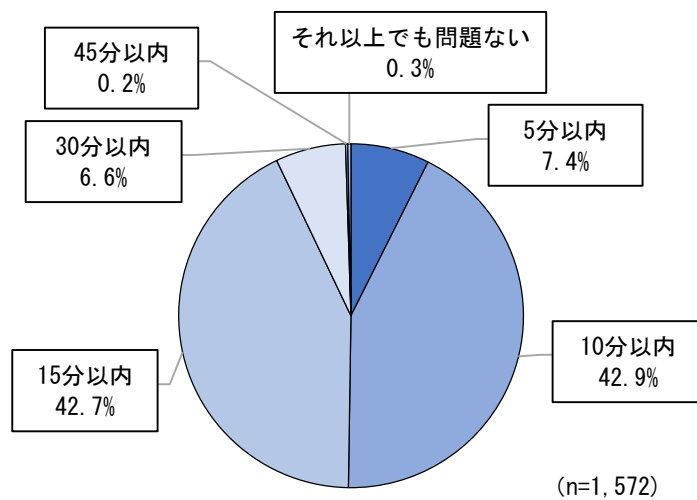
子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設に重視する点で、「こどもの心身の発達に心配があり、支援が手厚い」を選んだ方に対し、具体的にどのような施設を希望するか尋ねました。その結果、「一人一人の発達に合わせた支援がある(64.7%)」が最も多く、次いで「療育等との連携が充実している(47.1%)」などとなりました。



9. 保育・教育施設への許容できる通園時間（片道）はどの程度までですか。（SA）

保育・教育施設への許容できる通園時間を尋ねたところ、「10分以内（42.9%）」が最も多く、次いで「15分以内（42.7%）」となりました。

15分以内（含む「5分以内」、「10分以内」）を希望する人は、合わせて93.0%を占めました。

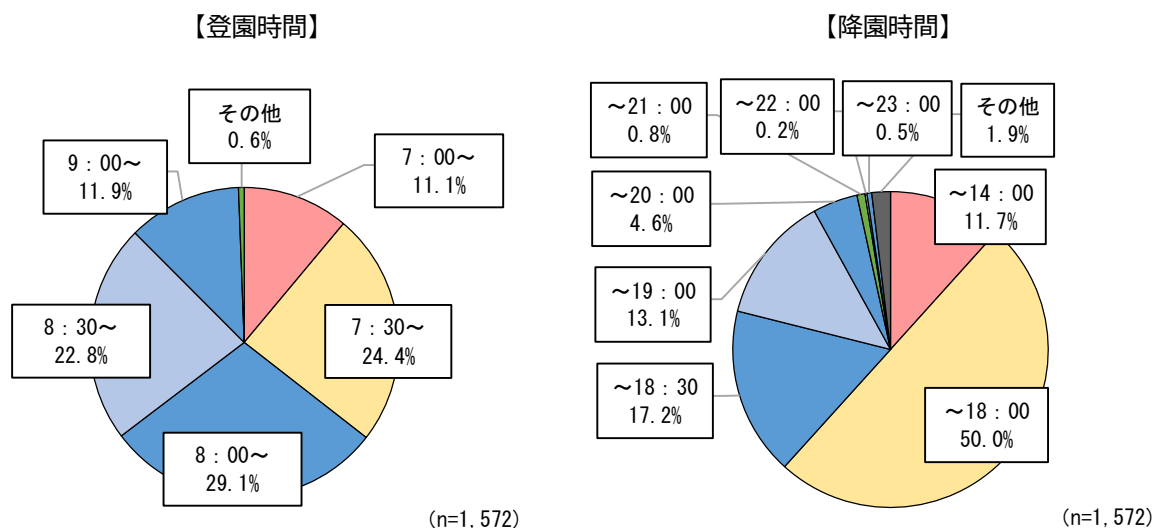


10. 登園・降園時間は何時を希望しますか。(SA)

希望登園時間は、「8:00～(29.1%)」が最も多く、次いで「7:30～(24.4%)」、「8:30～(22.8%)」となりましたが、時間帯は比較的分散する傾向がみられました。

一方、希望降園時間は、「～18:00(50.0%)」が半数を占めました。次いで「～18:30(17.2%)」、「～19:00(13.1%)」となりました。

なお、早い時間帯(～14:00)の希望は11.7%、遅い時間帯(20:00～23:00)の希望は合計6.1%と、一定数みられました。



■ 希望登園時間×希望降園時間(実数)

希望登園時間・降園時間の関係を実数でみると、ボリュームゾーンは「8:00～18:00(261件)」、「8:30～18:00(216件)」、「7:30～18:00(171件)」などとなりました。

希望降園時間が早い方(～14:00)は、希望登園時間が遅く(9:00～や8:30～)、比較的短時間の預りを希望する傾向があった一方で、希望降園時間が遅い方(20:00～23:00)は、希望登園時間が早く(7:00～)、比較的長時間の預りを希望する傾向がみられました。

(単位:件)

		希望降園時間								
		～14:00	～18:00	～18:30	～19:00	～20:00	～21:00	～22:00	～23:00	その他
希望登園時間	7:00～	1	47	26	60	28	7	1	5	0
	7:30～	5	171	116	64	22	4	0	0	2
	8:00～	28	261	90	55	15	0	1	1	7
	8:30～	73	216	34	19	5	1	1	0	9
	9:00～	77	90	5	7	1	0	0	0	7
	その他	0	1	0	1	1	0	0	2	5

■ 子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別

希望登園時間は、市立保育園、私立保育園、私立幼保連携型認定こども園では「7:30～」、「8:00～」が比較的多く、市立幼稚園、市立幼稚園型認定こども園、私立幼稚園では「8:00～」、「8:30～」、「9:00～」が比較的多くみられました。

希望降園時間は、市立保育園、私立保育園、私立幼保連携型認定こども園では「～18:00」で特に多くみられました。市立幼稚園、市立幼稚園型認定こども園、私立幼稚園についても「～18:00」が最も多く、次いで「～14:00」という結果でした。

【希望登園時間】

(単位:件、%)

	合計	7:00～	7:30～	8:00～	8:30～	9:00～	その他
全体	1,572	11.1	24.4	29.1	22.8	11.9	0.6
現在通っている園	766	13.3	28.6	32.0	20.4	5.2	0.5
市立保育園	290	15.2	30.7	31.4	16.9	5.9	0.0
私立保育園	236	14.0	32.6	25.0	23.7	4.7	0.0
私立幼保連携型認定こども園	227	12.3	24.7	30.0	21.1	11.0	0.9
市立幼稚園	200	7.0	13.0	26.0	28.0	25.5	0.5
市立幼稚園型認定こども園	273	8.4	17.9	23.4	28.2	21.2	0.7
私立幼稚園	277	5.8	13.0	26.0	31.0	24.2	0.0

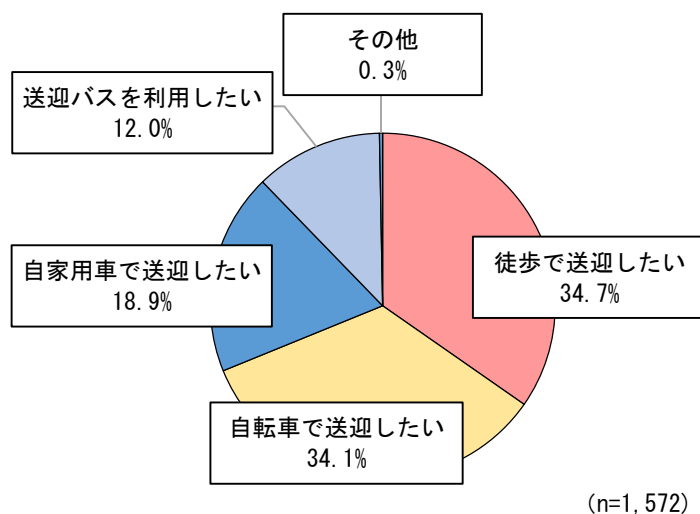
【希望降園時間】

(単位:件、%)

	合計	～14:00	～18:00	～18:30	～19:00	～20:00	～21:00	～22:00	～23:00	その他
全体	1,572	11.7	50.0	17.2	13.1	4.6	0.8	0.2	0.5	1.9
現在通っている園	766	1.7	56.5	19.5	13.8	5.7	0.5	0.0	0.9	1.3
市立保育園	290	2.8	46.2	24.5	19.0	4.1	1.4	0.3	0.3	1.4
私立保育園	236	3.8	46.2	22.9	17.8	5.9	1.7	0.4	0.4	0.8
私立幼保連携型認定こども園	227	11.0	48.0	18.1	13.2	5.3	1.8	0.4	0.4	1.8
市立幼稚園	200	33.0	39.5	8.0	9.0	5.5	0.5	0.0	0.5	4.0
市立幼稚園型認定こども園	273	24.9	45.1	12.8	10.6	2.6	0.4	0.4	0.4	2.9
私立幼稚園	277	30.3	47.3	7.6	6.9	2.2	1.4	0.4	0.4	3.6

11. 送迎手段について、どのような手段を希望しますか。(MA)

希望する送迎手段は、「徒歩で送迎したい(34.7%)」が最も多く、次いで「自転車で送迎したい(34.1%)」、「自家用車で送迎したい(18.9%)」となりました。



■ 地域別・子どもの年齢別

地域別にみると、「徒歩で送迎したい」は、元町(73.2%)で多く、新町(55.5%)では比較的少ない傾向でした。

「自転車で送迎したい」は、地域による顕著な差はみられませんでした。

「自家用車で送迎したい」は、元町(26.3%)では少なく、中町(42.4%)と新町(46.7%)では比較的多くみられました。

「送迎バスを利用したい」は、新町(34.5%)で特に多くみられました。

子どもの年齢別にみると、「徒歩で送迎したい」は子どもの年齢が上がるにつれて少なくなる一方、「自家用車で送迎したい」は、子どもの年齢が上がるにつれて多くなりました。

(単位: 件、%)

		合計	徒歩で送迎したい	自転車で送迎したい	自家用車で送迎したい	送迎バスを利用したい	その他
全体		1,572	65.9	64.8	35.9	22.7	0.6
地域	元町	749	73.2	62.2	26.3	15.1	0.3
	中町	403	63.3	64.5	42.4	24.6	0.2
	新町	420	55.5	69.5	46.7	34.5	1.7
年齢	0歳	447	75.2	60.6	33.8	23.3	0.4
	1歳	512	65.4	66.4	34.0	24.4	0.8
	2歳	613	59.5	66.4	39.0	20.9	0.7

■ 子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別

「徒歩で送迎したい」は、ほとんどの施設で最も多くみられましたが、私立幼保連携型認定こども園と私立幼稚園では、「自転車で送迎したい」のほうが上回りました。

また、私立幼保連携型認定こども園と私立幼稚園は、「自家用車で送迎したい」も他の施設に比べて多い傾向がみられました。

「送迎バスを利用したい」は、現在通っている園では13.6%と少なかった一方で、私立幼稚園（56.3%）、市立幼稚園（38.0%）、私立幼保連携型認定こども園（35.7%）などでは多く、施設による差が大きくなりました。

(単位: 件、%)

	合計	徒歩で 送迎したい	自転車で 送迎したい	自家用車で 送迎したい	送迎バスを 利用したい	その他
全体	1,572	65.9	64.8	35.9	22.7	0.6
現在通っている園	766	66.7	65.8	39.2	13.6	0.7
市立保育園	290	71.4	65.9	33.8	20.3	1.0
私立保育園	236	70.3	64.0	38.6	24.6	0.0
私立幼保連携型認定こども園	227	62.6	69.2	43.2	35.7	0.4
市立幼稚園	200	72.0	61.5	32.5	38.0	0.5
市立幼稚園型認定こども園	273	73.3	67.4	29.7	31.1	0.0
私立幼稚園	277	59.2	61.0	36.5	56.3	1.1

■ 許容できる通園時間との関連性

保育・教育施設への許容できる通園時間との関連性をみると、徒歩では「10分以内(45.0%)」が最も多く、次いで「15分以内(40.3%)」、「5分以内(8.7%)」が多くなりました。

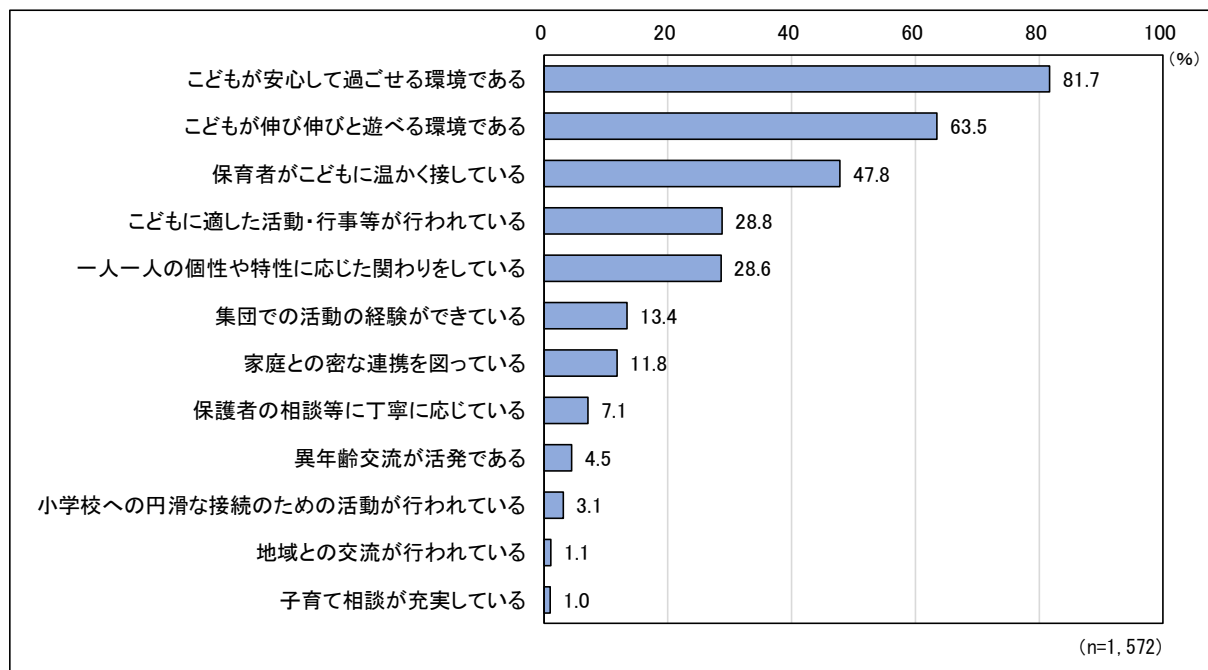
自転車、自家用車、送迎バスでは、「15分以内」が最も多くみられました。

(単位: 件、%)

		合計	5分以内	10分以内	15分以内	30分以内	45分以内	それ以上でも 問題ない
希望 送迎 手段	全体	1,572	7.4	42.9	42.7	6.6	0.2	0.3
	徒歩	1,036	8.7	45.0	40.3	5.7	0.0	0.3
	自転車	1,018	4.7	41.7	46.5	6.9	0.0	0.2
	自家用車	564	4.8	38.8	48.4	7.4	0.0	0.5
	送迎バス	357	3.9	32.2	50.4	11.8	0.8	0.8
	その他	10	0.0	30.0	40.0	30.0	0.0	0.0

12. 教育保育の特色や方針について、特にどのような点を重視しますか。(MA)

教育保育の特色や方針について特に重視する点を尋ねたところ、「こどもが安心して過ごせる環境である(81.7%)」が最も多く、次いで「こどもが伸び伸びと遊べる環境である(63.5%)」、「保育者がこどもに温かく接している(47.8%)」などとなりました。



■ 地域別・子どもの年齢別

地域別では、「こどもが安心して過ごせる環境である」は地域による差はそれほどありませんでしたが、「こどもが伸び伸びと遊べる環境である」は、元町(58.3%)で比較的少なく、新町(71.9%)でやや多くみられました。

子どもの年齢別では、いずれの選択肢においても顕著な差はみられませんでした。

(単位: 件、%)

	合計	こどもが安心して過ごせる環境である	こどもが伸び伸びと遊べる環境である	保育者がこどもに温かく接している	こどもに適した活動・行事等が行われている	一人一人の個性や特性に応じた関わりをしている	集団での活動の経験ができています	家庭との密な連携を図っている	保護者の相談等に丁寧に応じている	異年齢交流が活発である	小学校への円滑な接続のための活動が行われている	子育て相談が充実している	地域との交流が行われている	その他	
全体	1,572	81.7	63.5	47.8	28.8	28.6	13.4	11.8	7.1	4.5	3.1	1.0	1.1	0.8	
地域	元町	749	83.6	58.3	46.2	28.2	28.7	15.9	12.8	7.2	5.3	3.1	0.8	1.1	0.7
	中町	403	77.9	64.5	46.9	31.8	30.0	10.4	13.4	7.9	3.0	3.5	1.2	1.2	1.0
	新町	420	81.9	71.9	51.7	27.1	26.9	11.9	8.3	6.0	4.5	2.6	1.0	1.0	1.0
年齢	0歳	447	83.0	62.0	48.3	27.3	32.2	10.7	15.7	7.4	2.9	1.3	1.6	1.8	0.2
	1歳	512	80.7	65.4	48.0	30.7	26.2	15.2	10.5	7.0	5.1	4.1	0.6	0.4	0.8
	2歳	613	81.6	63.1	47.3	28.4	27.9	13.9	10.0	6.9	5.2	3.4	0.8	1.1	1.3

■ 子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別

子どもが3歳以上になったときに通わせたい施設別にみると、施設による顕著な差はみられず、上位3位（「こどもが安心して過ごせる環境である」～「保育者がこどもに温かく接している」）の順位は、すべての施設において同じでした。

「こどもに適した活動・行事等が行われている」は、私立幼稚園（33.6%）や私立幼保連携型認定こども園（33.0%）で比較的多くみられました。

「家庭との密な連携を図っている」は、私立保育園（15.7%）や、市立保育園（15.2%）など、保育施設で比較的多い結果でした。

（単位：件、%）

	合計	こどもが安心して過ごせる環境である	こどもが伸び伸びと遊べる環境である	保育者がこどもに温かく接している	こどもに適した活動・行事等が行われている	一人一人のこどもの個性や特性に応じた関わりをしている	集団での活動の経験ができています	家庭との密な連携を図っている	保護者の相談等に丁寧に応じている	異年齢交流が活発である	小学校への円滑な接続のための活動が行われている	子育て相談が充実している	地域との交流が行われている	その他
全体	1,572	81.7	63.5	47.8	28.8	28.6	13.4	11.8	7.1	4.5	3.1	1.0	1.1	0.8
現在通っている園	766	82.2	62.5	49.7	28.6	26.8	14.1	11.6	6.4	5.6	3.1	0.4	0.7	0.5
市立保育園	290	83.4	62.4	50.3	25.2	32.8	9.3	15.2	7.2	3.1	2.1	1.0	1.0	0.7
私立保育園	236	78.8	62.3	45.3	30.1	35.2	12.7	15.7	6.4	4.2	2.1	1.3	1.7	1.7
私立幼保連携型認定こども園	227	78.9	64.8	45.4	33.0	33.0	11.9	13.2	5.7	3.1	3.1	0.4	1.3	1.8
市立幼稚園	200	85.0	63.0	48.0	26.0	34.0	12.0	10.0	6.5	1.5	3.0	2.0	1.0	0.5
市立幼稚園型認定こども園	273	82.8	58.6	45.1	29.3	32.2	17.2	11.7	7.7	2.6	4.0	1.5	1.5	1.1
私立幼稚園	277	79.4	67.1	44.4	33.6	30.7	14.8	6.9	6.1	4.7	3.2	0.7	1.8	1.4

3.「未就学児保育・教育施設の適正配置検討委員会」委員名簿

令和6年度

	区分	氏名	役職
1	学識経験者	砂上 史子	千葉大学教育学部 教授
2	行政の代表	山崎 礼子	健康こども部 部長
3	行政の代表	野崎 雄大	総務部 部長
4	行政の代表	内田 直樹	企画部 部長
5	行政の代表	宇田川 勝正	財務部 部長
6	行政の代表	須賀 真	都市政策部 部長
7	行政の代表	大塚 一樹	教育総務部 部長
8	行政の代表	高梨 智子	健康こども部保育幼稚園課 堀江認定こども園 園長
9	行政の代表	三枝 園香	健康こども部保育幼稚園課 猫実保育園 園長

令和7年度

	区分	氏名	役職
1	学識経験者	砂上 史子	千葉大学教育学部 教授
2	行政の代表	山崎 礼子	健康こども部 部長
3	行政の代表	大塚 一樹	総務部 部長
4	行政の代表	森 武夫	企画部 部長
5	行政の代表	宇田川 勝正	財務部 部長
6	行政の代表	須賀 真	都市政策部 部長
7	行政の代表	秋本 豊	教育総務部 部長
8	行政の代表	佐々木 祐子	健康こども部保育幼稚園課 北部認定こども園 園長
9	行政の代表	三枝 園香	健康こども部保育幼稚園課 猫実保育園 園長

令和 8 年 3 月

浦安市未就学児保育・教育施設の
適正配置等に関する調査報告書

浦安市